

獨逸國政府ハ前項ノ如キモノ若ハ其ノ家族ニ對シ何等ノ訴訟手續ヲ執ラス又如何ナル種類ノ壓迫若ハ迫害ヲモ加ヘサルコトヲ約ス

### 第八條

聯合諸國政府ハ獨逸人民送還ニ對シ現ニ獨逸國內ニ在ル聯合諸國ノ俘虜並人民ニ關スル遲滯ナキ通告並回報ヲ條件トシテ權利ヲ留保ス

### 第九條

獨逸國政府ハ次ノ各項ヲ約ス

(一) 行衛不明者探索委員ニ對シ凡ユル便宜ヲ供與スルコト、同委員ノ爲必要ナル輸送ノ方法ヲ講スルコト、同委員ニ收容所、監獄、病院等ノ場所ニ出入スルコトヲ許可スルコト並同委員ノ調査ヲ容易ナラシムヘキ公私ノ書類全部ヲ同委員ニ提出スヘキコト

(二) 聯合諸國臣民ノ所在ヲ隠匿シ若ハ其ノ所在ヲ知ツテ之ヲ通知ヲ怠ルカ如キ獨逸官吏並人民ヲ處罰スルコト

### 第十條

獨逸國政府ハ現條約效力發生後遲滯ナク聯合國臣民、所有ニ屬セシ物品、現金、證券及書類ニシテ獨逸官憲ノ押收シタルモノ全部ヲ返還スルコトヲ約ス

### 第十一條

交戦各國ノ俘虜抑留民ニシテ收容期間死亡シタルモノ墓地ハ本條約ノ規定ニ從ヒ適當ノ維持方法ヲ講スルヲ約ス尙聯合國政府並獨逸政府ハ相互ニ次ノ各項ヲ約ス

(一) 總テノ死亡者認識材料ト共ニ遺漏ナキ死亡者名簿ヲ提供スルコト

(二) 認識不明ノ儘ニ埋葬シタルモノノ墓數及其ノ位置ニ關スル總テノ報告ヲ提供スルコト

大正八年六月十五日調

## 千九百十九年巴里講和會議ノ經過ニ關スル調書（其八）

（自五月一日至同月十五日）

## 目 次

### 経過一覽

経過詳報（詳細ノ目次ハ各項ノ冒頭ニ記載セリ）

一、對獨講和商議ノ經過(其二).....	一
二、對墺講和商議ノ經過(其一).....	三一
三、聯合與國總會議並講和打合會(附關係諸事項).....	三三
四、國際聯盟委員會.....	七七
五、損害補償委員會.....	八一
六、開戰責任及制裁調查委員會(責任委員會).....	八七
七、港灣水路及鐵道ニ關スル國際研究委員會(交通委員會).....	八九
八、航空委員會.....	九三
九、經濟委員會.....	九七
十、國際勞動法委員會.....	九九

○千九百十九年巴里講和會議經過一覽（其八）

月	日	會 議 ノ 性 質	議 事
五 月 一 日	五 月 一 日	首 相 及 外 相 會 議	海底電線問題（承前）
五 月 二 日	五 月 二 日	首 相 及 外 相 會 議	甲、講和ニ對スル獨逸側ノ意嚮ニ付米國諜報省 ノ電報披露 乙、對獨講和條件提示ニ付伊國大使へ通知ノ件 丙、塊島國委員招致ノ件
五 月 三 日	五 月 三 日	獨逸委員ノ委任狀審查委員會 損害補償委員會第三分科會（第四次） 五大臣會議	海底電線問題（承前） 獨逸委員ノ代表權ニ關シ佛國委員提議 本分科會ノ意見決定方ニ關スル件 甲、獨逸殖民地委任統治ト白耳義 乙、芬蘭獨立承認問題 丙、「チエック、スローヴァツク」國境問題 獨逸委員ノ代表權ニ關スル意見決定
五 月 四 日	五 月 四 日	獨逸委員ノ委任狀審查委員會 賠償ニ關スル相談會 條約起草委員會	甲、白耳義ノ優先賠償權及戰時公債辨償權等 乙、聯合國間ニ於ル賠償金額ノ分配問題 對獨條約案文起草終了 獨逸委員ノ全權委任狀承認
		獨逸委員ノ全權委任狀承認 講 和 打 合 會 關 係 事 項	山東問題ニ關スル支那側「ステートメント」公表 (其二)

			五 月 五 日	最 高 經 濟 會 議
			五 月 六 日	國 際 聯 盟 準 備 委 員 會
			五 月 七 日	講 和 打 合 會 關 係 事 項
			五 月 八 日	聯合與國總會議(第六回)
五 月 十 日	五 月 九 日	五 月 八 日(?)	五 月 八 日	獨逸側質疑事項審查委員會
波 蘭 委 員 會	交 通 委 員 會	大 臣 會 議	大 臣 會 議	三國首相會議ノ議決ニ基キ成立ス
首相及外相會議	講和打合會關係事項 對獨講和商議關係事項	獨逸側質疑事項審查委員會	英 米 佛 首 相 會 議	匈牙利國境問題討議 一、「ルーマニア」トノ境界 二、「ユーゴー、スラブ」トノ境界 三、「ユーゴー、スラブ」トノ境界 四、「チエツク、スローゲアツク」トノ境界 甲、埃及ト「チエツク」及「ユーゴー、スラブ」ト ノ國境問題 乙、白耳義中立ニ關スル條約改訂會議ノ件 丙、獨國新國旗制定ニ關スル白耳義抗議ノ件 丁、波羅的諸州救援問題 戊、洪牙利封鎖撤去ノ件
	國際四協約案審議延期 埃及ト「ユーゴー、スラブ」トノ國境問題(承前) 朝鮮人獨立陳情	甲、講和條約案ノ根本主義並實行能否ニ關スル 獨逸側抗議(附回答) 乙、國際聯盟案提出 丙、國際勞動法制ニ關スル獨逸ノ抗議提出 「リチュニア」代表者ノ意見聽取(講和打合會 ノ部ニ在リ)	華盛頓勞動會議第一回準備委員會 (第一次)	甲、山東問題ニ關スル日本ノ態度公表 乙、同上支那側「スマートメント」公表(其二) 對獨講和條件ヲ聯合各國代表者ニ通知ス 一、戰爭責任問題 二、講和條件大要報告(?) 三、英米ノ對俄援兵保障 (附、本件ニ關スル公表) 諸決定事項(翌日ノ分モ含ム)
			華盛頓勞動會議第一回準備委員會 (第二次)	甲、準備委員會ヨリ各國政府宛ニ發送スヘキ書 狀案 乙、總會ノ議事規則 丙、主要工業八箇國ヲ決定スル標準 丁、國際勞動局設置準備 戊、次回ノ準備委員會 山東問題ニ關スル支那ノ抗議提出 獨逸委員へ條約案文交付 ○「クレマンソウ」演說 ○「プロックドルフ、ランツァウ」演說 國際聯盟委任統治國決定 (附、「ヤツブ」島問題) 議事ハ前日ノ部ニ併セ記載セリ

「ベルン」社會黨會議實行委員會  
(講和會議ノ一部ニハ非ス)

甲、塊國ト「ユーポー、スラブ」國境  
乙、塊洪兩國間國境  
丙、「チエツク」ト塊國トノ國境及洪牙利ト羅、  
「ユーポー、スラブ」「チエツク」トノ國境  
講和條件ニ關スル宣言書發表  
(講和打合會ノ部ニ在リ)

五月十三日

對獨講和商議關係事項  
對獨講和商議關係事項

甲、歐洲內政治條項ニ關スル獨逸側抗議提出  
乙、賠償ト責任トノ關係ニ關スル獨逸側抗議提出  
丙、經濟條項ニ關スル獨逸側抗議提出  
出

五月十四日

勞動事項質疑審查委員會  
對獨講和商議關係事項

甲、白耳義ニ關スル千八百三十九年條約改正ノ  
手續  
乙、在獨露國人俘虜送還ノ件  
丙、(脫)  
丁、「シユレスヴァイツヒ」地方人民投票ノ為各國  
派兵ノ件  
戊、「ガリシャ」及「テツシエン」問題  
(講和打合會ノ部ニ在リ)  
甲、在巴里露國政治會議代表者ノ意見聽取  
乙、獨逸ト露國過激派トノ聯絡

波蘭委員會

對獨講和商議關係事項

甲、白耳義ニ關スル千八百三十九年條約改正ノ  
手續

五月十五日

對獨講和商議關係事項  
獨逸領土問題質疑審查委員會

俘虜歸還條項ニ對スル獨逸側抗議提出  
支那關係條約案(山東以外ノ分)ニ對スル支那側  
對獨回答案作製

對獨回答案作製發送  
支那關係條約案(山東以外ノ分)ニ對スル支那側  
ノ抗議提出  
(講和打合會ノ部ニ在リ)

甲、本委員會ノ審議事項決定  
乙、「リガ」及「バルチック」諸邦救援問題

獨逸ノ勞動同盟加入問題ニ關シ五國會議へ回答  
賠償ノ一部トシテ取得スヘキ敵國船舶ニ關スル  
件

甲、前獨帝ヲ審問スヘキ特別裁判所ニ關スル委員  
乙、軍事裁判所ノ件

甲、自由通過問題殊ニ本邦人ノ米國通過問題  
乙、國際鐵道ニ關係事項  
一、國際鐵道協約案ニ關スル佛國專門委員ノ  
意見

二、「アドリアチツク」沿岸港ヨリ舊塊國領  
土内ニ至ル鐵道ノ件

三、「バグダッド」鐵道問題  
丙、自由通過、國際河川、國際鐵道及國際港ニ  
關スル協約案議事進行方ニ付米國委員ノ態  
度並帝國委員ノ意見

不  
明

航 空 委 員 會	經 激 委 員 會 關 係 事 項	國 際 勞 動 法 委 員 會 關 係 事 項	講 和 打 合 會 關 係 事 項
航空條約案修正	首相會議及起草委員會ニ於ル經濟條項ノ修正 委員會ノ成案ト確定條約案トノ主要差點 支那涉外諸問題ニ關スル支那側ノ意見書提出		

## 對獨講和商議ノ經過（其二）

### 目 次

甲、全權委任狀ノ審查（五月二日）	一
乙、獨逸調印拒絕ノ場合ニ於ル對應策審議（五月五日）	三
丙、聯合國側ノ對獨條約案確定總會議（五月六日）	四
丁、獨逸委員へ條約案交付（五月七日）	四
戊、獨逸側質疑事項審查委員會ノ編成（五月八九日ノ頃カ）	八
己、講和條約案ニ對スル獨逸側ノ抗議並聯合側回答	七
其一 根本主義並ニ實行能否ニ關スル點（附右ニ對スル聯合側回答）五月十日	八
其二 國際聯盟ニ關スル疑議（附右ニ對スル聯合側回答）五月十日	九
其三 國際勞動法制ニ關スル諸點（附右ニ對スル聯合側回答）五月十三日	一一
歐洲内政治條款ニ關スル諸點（附右ニ對スル聯合側回答）五月十三日	一一
其五 賠償ト戰爭責任トノ關係ニ關スル點（附右ニ對スル聯合側回答）五月十三日	一五
其六 經濟條項ニ關スル點（五月十三日）	一六
其七 獨逸俘虜歸還條項ニ關スル點（五月十五日）	一八
庚、對獨講和條件ニ關スル各國輿論	二九

## 甲、全權委任狀の審査

### (一) 獨逸委員ノ委任狀提出(五月一日)

獨逸全權委員全權委任狀審査方ニ關シ五月一日午前外務省ニ於テ聯合國側ノ打合アリタル結果先方ヨリ委任狀ヲ提出セシムルト同時ニ聯合國側ヨリモ委任狀ヲ示スコトシ尙聯合國中伊太利委員ハ不在ナルノミナラス小國中ニハ未タ委任狀整ハサルモノアルヲ以テ聯合國側委任狀ニハ目錄ヲ附シテ之ヲ提出スルコトトシ之カ爲同日(五月一日)午後三時獨逸全權ヲ「ヴエルサイユ」「トリアノン、ホテル」ニ召集スルコトニ決定セリ同日定刻佛「カンボン」、日松井全權、英「ハーデング」卿竝米「ホワイト」「トリアノン、ホテル」ノ一室ニ參集ス之ニ遲ルルコト暫時ニシテ獨逸委員外務大臣「ブロツクドルフ、ランツァウ」伯司法大臣「ランズベルグ」外二名ハ獨逸外務省法務局長及法律家ニシテ通譯タルニ一名ヲ從ヘ監督接伴タル佛國將校ノ案内ニ依リ聯合國委員ノ部室ニ入り起立ノ儘默禮ス「カンボン」進シテ「ブロツクドルフ」ニ對シ豫備講和會議々長ノ命ニ依リ講和會議ヲ開クニ先立チ貴國全權委員ノ全權委任狀ヲ受取ル爲茲ニ貴下ノ來會ヲ求メタリト述フ獨逸全權委員ハ直ニ其委任狀ヲ提出シ「カンボン」ハ之ヲ受取リタル後聯合諸國委員ノ委任狀ヲ手交シ「ブロツクドルフ」ハ之ヲ受取り同行獨逸委員ヲ紹介シ次テ「カンボン」ハ聯合側委員ヲ紹介シ默禮ノ後退席シタリ

獨逸委員ノ態度ハ傲慢ナル事ナシ聯合側委員ニ對シ禮節ヲ守リタルモノト見ルヘク獨リ「ブロツクドルフ」ハ顏色蒼白言語低聲手足微動シテ頗ル感慨ニ堪ヘサル有様ナリキ

右會見後聯合側委員一同眞ニ巴里ニ歸リ恰モ開會中ノ五國會議ニ右ノ始末ヲ報告シタリ

### (二) 委任狀審査委員會(五月二、三、四日)

而シテ翌五月二日右ニ關スル審査委員會ヲ開キタルカ佛國委員ハ右委任狀ニハ單ニ獨逸國ノ名ニ於テ全權ヲ附與シ云々

ト記シアル處之迄獨逸聯邦中「ババリア」ハ外交上特別ノ地位ヲ有シ又一八七一年佛獨講和諸條約ニハ「ババリア」ハ別ニ調印又ハ參加シタル先例モアルニ付「ババリア」其他ノ聯邦諸國ノ地位等ニ關シ一應法律學者ニ調查セシメタル上更ニ審査委員會ヲ開カムコトヲ提議シ之ニ決シタリ

右ノ趣旨ニ基キ五月三日開催ノ専門家會議ノ意見ハ本年二月十日獨逸法律暫定第六條ハ大統領ハ條約ヲ締結シ國際關係ニ付獨逸國ヲ代表スト規定シ本年三月四日「ユーベルガングス、ゲゼツツ」第四條ハ皇帝ノ權能ハ大統領ニ依リ繼承サル可キヲ規定シ法律上ヨリ見レハ獨逸大統領ノ署名シタル獨逸全權委員ノ全權委員狀ハ獨逸ノ爲ミニ商議調印スルノ權能ヲ附與スルモノニシテ「ババリア」ヲ獨逸ノ一部ト認ムルト否トハ事實認定ノ問題ナリト言フニアリタルカ五月四日開催ノ審査委員會ニ於テハ「ババリア」其他ノ獨逸聯邦ノ地位ニ付獨逸委員ニ質問スルモ満足ナル説明ヲ得ルコト無カルヘク却テ質問等ニ時日ヲ費シ講和ヲ遲延セシムルニ過キナル可ク且聯合國ハ獨逸全體ニ對シ講和ヲ強制(「インボーズ」)シ得ル地位ニアルヲ以テ獨逸ノ全權委任狀ハ之ヲ妥當ト認メ此趣ヲ首相會議ニ報告スルコトニ決セリ

## 乙、獨逸調印拒絶ノ場合ニ於ル對應策審議

### 一、五月五日ノ最高經濟會議

五月五日ノ最高經濟會議ニ於テ獨國全權カ講和條約ノ調印ヲ拒ム場合聯合側ニ於テ執ルヘキ手段ノ一タル獨領封鎖措置シ、同會議封鎖部ハ聯合國政府ニ於テ右ノ措置ヲ必要トスル時直ニ實施シ得ヘキ封鎖案ヲ外務大臣會議ニ提出スヘキコトヲ命セラレタル旨公表アリ

### 二、首相會議ヘノ實行案廻附

五月十四日巴里新聞報道左ノ通、獨逸全權カ講和條約調印ヲ拒ム場合聯合側ニ於テ執ルヘキ手段ノ一タル獨領封鎖措置ニ關シ其後最高經濟會議ハ首相會議ニ右實行案ヲ廻附セリ尙ホ同經濟會議ハ洪牙利ニ對シテモ政治狀態不安ナル限り同

### 丙、聯合國側對獨逸委員案確定總會議(五月六日)

條約起草委員會ハ五月四日夜案文ノ起草ヲ完了シ超ヘテ六日外務省ニ於テ公開セラレサル講和總會議ヲ開キ條約案ヲ確定スルコトニ決定セリ即チ同日午後三時ニ至リ愈々講和總會議ノ開催ヲ見小國全部ハ茲ニ始メテ條約全文ノ内示ヲ受ケ之ヲ承認シタリ之ト同時ニ新聞ニ其要領ヲ發表セリ

### 丁、獨逸委員へ條約案文交付(五月七日)

#### 一、日時、場所、列席委員

五月七日午後三時獨逸ノ委員ニ聯合國ノ講和條件ヲ示ス爲「ブロツクドルフ、ランツアウ」「ランズベルグ」以下獨逸ノ委員六名ヲ「ベルサイユ」「トリヤノン、ホテル」ニ招致シ我全權全體「クレマンソウ」「ウヰルソン」「ロイドジョーシ」「バルフォア」「オルランド」「ソンニ」其他五國全權英領殖民地其他ノ聯合諸國全權列席ス

#### 二、「クレマンソウ」ノ演説

「クレマンソウ」議長ヨリ獨逸委員ニ對シ

『獨逸全權諸君吾人ハ今日茲ニ無用ノ言辭ヲ費サナルヘシ茲ニ列席セルハ貴國ヨリ挑マレタル戰爭ニ關係(タツチ)シタル大小諸國ノ代表者ナリ今ヤ戰爭終結ノ期至リ吾人ハ貴國ヨリ請ハレタル平和ヲ結フノ意アルヲ以テ茲ニ平和條件ヲ記載セル文書ヲ諸君ニ交付セムトス此第二「ベルサイユ」條約ハ多大ノ犠牲ヲ拂ヒテ贏得タルモノナレハ吾人ハ正當ナル滿足ヲ得ムコトヲ要求スルノ權利アルモノト思考ス』

ト述ヘ次ニ講和會議ノ手續ニ付豫テ聯合大國間ニ協定セル趣旨ニ基キ

トノ趣旨ヲ述ヘ

『講和會議ニ於テハ一切口頭ニ依ル討議ヲナサス獨逸委員ノ提出スル意見ハ凡ヲ書面ニ依ルヘタ獨逸委員ハ豫備條約全體ニ瓦リ十五日以内ニ其意見ヲ英佛兩國語ヲ以テ提出スヘシ但シ右期間滿了前ニ條約書ノ特定事項ニ付通告ヲナシ又ハ質問ヲ發スルコトヲ得聯合大國會議ハ前記ノ期間内ニ提出ナレタル獨逸委員ノ意見ヲ考查シタル後其際獨逸ニ對シ全體ニ瓦リ確定的ノ回答ヲナスヘキ期間ヲ指定スヘシ』

#### 三、條約案交付

「クレマンソウ」條約案ヲ交付シ獨逸委員「ブロツクドルフ、ランツアウ」ハ之ヲ受取り

#### 四、「ランツアウ」演説

次テ「ランツアウ」ハ獨逸語ヲ以テ左記ノ演説ヲナシ午後四時閉會セリ

諸君茲ニ諸君ト會同シテ全世界ノ爲速ニ恒久的平和ヲ確立セムトスル責務ノ重大ナルハ吾人深ク之ヲ感スルトコロナリ吾人ハ獨逸ノ敗北ト其無力ト並獨逸軍ノ崩潰ヲ否定セス吾人ハ又戰捷者カ吾人ヲ憎惡スルノ念強ク吾人ヲ戰敗者トシテ過重ノ要求ヲ課シ又吾人ヲ罪惡者トシテ處罰セムトスルノ意アルコトヲ承知セリ又吾人ヲシテ獨リ此戰爭ノ責任者タルコトヲ自認セシメムトスルモノアルモ斯ノ如キハ吾人ヲ誣ユルノ甚シキモノナリ然レ共吾人ハ開戰ニ對スル一切ノ責任ヲ獨逸ヨリ除去セムトスルモノニハ非ス舊獨逸政府カ海牙平和會議ニ於テ執リタル態度及本戰爭前ノ數月中ニ於ケル獨逸政府ノ行動ハ罪科タリトスルモ本戰爭ヲ以テ全然防禦的戰爭ナリト確信セル獨逸國民ヲシテ獨リ戰爭ノ責任ヲ負擔セシメムトスルニ至リテハ吾人之ニ對シ抗議セサルヲ得ス敵國ノ輿論ハ獨逸カ戰爭中ニ犯シタル罪惡ヲ鳴ラシ吾人モ亦獨逸ノ行ヒタル非ヲ自白スルニ客ナラス吾人カ當地ニ來タレルハ此戰爭ヲ行ヒタル政治家ノ責任ヲ經減スルカ爲ニ非ス吾人ハ茲ニ開戰當時獨逸議會ニ於テナシタル宣言ヲ繰返シ白耳義ノ權利ヲ侵害シタルコト並吾人ハ之ヲ賠償スルノ意アルコト明言ス然リト雖戰爭中非行ヲ遂ケタルモノハ獨逸ノミナラス敢テ非難ニ對スル非難ヲ以テスルノ意ニ非サルモ吾人ニ對シ吾人ノミ獨

リ罪贖スヘシト要求スルモノアラハ吾人モ亦言フトコロナキヲ得ス吾人ハ休戦ヲ得ルニ實ニ六週間ヲ要シ又平和條件ヲ知ルニ六ヶ月ヲ要シタリ而シテ客年十一月十一日以來封鎖ノ結果死亡ゼル非戰鬪員ハ約(?)十萬ニ達シタリ之敵國カ其勝利ノ確保セラレタル後猶且冷酷ナル企圖ヲ以テ人命ヲ損セルモノト言ヒ得ヘシ責任及賠罪ニ就キ論議セラル、ニ當リテハ冀クハ此點ヲ考量セラレムコトヲ、戰爭ニ參加シタル吾人ノ責任ヲ定メムトセハ戰爭ノ主タル人物ヲシテ陳述ヲ爲サシメ總テノ交書ヲ公開スヘキ中立國委員會ニ依ルノ他ナシ吾人ハ既ニ此方法ヲ要求セリ茲ニ重ネラ希望ヲ表明ス

本會議ニ於テ吾人ハ同盟國ト離レテ單獨ニ多數ノ敵國ニ對峙スト雖吾人幸ニ諸君ヨリ與ヘラレタル一ノ同盟者ヲ有ス即「平和ノ根本原則ニ關スル條約ニ依リテ吾人ニ保障サレタル正義」之ナリ聯合國ハ客年十月五日ヨリ十一月五日ノ間ニ「強力ニ依ル平和」ヲ放棄シ正義ノ平和ヲ標榜シタリ客年十月五日獨逸政府ハ米國大統領ノ唱ヘタル原則ヲ以テ平和談判ノ基礎トナサムコトヲ提議シ十一月五日國務卿「ランシング」氏ハ聯合國ハ右原則中特定ノ二點ヲ除キ之ヲ交渉ノ基礎トスルニ一致セルコトヲ獨逸ニ通告セリ依ツテ大統領ノ宣言シタル原則ハ交戰國雙方ヲ拘束スルモノト言ハサルヘカラス右原則ハ政治上並經濟上吾人ニ對シ大ナル犠牲ヲ命モノナリト雖各國民ノ基本的權利ハ此條約ニ依リ擁護セラレ如何ナル國民ト雖之ニ違反スルヲ得サルモノナリ吾人ハ右ノ基礎ノ上ニ豫備條約ヲ審議セムトスルモノニシテ同時ニ戰爭ニ破壊セラレタル事物ヲ諸君ト共ニ復舊シ戰爭ノ罪科ヲ償ハムトスル堅實ナル決心ヲ有ス即先ツ白耳義ニ(脱)此事業ヲ協同ニ遂行スルニ當リ生スヘキ問題ノ多岐ナルニ顧ミ諸君ヨリ提出セラレタル條約案ニ基キ速ニ特別専門委員ヲシテ主要ナル事項ニ就キ討議セシムルヲ要ス

吾人ノ主要ナル事業ノ一ハ勞働階級ノ生命ト健康ト自由ト國際的ニ保護スルノ制度ニ依リテ戰爭ノ爲損失サレタル人力man powerヲ回復スルニ在リ余ハ獨逸軍ニ依リ占領サレ戰爭ノ爲破壞セラレタル白耳義及北佛ノ回復ヲ急務トス之吾人ノ公約セルトコロニシテ之ヲ實行スルノ決心ヲ有ス之カ爲ニハ吾人ノ敵タル戰捷者ノ協力ヲ要シ又最小ノ費目ヲ以テ最大ノ效果ヲ得サルヘカラスト雖之カ爲ニ獨逸俘虜ヲシテ勞役ニ服セシムルカ如キハ最惡ノ方法ニシテ恒久的平和ニ害アルモノ

#### ト言ハサルヘカラス

雙方ノ專門委員ハ財政上賠償ノ事務ヲ履行スルニ就キ獨逸國民ノ負擔力ヲ講究スヘク獨逸國民ヲ崩壊セシムルカ如キハ却テ賠償權利者ノ利益ヲ害スルノミナラス歐洲ノ經濟生活ヲ混亂シ收拾スヘカラサルニ至ラム

國際聯盟ヲシテ恐ルヘキ災厄ヨリ世界ヲ救フノ效果アラシメム爲ニハ誠意アル總テノ國民ヲシテ之ニ加入セシメサルヘカラス

獨逸國民ハ既ニ一致セル平和ノ基礎條件ヲ變更セサル限り其重大ナル運命ヲ受諾スヘシ全世界カ正義ニ基キ是認セサル平和ニ對シテハ將來必スヤ反抗(脱)サルヘクスル實行シ難キ條約ニ何人モ良心ヲ以テ調印スルヲ得サルヘシ吾人ハ誠意ヲ以テ講和談判ヲ考查シ此會議カ平和條約調印ニ達セムコトヲ期待ス(終)

◎備考 七日獨國全權ニ對スル講和條約案文ノ交付ト同時ニ英佛兩國語ニ依ル講和條約案文要領書ノ公表ノ全文ヲ配布セリ

リ

### 戊、獨逸側質疑事項審査委員會

其ノ後間モナク右確答期間内獨逸全權側ヨリ提出アルヘキ條約細目ニ關スル質疑事項説明要求其他ノ題目ニ就キ審査ノ目的ヲ以テ英米佛(伊缺席)三國首相會議ノ議ニ基キ數多ノ委員會新設セラル尤モ政策問題ハ直接首相會議ノ裁決ニ委セラルル次第ナルモ其他ノ細目ニ至リテハ右委員會ノ審査ニ附セラル等ナリ而シテ右審査委員會ハ英米佛伊日五國委員ヲ以テ組織セラル右委員會名稱並各委員會ニ指名シタル帝國委員左ノ通リ

一、國際聯盟 牧野全權

二、獨逸國境 伊集院全權

三、歐洲政治條項 同上

四、歐洲外政治條項 珍田全權

五、(一) 陸軍條項 奈良中將

(二) 海軍條項 竹下中將

(三) 航空條項 田中少將

六、俘虜並墓地 宮中佐

七、戰爭責任 立博士

八、賠償並回復 森財務官

九、財政 同上

一〇、經濟 松井全權

一一、港灣水路並鐵道 安達公使

一二、勞動 落合公使

一三、條文確定 長岡參事官

## 己、講和條約案ニ對スル獨逸側ノ抗議並聯合側回答

◎其一 根本主義並實行能否ニ關スル點(五月十日)

附 右ニ對スル聯合側回答

獨逸全權ハ聯合側提出ノ條約成案ニ對シ五月十日「プロツクドルフ、ランツアウ」ヨリ講和會議議長「クレマンソウ」宛書面ヲ以テ右ノ通リ抗議ヲ提出セリ

獨逸全權ハ講和條約案ヲ一讀ノ結果各交戦國間承認済ノ正義ノ平和ノ基礎ハ其ノ主要點ニ付誤解セラレタルコトヲ認メ  
サルヲ得ス獨逸國民並ニ世界人類ニ向テ明カニナサレタル公約カ如斯シテ破棄セラルヘシトハ豫期セサリシ處ナリ條約

成案ハ如何ナル國民ト雖モ堪ニヘカラサル要求ヲ包含スルノミナラス獨逸側専門家ノ見ル所ヲ以テスルニ其ノ要求事實遂行不可能ノモノ少ナカラス獨逸全權ハ是ノ點ニ付詳細ノ審査ヲナシ其ノ所見及材料ヲ絶エス聯合側政府ニ通牒スヘシ

右ニ對スル聯合側回答左ノ通り

聯合國側代表者ハ條約成案ヲ決スルニ當リ休戦並ニ講和提倡ノ根本主義ニ絶エス留意セシモノナルコトニ付獨逸全權ノ注意ヲ喚起センコトヲ欲ス依テ大體成案通リ維持スヘキ權利ニ關シ議論ヲ挾ムヲ認容セス單ニ獨逸全權ノ提出スヘキ實行問題(Practical suggestions)ニ付テノミ考量ヲ與ヘ得ヘシ

◎其二 國際聯盟ニ關スル疑義(五月十日)附右ニ對スル聯合側回答

獨逸全權ハ五月十日國際聯盟ニ關シ左ノ通第二回書信ヲ聯合側ニ送附セリ

獨逸全權ハ茲ニ國際聯盟ニ關シ獨逸側考案ノ提出ヲ以テ我カ態度ヲ鮮明ス右考案ハ國際聯盟ニ付重要ナル提議(Suggestion)ヲ含ム可シ獨逸全權ハ聯合側提出ノ案ニ付キ更ニ細目ニ瓦リテ意見ヲ述フルノ自由ヲ留保ス尙此際獨逸全權ハ獨逸國ハ條約文ノ一部分タル國際聯盟規約ニ調印ヲ要求セラレ居ルモ國際聯盟加入ニ署名セラルヘキ諸國中ニ舉ケラレ居ラス獨逸全權ハ聯合諸國カ果シテ右招請ヲ發スルノ趣旨ナリヤ又若シ然リトセハ如何ナル事情ノ下ニ之ヲ發セントスルノ趣旨ナリヤヲ敢テ問ハントス

右ニ對スル聯合側回答左ノ通り

獨逸側國際聯盟案受領後ハ聯合國側審査委員會ノ審査ニ附セラルヘシ尙國際聯盟追加國招請ノ件ハ獨逸全權ニ於テ聯盟規約再讀ノ上ハ決シテ洩ラサレタルニ非ス第一條第二項ニ明記シアルヲ認メラルヘシ

右獨逸側ヨリ聯合側ニ對スル書信ト共ニ獨逸側ノ提出セシ國際聯盟案ハ全部六十六條ヨリ成ルモノニシテ即チ左ノ如シ

# 聯合國國際聯盟憲章

## I. PRINCIPES FONDAMENTAUX

1. La Ligue des Nations veut garantir l'établissement d'une paix durable entre ses membres en (?) reposant sur la force moral du droit, par l'aplanir (?) à l'amiable tous les différends internationaux. Par un (?) travail commun il veut favoriser le progrès intellectuel et matériel de l'humanité.

La Ligue sera conclue (盟) l'éternité et formera une unité organique pour la (不期) au dehors.

Les membres se garantissent leurs possessions territoriales et s'abstiendront de singérer dans leurs affaires de politique intérieures respectives.

2. Les buts particuliers de la Ligue des Nations sont les suivants:

- a) Prévenir des conflits internationaux ;
- b) le désarmement ;
- c) la garantie de la liberté de communication et de l'égalité économique générale ;
- d) la protection des minorités nationales ;
- e) la création de la législation ouvrrière internationale ;
- f) le règlement du domaine colonial ;
- g) la concentration d'institutions existantes et futures sur une base internationale ;

h) la création d'un Parlement Mondiale

### 3. La Ligue des Nations comprend :

- a) Tous les Etats belligérants, y compris ceux qui se sont constitués pendant la guerre ;
- b) Tous les Etats neutres, adhérent à l'Union Internationale d'Arbitrage de La Haye ;
- c) Tous les autres Etats, s'ils sont admis par deux tiers des membres de la Ligue.

**Le (不明) aura la faculté de demander son admission à la Ligue des Nations.**

4. Les membres s'engagent à ne conclure aucun traité particulier, contraire au but de la Ligue, ni à faire une convention secrète quelconque. Des traités pareils, s'ils en existent, sont annulés. Des traités secrets sont nuls.

## II. CONSTITUTION.

5. Les organes de la Ligue sont :

- a) Le Congrès des Etats ;
- b) Le Parlement Mondial ;
- c) La Cour Permanente Internationale de Justice ;
- d) L'Office de Conciliation de la Ligue ;
- e) Les Offices Administratifs Internationaux ;
- f) La Secrétariate de la Ligue.

A. Le Congrès des Etats.

6. Le Congrès des Etats est la réunion des représentants des Etats, membres de la Ligue. Chaque Etat de la Ligue délègue un jusqu'à trois représentants ; les représentants de chaque Etat ne peuvent voter qu'à l'unanimité.

7. Le Congrès se réunit au moins tous les trois ans.

8. Le Congrès gère les affaires de la Ligue des Nations.

9. (¶?) En tant qu'elles ne sont pas transmises à d'autres organes ; il élit à sa première réunion un comité permanent, chargé dans l'entre-temps de la gestion des affaires du Congrès (¶?) doivent être adoptées, sauf stipulation contraire du traité, avec une majorité de deux tiers des Etats représentés. Du reste, le Congrès fixe lui-même son règlement organique.

B. Le Parlement Mondial.

10. Le premier Parlement Mondial se compose des représentants des différents Parlements des Etats de la Ligue. Chaque Parlement élit un représentant pour chaque million d'habitants de son pays, cependant aucun Parlement ne peut déléguer plus de dix représentants.

11. Le Parlement Mondial statue sur la composition intérieure du Parlement Mondial avec le consentement du Congrès des Etats.

12. Le consentement du Parlement Mondial est de rigueur,

a) Pour la modification de la Constitution de la Ligue,

- b) Pour la stipulation de principes juridiques internationaux généralement valables,
- c) Pour l'institution de nouveaux corps administratifs de la Ligue,
- d) Pour la fixation du budget de la Ligue.

Dans toutes ces affaires administratifs de la Ligue, le Parlement Mondial en a l'initiative.

13. Le Parlement Mondial se réunit en même temps que le Congrès des Etats. Du reste, il arrête lui-même son règlement organique.

C. La Cour Permanente Internationale de Justice.

14. La Cour élue par le Congrès des Etats pour la durée de neuf ans, d'après le mode suivant :  
Chaque Etat propose au moins une et tout au plus quatre personnes capables et disposées à exercer la charge de juge.

Au moins, une des personnes proposées n'appartiendra pas à l'Etat proposant. Chaque Etat désigne quinze candidats de la liste totale des personnes proposées ; les quinze candidats qui ont obtenu le plus grand nombre de voix sont élus juges.

En cas de retraite, les juges sont remplacés par les candidats qui ont obtenu le plus grand nombre de suffrages après les quinze juges, élus dans l'ordre du scrutin.

15. La Cour, pour prendre une décision, doit être composée de trois membres, dont chaque partie en élit un. Dans le cas où les parties ne sont pas d'accord sur l'élection du président, la Cour en décide en séance plénière. (¶?) l'Office de Conciliation, ainsi que dix suppléants, dont l'ordre doit être fixé lors de l'élection.

16. (E)
17. L'Office de Conciliation pour prendre ses résolutions doit être composé de cinq membres, dont chaque partie en élit deux. Quant au président—s'il y a désaccord entre les parties au sujet de son élection—l'Office de Conciliation en décide en séance plénière.
18. Les membres de l'Office de Conciliation ne peuvent ni exercer une fonction publique dans leur propre pays ni être en même temps membres d'un autre organe de la Ligue des Nations. Ils doivent avoir leur domicile au siège de la Ligue des Nations.
- E. Les Offices Administratifs Internationaux.
19. La Ligue des Nations favorisera toutes les tendances, propres à concentrer les intérêts communs des peuples, et visera à développer les institutions internationales existantes, et à créer de nouvelles. Cette disposition s'applique surtout aux domaines du droit, de l'économie nationale et des finances. (850)
20. Les Unions existantes seront rattachées autant que possible à la Ligue des Nations.
21. Tous les bureaux internationaux, établis antérieurement par des traités collectifs, seront placés sous le contrôle de la Ligue, si les parties contractantes y consentent.
22. Tous les bureaux internationaux, qui seront créés ultérieurement, seront placés sous le contrôle de la Ligue.
- F. Le Secrétariat de la Ligue.
23. Les fonctionnaires du Secrétariat sont nommés par le Comité Permanent du Congrès des Etats et sont placés sous son contrôle.
24. Le Secrétariat forme le bureau commun des organes de la Ligue des Nations. Son règlement organique est arrêté par le Comité Permanent du Congrès des Etats.
25. Le Secrétariat publie dans son Bulletin officiel toutes les résolutions et toutes les manifestations des organes de la Ligue des Nations. Les membres de la Ligue des Nations s'engagent à publier dans leurs Bulletins officiels, dans le texte original et dans la langue de leurs pays, les résolutions et les manifestations du Congrès des Etats et de l'Office des Conciliation, et à les présenter à leurs corps législatifs.
26. Les membres de la Ligue des Nations s'engagent à remettre tous les traités conclus par eux au Secrétariat, qui les publiera dans le Bulletin de la Ligue des Nations.
- G. La Situation des Fonctionnaires de la Ligue.
27. Tous les membres des Autorités Internationales et du Parlement Mondial, à l'exception de ceux qui appartiennent au l'Etat où ils séjournent actuellement, y jouissent des priviléges et des immunités diplomatiques.
28. Les membres du Parlement International jouissent dans l'Etat, auquel ils appartiennent, des mêmes droits que les membres du Parlement de cet Etat.
- H. RÈGLEMENT PACIFIQUE DES CONFLITS INTERNATIONAUX.
29. Tous les différends internationaux qui n'ont pas pu être réglés par les procédés ordinaires de la diplomatie, et pour lesquels une procédure spécial d'arbitrage n'est pas prévue, devront être soumis à une Cour Permanente

Internationale de Justice ou réglés par l'Office de Conciliation International.

30. C'est la Cour Internationale de Justice qui est compétente pour juger les litiges internationaux. Chaque membre de la Ligue des Nations y a un droit de plainte, que l'adversaire doit reconnaître. Les décisions sont prises au nom de la Ligue des Nations. Il en est de même pour la procédure devant l'Office de Conciliation.

31. La Cour Internationale est en outre compétente:

- a) pour les plaintes de particuliers contre les pays: dangers et les chefs (?) d'Etat, si les tribunaux de l'Etat en question se sont déclarés compétents.
- b) pour les litiges entre les nationaux de différents Etats, membres de la Ligue des Nations, en tant que l'interprétation des traités d'Etats forme l'objet du litige.

32. Les Etats intéressés ont le droit de conclure des (§§) d'arbitrage, relativement aux différends particuliers ou aux différends spécialement définis. Cependant ils n'y sont pas autorisés, s'il s'agit de l'interprétation de normes générales du droit international fixé ou de celle des statuts de la Ligue des Nations.

33. Si dans un conflit entre les Etats devant la Cour Internationale de Justice sur l'inculpé objecté, qu'il ne soit que d'un simple conflit d'intérêts ou d'un litige dont l'importance politique prédomine, la Cour de Justice doit décider de cette objection. Si elle la trouve fondée, elle renvoie le conflit devant l'Office de Conciliation en vue de son règlement.

Si le conflit est porté devant l'Office de Conciliation et qu'on y reconnaîsse qu'il ne s'agit que d'une question de droit, l'Office de Conciliation transmet l'affaire d'abord à la Cour Internationale de Justice, qui décidera si le conflit sera renvoyé à l'Office de Conciliation ou s'il est de la compétence de la Cour Internationale en Justice projetée, à la base de

la convention pour le règlement pacifique des conflits internationaux de La Haye, du 18 octobre 1907, un règlement de procédure qui, pour entrer en vigueur, nécessite le consentement du Congrès des Etats.

La procédure devant l'Office de Conciliation est arrêtée par lui-même.

La Cour Internationale de Justice ainsi que l'Office de Conciliation sont autorisés à régler le litige par une disposition provisoire pour la durée de la procédure.

35. La décision de la Cour Internationale de Justice est prise suivant les conventions internationales, conformément au droit coutumier international et d'après les principes généraux (?).

36. La décision de la Cour Internationale de Justice ou de l'Office de Conciliation oblige l'Etat en question d'exécuter de bonne foi la sentence prononcée.

#### IV. MESURES POUR ÉVITER LES CONFLITS INTERNATIONAUX.

37. Si l'Office de Conciliation constate que dans les relations des Etats quelconques de la Ligue, une tension s'est manifestée, il peut offrir ses bons offices aux Etats intéressés. Ceux-ci sont alors obligés de discuter l'affaire devant l'Office de Conciliation et de lui soumettre les pièces à l'appui, pour une proposition propre à la solution de l'affaire.

38. Chaque Etat, membre de la Ligue, s'engage (¶) ses lois ou des mesures policières, toute insulte d'un autre peuple par la parole, les écrits ou images. Si ce devoir est négligé, l'Etat ne se peut en appeler à la décision de la Cour Internationale de Justice.

39. Les Etats, membres de la Ligue, s'engagent mutuellement à rectifier des allégations effectives, publiées par

la presse d'un Etat, au detriment de l'autres. En cas du refus de rectification, la Cour Internationale de Justice en décidera.

#### V. DÉSARMEMENT.

40. Les membres de la Ligue des Nations limiteront leurs armements par terre et dans l'air de manière à n'entretenir que (不甲) ces armées nécessaires pour la sûreté du pays. Ils limiteront leurs armements navals aux moyens nécessaires pour la défense de leurs côtes.
41. Le budget et le règlement de compte des dépenses globales, relatives aux armements, de même que les chiffres des effectifs des troupes et de matériel de guerre de toute sorte, notamment de bâtiments de guerre, doivent être présentés annuellement au Secretariat de la Ligue, qui les publiera dans le bulletin de la Ligue.
42. Pour effectuer le désarmement, une convention spéciale sera faite, contenant aussi le contrôle international relatif à l'obser ( ) liberté de circulation.
43. La domination sur mer est transférée à la Ligue des Nations. Elle l'exerce à l'aide d'une police navale, qui sera réglée par une Convention spéciale.

Les moyens coercitifs, nécessaires pour la police navale, seront répartis par cette convention entre les Etats maritimes de la Ligue. Outre les bâtiments de la police navale, aucun navire armé ne sera autorisé à circuler sur mer.

44. Les détroits et les canaux, indispensables au trafic maritimes international, sont également ouverts aux bâtiments de tous les Etats, membres de la Ligue.
45. Aucun Etat, membre de la Ligue, ne peut traiter la navigation maritime et fluviale d'un autre Etat,

membre de la Ligue, d'une manière moins favorable, que celle de son propre pays ou du pays le plus favorisé. Cette disposition s'applique surtout à l'utilisation de toutes les installations, relatives à l'approvisionnement des navires en combustibles et en matières nécessaires au service. Le cabotage sera réglé par une convention spéciale. Quant à la navigabilité des navires et quant aux conditions à bord, les lois de l'Etat du pavillon seront reconnues comme compétentes jusqu' au règlement par la Ligue des Nations.

46. L'air est libre à la circulation des avions de tous les Etats, membres de la Ligue. Pour la mise en pratique de ce principe, il sera fait une convention spéciale, réglant entre autres l'atterrissement forcé sur le terrain de l'Etat survolé, de même que la garantie des recettes douanières.

47. Aucun Etat, membre de la Ligue, ne doit être restreint dans sa liberté de réservier des câbles et des radiotélégraphes.

48. Une convention spéciale réglera, à la base de l'assimilation aux nationaux, les droits des ressortissants d'un Etat de la Ligue sur le territoire de l'autre, relativement à la liberté personnelle, liberté du culte, droit de séjour et de domicile et protection juridique.

49. Aucune différenciation ne peut être établie entre les nationaux et les étrangers, quant à l'exercice du commerce, de l'industrie et de l'agriculture—spécialement relativement aux impôts et aux taxes en résultant.

50. Les Etats de la Ligue ne prendront ni directement ni indirectement part à des mesures visant à une continuation ou à une reprise de la guerre économique, sous réserve des mesures coercitives de la Ligue.

51. Les marchandises de tout genre provenant du territoire d'un Etat, membre de la Ligue, ou à destination d'un tel Etat, doivent être exemptées de toute taxe de transit.

52. Les relations réciproques au sein de la Ligue ne seront pas entravées par des prohibitions d'importation, d'exportation et de transit, en tant que ces mesures ne sont nécessaires par des raisons de sûreté publique ou par (?) des mesures policières de santé et contre les épidémies ou par la législation économique interne.

53. Les Etats de la Ligue seront libres de régler leurs relations économiques réciproques en prenant en considération leurs besoins particuliers par des conventions spéciales également sous d'autres rapports que les susmentionnées. Ils reconnaissent comme but (?) de leurs efforts la création d'un traité mondial de commerce.

## VII. PROTECTION DES MINORITES NATIONALES.

54. Une vie nationale individuelle est garantie aux minorités nationales, au sein des Etats de la Ligue sur tout au point de vue de la langue, des écoles, des églises, des arts et sciences et de la presse. L'exécution de ce principe sera réglée par une convention spéciale, qui stipulera notamment de quelle manière on pourrait faire valoir le droit des minorités devant les organes de la Ligue.

## VIII. LE DROIT OUVRIER.

55. Une des tâches primordiales de la Ligue consiste à assurer aux ouvriers de tous les Etats, membres de la Ligue, une existence correspondante à ( ) et à contribuer à les satisfaire dans l'exercice de leur profession. A cet effet une Convention spéciale, ci-inclus comme annexe, réglera pour les questions du libre domicile, du droit de coalition et l'assimilation des étrangers aux nationaux, relativement aux conditions de travail, au placement des ouvriers, à l'assurance

sociale, à la protection des ouvriers et à l'exécution internationale (ff) développement de ces normes.

56. Pour la surveillance et pour le développement du droit ouvrier, un office de travail mondial doit être établi auprès du Secrétariat de la Ligue.

## IX. COLONIES.

57. Pour l'administration des colonies non autonomes, la Ligue créera un règlement international pour les domaines suivants:

a) protection des indigènes contre l'esclavage, l'alcool, le trafic d'armes et de munitions, contre les épidémies, le travail forcé et l'expropriation forcée;

b) prévoyance de la santé, de l'éducation et du bien être des indigènes, et garantie de la liberté de conscience;

c) garantie de la paix par la neutralisation des territoires coloniaux et par la défense de militarisation.

58—63 (ff)

64. Chaque Etat est autorisé, en cas d'agression de son territoire, non seulement à avoir recours aux moyens légaux de la Ligue, mais à (ff)sser immédiatement à sa défense personnelle.

65. Tous les frais et dégâts des membres de la Ligue, résultant des mesures de l'exécution, sont à la charge de l'Etat infracteur.

## XI. FRAIS.

66. Tous les frais de la Ligue se sont répartis entre les membres de la Ligue d'après une échelle, rédigée par le Congrès des Etats et empruntée à celle de l'Union Postale Universelle.

## 附 右ニ對スル聯合側回答(五月十四日)

國際勞動法制ニ關スル講和條項ニ對シ獨國全權ハ五月十日附書面ヲ以テ該條項ニ依レハ公正ナル社會制度ヲ實現スルコトヲ渴望セル世界各國労働者ノ要求ハ僅ニ其一部ヲ實現セルニ過キサルニ顧ミ右要求ニ添ハムカ爲ミニハ少クトモ獨逸政府ノ提案ニ依ルノ必要アルヘシトテ其實質ニ於テ本年二月「ベルン」國際勞動會議決議(巴里講和會議ニ宛タル國際勞動法制定、調書其三第二四五頁以下参照)ト同様ナル其國際勞動法制案ナルモノヲ添附シ且労働者ヲシテ同法制定起草ニ參加ノ機會ヲ與フル爲メ出來得ヘタムハ講和談判繼續中「ベルサイユ」ニ各國労働者團體代表者ヲ召集シ前記「ベルン」決議ヲ基礎トル國際勞動法制會議ヲ催スノ要アルヘキ旨ヲ述ヘ越シタリ

右ニ對シ十三日佛國勞動省ニ於テ五大國ノ本問題ニ關係セル委員會合ノ上聯合側ヨリ獨逸ニ送ルヘキ回答案ヲ打合セタルカラ回答ハ十四日附ヲ以テ獨逸側ニ送ラレタル由ニテ要領左ノ如シ

一、聯合國政府ハ國內平和人類進歩ノ母タル労働問題ノ適當ナル解決ハ將來一般人心カ戰爭ノ恐怖ヲ離脱シ且工業カ獨國軍國主義ニ伴フ武裝ノ重荷ヨリ脱シタル暁ニ於テ益々容易ナルヘキコトヲ確信ス労動法制ニ關スル規定ハ右労働問題解決ノ手段ヲ規定シタルモノニシテ同案中ニ列舉セラレタル労動原則ニ關スル規定ハ國際勞動法制ノ發達ヲ促スヘキ労動組織(レー・バー、ヲーガニゼーション)並國際聯盟ノ實現ヲ駆致スヘキモノナリ但案文第四二七條(講和條約案文中労動問題ニ關スル規定ノ最後ノ條文ニシテ労動原則ニ關スル規定ヲ網羅ス)ニ依リ明カナルカ如ク労動原則ハ右ノ列舉ヲ以テ盡クルモノニアラス

二、労動法制ニ關スル條項ハ條約案ノ一部ヲ爲スモノニシテ從テ獨國ハ之ニ調印スルコトヲ要スヘシ將來獨國ニ於テ労働組織 Labour Organisation ニ參加スルノ權利ハ本條約第一條ノ規定ニ依リ獨國カ國際聯盟ニ加入ヲ許サルルヤ否ヤ直ニ之ヲ獲得スヘキモノノトス

三、聯合側ニ於テハ「ベルサイユ」ニ労動會議召集ノ必要ヲ認メス蓋シ「ベルン」會議ノ決議ハ聯合國ノ細心考究セル所ニシテ労動條項ノ起草ニ當リテハ労動組合代表者ノ參加アリタルノミナラス該條項附則中ニ豫定セル來ルヘキ華盛頓ニ開催セラルヘキ第一回國際勞動會議ノ「プログラム」ニ付「ベルン」會議ノ議題ニ上リシモノノ最重要ナルモノヲ包含シ該會ニ於テ労動(脫)場合モ參加スヘク而シテ其決議ハ唯當該各國ノ責任官憲(「コンペラント、ヲーソリティ」)ノ承認ヲ條件トシテ效果ヲ有セシムヘキ規定トナリ居ルナリ

四、獨逸國政府ノ國際勞動法制案ハ國際會議ニ對スル労働者ノ代表ニ關スル規定ヲ缺クノミナラス尙左ノ諸點ニ於テ講和條約案中ノ労働條項ニ劣レリ  
(イ) 獨國案ニ依レハ少クトモ五ヶ年毎ニ労動會議ヲ開クヘキ旨ヲ記載シ居レトモ講和條約案ハ少クトモ一年毎ニ之ヲ開クヘキ旨ヲ規定ス

(ロ) 獨國案ハ各國ハ各々一票ヲ有スト規定セルニ反シ條約案ハ政府代表者タルト雇主代表者タルト労働者代表者タルトヲ問ハス各委員ハ一票ヲ有スヘキモノノトス

(ハ) 獨國案ハ總テ決議ハ投票ノ五分ノ四(?)ノ多數ニ依ル場合ニノミ拘束力アリトスルニ反シ條約案ハ労動會議ノ最終決議ニ際シ同會議ニ於テ議案若ハ協約案ヲ採用スルニハ投票ノ三分ノ二ノ多數ヲ必要トスルニ過キサル旨ヲ規定ス

五、上記ノ理由ニ依リ聯合國政府ハ其決定カ獨國全權ノ考慮スル社會的公正ニ満足ヲ與ヘ且労働階級ノ宿望タル社會改革ノ實現ヲ保證スルモノナルコトヲ信ス

## ◎其四 歐洲内政治條款ニ關スル抗議(五月十三日)

附 右ニ對スル聯合國側回答(五月十五日作製)

獨逸講和委員ハ五月十三日附書面ヲ以テ聯合國講和會議長「クレマンソウ」氏ニ對シ大要左ノ通ノ抗議書ヲ送致セリ

「聯合國ノ提出セル條件中ニハ獨逸領土ノ一部ヲ一時又ハ永久ニ外國ノ支配ノ下ニ置カムトスルモノアリ獨逸委員ハ獨逸領地内ニ於ケル獨逸人以外ノ住民カ人民自決權ニ基キテ獨逸ヲ分離スヘキハ之ヲ承認スヘシト雖モ獨逸人ノ住居スル地方ヲ以テ聯合國ノ財政上經濟上ノ要求填補ニ充テ其ノ住民ヲ宛モ物品ノ如ク取扱フニハ反對セサルヲ得ストニ純然タル獨逸人ノ住居スル「ザアル」地方ヲ佛國ノ利益ノ爲メ其ノ配下ニ置キ同地方ノ法律制度ヲ變更セントスルハ同地方ノ住民ヲシテ外國ノ羈絆ニ呻吟セシムルモノニシテ一方十五年後ニハ同地方ニ於テ人民投票ヲ行ヒ住人ノ意思ニ依リ其ノ所屬國ヲ決定スヘキヲ規定スルモ他方同地方カ獨逸ニ復歸スヘキ場合ニ於テハ獨逸ハ金貨ヲ以テ石炭坑山ヲ買戻スヘク然ラサルトキハ佛國領有ニ歸スヘキモノトセルヲ以テ佛國カ獨逸ノ金貨支拂ニ對シ困難ヲ構フ可キハ今ヨリ明ナリ獨逸委員ハ聯合國カ北佛石炭地方ノ荒廢ニ對シ現物ノ代價ヲ求ムルヲ諒トスルモ之カ爲ニハ「ザアル」地方ノ石炭ヲ以テ之ニ換ユルヲ適當トシ之カ協議ニ應セントス

獨逸ハ素ヨリ白耳義ノ損害ヲ賠償スヘキモノ之カ爲メ普國領「モレスネ」「オイベン」「マルタデイ」等其ノ住民カ獨逸人ニ非ザル確證ナキ地方ヲ以テ賠償ニ充テ且ツ之等地方人民ノ人民投票ニ決定の效力ヲ與ヘサルハ甚タ不當トセサルヲ得ス「シユレスウイヒ」地方ハ獨逸丁抹間ニ協定スヘキ事項ト信スルモ丁抹政府カ本條約案ノ如キ迂曲セル手段ヲ取ラムトスルナラハ獨逸ハ敢テ之ニ反対セサルヘシ」

依テ聯合國五大國委員ヨリ成ル獨逸領土問題委員ヲシテ右ニ對スル回答案ヲ調査セシムルコトト成リ五月十五日右委員會ヲ開キ(伊集院委員出席)各委員意見交換ノ後左ノ趣旨ノ回答案ヲ作成シ「クレマンソウ」ニ報告シタリ

聯合國政府ハ獨逸領土ノ移轉ニ關シテハ其地方ノ狀況ヲ斟酌シ住民ノ意思ヲ問フノ規定ヲ設ク其住民ヲ以テ物品ト同視スルコト断シテ之ナシ

「ザアル」地方ニ關シ聯合政府ハ其ノ決定ヲ維持スルト共ニ左ノ諸項ヲ指摘セムトス

(一) 同地方ハ獨逸ノ組織的破壊ニ對スル一般的代價タルヘキモノニシテ北佛ニ於ケル石炭地方ノ損害賠償ノミヲ意味

### スルモノニアラス

(二) 同地方ハ獨佛人ノ難居スル地方ニシテ十五年ノ後ハ人民投票ニ依リ其自由ナル意思ニ基キ其所屬國ヲ選ハシムヘシ「ザール」地方ハ國際聯盟ノ行政ノ下ニ置カルヘク佛國ノ管内ニ屬スルモノニアラス

(三) 同地方住民ニ對シテハ其現ニ有スル自由ヲ保障スルノミナラス行政上社會上彼等ノ爲ニ有利ナル規定ヲ設ク「ルール」地方ノ石炭供給ニ關シテハ條約第八編附則第五ニ規定アリ「ルール」地方トハ全ク別箇ノ問題(脫)「ザール」地方ニ關スル條項附則第三十八條ニハ十五年ノ後同地方石炭鑛山ニ關シ佛獨間ニ直接協定アルヘキヲ豫想シ居レリ又協定不成立ノ場合ニハ國際聯盟ノ裁決ヲ求ムルヲ得ヘシ

白耳義ニ讓渡サルヘキ「マルメディー」「オイベン」ニ於テハ六箇月以内ニ住民ノ意思ヲ問フヘク普魯西領「モレスネ」ハ其人口僅ニ五百人ニ過キス而シテ其森林ハ獨逸カ破壊セル白耳義森林ノ代價タルヘキモノトス

「レスウイヒ」ニ關スル條項ハ丁抹政府ノ請求ニ基キタルモノナリ」

### ◎其五 賠償ト戰爭責任トノ關係ニ關スル抗議(五月十三日)

#### 附 右ニ對スル聯合側回答(五月十五日)

イ、講和會議々長宛五月十三日附獨逸全權ノ書信左ノ通

獨逸全權ニ交附セラレタル講和條約案中第八篇賠償條項ノ冒頭第二百三十一條ニハ「聯合各國政府ハ獨逸及其同盟國ノ襲撃ニ依リテ強ヒラレタル現戰爭ノ結果トシテ聯合國政府及其國民ノ一切ノ損害及損失ハ獨逸及其同盟國カ其責ニ任スヘキヲ宣明シ獨逸國之ヲ承認ス」トノ條項アリ獨逸ハ戰爭責任ノ問題トハ別個ノ問題トシテ千九百十八年十一月五日ノ國務長官「ランシング」ノ書翰ニ基キ賠償支拂ノ義務ヲ引受ケタリト雖世界戰爭ノ勃發ニ關シ舊獨逸政府ノ負擔スヘキ一部責任ヨリ聯合諸國ニ對シ戰爭ノ爲被リタル損害ヲ獨逸國ヲシテ賠償セシムルノ權カ當然生スヘシトナスハ獨逸委員ノ認ムル能ハサルトコロタルノミナラス聯合諸國代表者ニ於テモ獨逸國民カ其政府ノ行ヘル過失ニ就キ責ニ任スヘカラサ

ル次第ハ數次聲明シタルトコロナリ獨逸國民ハ戰爭ヲ欲シタルコトナク又嘗テ進擊的戰爭ヲ企テタルコトナシ彼等ハ今次ノ戰争ハ獨逸國民ニトリーノ防備的戰争ナリシト確信シ居タリ又獨逸全權ハ戰争ノ起因ニ關シ聯合諸國政府ト其見解ヲ異ニシ舊獨逸政府ノミ現戰争ノ唯一ノ若ハ主要ナル責任者ナリト思考スルモノニ非ス此點ニ關シ今回交附セラレタル平和條約案ニハ何等聯合側主張ノ基礎並論證トナルヘキ點ヲ含マサルニ付戰争責任ニ關シ聯合諸國ノ公正ナル委員會ノ報告ヲ獨逸全權ニ通知セラレムコトヲ希望ス

ロ、五月十五日右提案ヲ審査スヘキ賠償及戰争ノ責任兩委員會ノ聯合會ヲ開キ委員會議ノ裁決ヲ經テ左ノ通獨逸全權へ送附セラレタリ

五月十三日貴翰ニ於テ貴下ハ獨逸カ賠償ヲ爲スノ義務ヲ認ムルモ戰爭並舊獨逸政府ノ行爲ニ關スル責任ヲ負ハサル旨ヲ表明セラレタリ斯ノ如キ賠償義務ハ其原因タル損害發生者ノ責任ヲ認ムルニ非サレハ之ヲ了解スルヲ得ス又貴下ハ獨逸國民カ嘗テ進擊的戰爭ヲ企タルコトナシト述ヘラル、モ貴翰中ニ援用セラレタル千九百十八年十一月五日國務長官「ランシング」ノ書翰中ニハ補償ノ義務ハ獨逸カ海上陸上並空中ニ於ケル進擊ノ結果トシテ生スル旨ヲ表明セラレアリシテ獨逸政府ハ之ニ對シ何等ノ抗議ヲナスコトナク之ヲ承認セリ即チ千九百十八年十一月(脱)案モ(脱然レ共明瞭ニ其進擊並責任ヲ承認セルモノナルヲ以テ今日之ヲ否定セムトスルモ(脱)ノ期既ニ去レリ又貴下ハ獨逸國民ハ舊政府ノ過失ニ對シ其責ニ任セスト述ヘラル、モ一國ノ政體又ハ首腦者ノ變更ニ依リ既ニ國民ノ負擔セル義務ノ消滅セサルハ國際法ノ原則ニシテ獨逸ハ一千八百七十二年共和宣明後ノ佛蘭西ニ對シテモ千九百十七年革命後ノ露國ニ對シテモ此原則ヲ實行セリ貴下ハ又賠償委員會ノ報告ヲ求メラレタルモ聯合諸國ハ平和會議ニ於ケル諸委員會ノ報告ハ其内部ノ文書ト認ムルモノナルニ付貴下ノ求ニ應スルヨト能ハス云々

### ◎其六 經濟條項ニ關スル抗議(五月十三日)

講和條約案經濟條項ニ關シ獨逸全權ハ拾三日附抗辨書中聯合側ニ對シ講和條件ノ獨逸人口問題ニ對スル影響如何ノ研究ヲ

命セラレタル同國々民經濟委員會ノ意見書ナルモノヲ引用シ不取敢此一般苦情ヲ提出スルノ必要アル旨ヲ附言シ來レリ概意左ノ通り

獨逸國ハ最近二代(「ゼネレーション」)ノ間ニ農業國ヨリ工業國ニ移レリ農業國トシテ獨逸ハ四千萬ノ人口ヲ養ヒ工業國トシテ六千七百萬人ニ衣食ヲ保證スルヲ得タリ食料品ノ輸入額ハ一九一三年ニ於テ約千二百萬噸ニ達シ戰前獨逸ニ於テ外國貿易ノ航運業即(不明)モノ約千五百萬人ニ及ヘリ  
然ルニ講和條件ニ依ルニ獨逸ハ海外貿易用船舶並新造ノ船舶ヲモ聯合國側ニ交付スヘク其造船所ハ今後五ヶ年間主トシテ聯合國政府ノ爲メニ建造スヘキノミナラズ其植民地ハ奪ハレ聯合國同植民地自治領並保護領ニ於ケル獨逸ノ財產利益並債權ハ一切清算其他聯合國力平時ニモ維持スヘキ戰時經濟措置ニ服從スヘキモノトナリ居レリ  
又領土(不明)講和條件實施ノ結果ハ當方ニ重要ナル穀類及馬鈴薯其他生產地ヲ失フヘク是獨逸ニ於ケル是等食料品全生產額ノ二割一分ヲ失フニ相當ス加之獨逸ニテ工業ハ磷酸鹽ノ如キ原料ノ缺乏ヲ感スルノミナラス講和條件ニ於テ獨逸ハ其石炭產額ノ百分ノ一ヲ失ヒ尙向後十年間一定ノ(不明)小國ニ多大ノ石炭供給ヲ爲スヘキコトト爲リ居ルカ故ニ石炭ノ缺乏ニ苦シムヘク從テ獨逸農業ハ從來ノ如ク集約的ナル能ハサルヘシ  
尙講和條件ニ從ヘハ獨逸ハ(不明)分ノ三ノ鐵鑛生產額並五分ノ三以上ノ錫生產額ヲ其隣國ニ讓渡スヘキコトトナリ居レリ

斯クノ如ク獨逸ハ其ノ生産物ヲ失フ同時ニ殖民地、船舶並在外財產ヲ失フノ結果外國ヨリ十分原材料ヲ輸入スルコト能ハサルニ至ルヘク從テ獨逸工業ハ沒落ニ瀕シ且一方食料品供給ノ途甚々困難ナルト同時ニ其ノ輸入ノ必要ハ極メテ大ナルニ至ルヘシ  
即チ獨逸ハ幾何モナクシテ商業並航運業ニ依リ生活セル幾百萬ノ人々ニ對シ勞働ト「バン」トヲ與フルヲ得サルニ至ルヘク從テ等ノ人々ハ國外ニ移住スル外ナカルヘキモ恰モ世界ノ主ナル諸國ハ獨逸移民ヲ入レサルヘキ而已ナラス幾十萬

ノ獨逸人ハ獨逸ヨリ敵國ニ割譲セラルヘキ獨逸領土並殖民地ヨリ獨逸本國ニ押寄スルニ至ルヘシ  
故ニ講和條件ノ實施ハ簡単明瞭獨逸内數百萬人ノ死亡ヲ意味スルモノニシテ戰時並休戰期間中封鎖ニヨリ國民ノ健康破壊セラレ居ル此際右ノ實現ハ甚々速カナルモノアルヘク如何ナル緩和策モ之ヲ防止シ得ルニ由ナカルヘシ獨逸ハ既ニ四年半ノ戰爭中一百七十五萬ノ戰死者ヲ出シ約百萬ノ封鎖犠牲者ヲ出シタルニ講和ノ爲更ニ之ニ幾倍ノ犠牲者ヲ出ササルヘカラサルヘシ

吾人ハ聯合國代表者ニ於テ世界的大工業國タル獨逸ヲシテ公然ソノ經濟組織上將又人口上半世紀以前ノ狀態ニ立返ラシムル場合必然起ルヘキ結果ニ就キ十分諒解シ居レルヤ否ヤヲ疑ハサルヲ得ス此講和條件ノ調印スルモノハ幾百萬ノ獨逸老若男女ニ死ノ宣告ヲ下スモノナリ

#### ◎其七 俘虜歸還ノ條項ニ對スル抗議(五月十五日)

俘虜歸還ニ關スル條項ニ對シ五月十五日附獨逸全權抗議書左ノ通り

獨逸全權ハ條約案ニ於テ獨逸俘虜及抑留民カ出來得ル限り速ニ送還セシメラルヘキ原則ノ承認セラルコトヲ喜フモノナリ右送還實行ノ細目ハ之ヲ特別ノ委員會ニ委任スルハ獨逸全權ノ同意スルトコロニシテ戰時中俘虜問題ニ關シ交戰國委員間ニ直接行ハレタル(脫)交渉ノ問題解決ヲ容易ナラシメタルニ鑑ミ今日此方法ニ依ラハ一層意見ノ差異並細目ノ疑點ヲ除去スルニ好都合ナルヘシ

獨逸全權ハ各國法律觀念ノ差異ニ鑑ミ規律違反以外ノ犯罪ノ爲審査中或ハ刑ノ執行中ニ在ル俘虜及抑留民ヲモ無條件送還ヲ許スコト繁要ニシテ獨逸國ハ聯合國俘虜及抑留民ニ對シテ同様ノ原則ヲ認メ來レリ送還ニ至ル迄俘虜及抑留民ニ對シ或程度ノ待遇改善ヲ承認スルハ正義ノ觀念上事態當然ノコトニ屬スヘシ

獨逸全權ハ私有物ノ還附、行衛不明者ノ搜索及墳墓ノ保存等ニ關スル規定ノ如キ聯合國政府ニ於テノミ有利ナル諸規定ニ同意スル能ハサルコトヲ明言セサル能ハス之等問題ニ對シテハ完全ナル相互主義ニ依ルコトハ一般人道ノ要求スル處

ト思考ス俘虜及抑留民ノ還送實施ニ關スル統一上ノ困難殊ニ船舶及石炭ノ缺乏アルニ依リ還送開始ニ至ル迄ノ問題ハ前以テ一切之ヲ解決スル様注意ヲ拂フコト肝要ナリ就テハ獨逸全權ハ俘虜及抑留民ニ關スル委員會ノ商議ハ今ヨリ他ノ問題ト離シテ別ニ之ヲ開始スヘキコトヲ提議ス該提議ノ趣旨ハ今尙多數ノ獨逸俘虜及抑留民カ海外ニ抑留セラレ居ル事實、次ニ西比利ニ在ル獨人ノ還送緊急ニシテ又頗ル困難ナルノ事實ニ立脚セルモノナリ內政上ノ理由ニ依リ獨逸俘虜及抑留民ハ出來得ル限り異狀ナク本國ニ歸還セシメ且ツ可成速ニ平常生活ニ入ラシムルヲ肝要トス之ヲ以テ素ヨリ送還機關ノ整備ハ云フニ及ハス精神並身上ノ改善ノ爲總テノ手段ヲ盡シテ始メテ之ヲ爲シ得ル處ナリ然レトモ獨國目下ノ經濟狀態ハ到底斯カル要求ヲ充ス能ハス殊ニ食糧及ヒ被服ニ於テ然リ前記委員會ニ於テ聯合國政府カ如何ナル程度迄之等ノ問題ニ關シ獨逸ヲ援助シ且有償ニテ例へハ下着普通服及ヒ靴等ノ新品ヲ還送全俘虜及ヒ抑留民ニ供給スルヲ得ルヤヲ議スルコト適當ノ處置ト思考ス

#### 庚、對獨講和條件ニ關スル輿論

對獨講和條件ニ關シ

イ、佛國與論ハ獨逸ノ軍備制限及佛國財政上ノ負擔輕減ニ付多少ノ異議ヲ唱ヘ

ロ、米國側ニハ佛國々防援助ニ關スル英、米、佛ノ別約ヲ以テ國外無用ノ干渉トナスモノアリト雖モ

ハ、英國側ニテハ是亦佛國ノ政情已ムヲ得スト爲シ

ニ、講和條件ノ關シテハ聯合側與論ハ大體ニ於テ満足ヲ表シ居ルモノノ如シ

ホ、獨逸側ニ於テハ條件過酷ト呼ビ到底國力はカ履行ニ堪ヘス如スキハ暴力ニ依ル講和ニシテ講和基礎條件タル「ウ」氏十四箇條ノ趣旨ヲ沒却ストテ議會及新聞界ニ議論沸騰シツ、アリ在佛獨逸全權委員ハ條約案受領後講和條件ノ主義(「ブリンシップ」)ニ關シ亦之ヲ過酷ナリトシテ抗議ヲ提出シ尙引續キ國際聯盟俘虜勞動問題國境其他ニ就キ各種ノ對案ヲ提示

シ來リ且ツ其ノ抗争ノ態度ハ獨逸國內ノ各種意思發表運動〔マニフェストーション〕ト脈絡有ルカ如クニ推測セラル、モモアルヨリ獨逸委員ハ果シテ本條約ニ調印スヘキヤ否ヤ又調印スルトモ善ク之ヲ履行スヘキヤ等推論頻々行ハル此間ヘ、伊國ハ本月八日首相外相等全權委員巴里ニ歸着セルモ「フューメ」問題ニ付キテハ今尙與國トノ間何等了解出來タルヲ聞カス伊國ハ此外ニモ白耳義ト同様ア弗利加植民地問題ニ就キ要求提出中ナリ

ト、將又支那全權ハ公表文〔スタートメント〕ヲ以テ山東問題ノ決定ニ對スル不滿ヲ發表シ支那國內ノ反對運動勃興ノ情報ヲ傳播シ或ハ講和條約ニ對スル調印保留ノ訓令ヲ受ケタリト傳ヘラル等尙ホ「ブロバガンダ」繼續セラレツ、アルモノ、如シ米國新聞紙中支那側ノ所說ニ贊同シ山東處分不當ヲ論スルモノアルノミナラス支那人側ヨリ米國上院ニ對シ講和條約中山東問題ノ條項不認可ヲ運動シ居ルヤノ報有ルハ我ニ於テ大ニ注意ヲ要スルコトト思考セラル尙均國講和全權委員ハ五月十四日着佛シ當地輿論ノ注意ハ漸次均國問題ニ向ヒツ、アリ

## 對均國講和商議ノ經過(其一)

### 甲、均國講和委員

#### (一) 委員氏名

巴里新聞ニ據レハ均國講和全權一行顔觸左ノ如シ

- 一、主席全權ニシテ談判且條約調印權ヲ有スルモノ、宰相「レンネル博士」Chancellor Dr. Renner
- 二、主席全權顧問、「ギュルテル」Guerrier 及「シエン・ハウエル」Schienbauer 兩教授
- 三、談判係トシテ外務省ヨリ四名即チ「クライン」博士 Dr. Klein、「フランクア、ペーテル」François Peter、「ヨハン、アーヴィング」Johann A. Zeichhoff、「リヒナルド、シユルム」Richard Schüller
- 四、右ノ外務國防道路交通大藏各省ヲ代表スル専問委員十一名專門事項顧問五名各州代表者十二名等アリ

(二) 委員ノ着巴期

右一行ハ十四日巴里郊外「サンゼルマン」到著ノ由ニテ夫迄對均國講和條約準備取急中ナリ

#### 乙、委員來着並全權委任狀提出

前顯均國講和委員ハ五月十四日「サンゼルマン」ニ到着シタリ次テ同日午後三時十五分聯合側全權委任狀審查委員ハ「サンゼルマン」ノ「バヴィリオン、ヘンリー、四」ニ於テ均國全權委員宰相「カール、レンネル」及隨員外務大臣代表者「フランソア、クライン」外務省法務局長代表者「フランソア、ベーテル」同政務局長代表者「ジャンアンドレツ・イホフ」及同經濟局長

代表者「リシャール、シユルレル」ヲ引接シ「レンネル」氏ノ全權委任狀ヲ受領シ同時ニ聯合側委任狀ヲ彼等ニ交付セり其手續前回獨逸委員會見ノ時ト同シ但シ「レンネル」氏初メ一同ハ極メテ平氣ニシテ「レンネル」氏ノ如キ微笑ヲ帶ヒ其隨員ヲ紹介シタル位ナリ

### 丙、對撲講和條約案

五月十四日巴里新聞紙報左通

撲太利トノ講和條約案ハ大體獨逸トノ條約ニ準シ國際聯盟國際勞動法制等ニ關スル條項ヲ包含シ同様浩瀚ナルモノニシテ次週ノ初頃完了スヘシ勃牙利トノ講和ハ撲太利ニ次キ土耳其トノ講和ハ最後ニ締結セラルヘク同國トノ講和條項中最モ重要ナルハ君府ヲ國際聯盟管理ノ下ニ獨立市トスルニ在リ

### 聯合與國總會議並講和打合會

(首相會議  
五大臣會議)

附

- 一、波蘭委員會.....四八
- 二、波羅的委員會.....五一
- 三、「ベルン」社會黨會議實行委員ノ講和條件ニ關スル宣言.....五三
- 四、山東及一般支那問題.....五五
- 五、朝鮮人獨立陳情.....七四
- 六、總會議及各種委員會ニ於ル採決方法等.....七四

### ○五月一日首相及外相會議並首相會議

- 一、日 時 五月一日午后四時
- 一、出席者 日本ヨリ牧野、珍田兩委員
- 一、內 容

#### A 首相及外相會議

#### 海底電線問題討議

前日ノ外相會議決議ノ趣旨ニ基キ(調書其七第三四頁丁及成參照)海底電線問題討議ノ爲メ首相及外相會議ヲ開クイ、「エム・デン」「ハリファツクス」間電線ノ歸屬論議

「ビション」ヨリ前日ノ會議ノ結果ニ付報告アリタル後「バアルフォア」ヨリ目下問題トナレル點ハ(d)獨逸「エムデン」ト連絡シタル場合ニ米國ハ(a)(b)線ヲ獨逸ニ還附スヘキモノト主張シ英、佛、日ハ聯合國ニ歸屬スヘキモノトノ意見ナルカ聯合國ハ戰時中(b)(d)線ヲ敷設スルニハ多大ノ費用ヲ支出シタルモノニシテ(a)(b)(d)線全部ヲ其手ニ收ムヘキハ至當ニシテ獨逸ハ(d)(e)線ヲ使用セムトセハ(a)(b)間ニ新タナル線ヲ敷設スヘキモノナリトノ意見ヲ述ヘタルニロ、「ウヰルソン」ノ國際管理主張(「ヤツブ」島其ノ他)

「ウヰルソン」ハ

(1) 海底ニ存スル電線カ捕獲ノ目的タリ得ルヤハ疑問ナリ

(2) 今回ノ戰爭ノ如ク多數國民カ多大ノ人命ト財力トヲ犠牲トシテ贏チ得タル國際交通ノ機關ヲ單ニ英、佛、日三國ノ手ニ歸セシムルハ果シテ正當ナルヤ否ヤ疑ナキ能ハス從テ「ヤツブ」島ノ如キ太平洋ニ於ケル電線ノ集合地點ヲ一國ノ手ニ屬セシムルノ當否モ問題ナリ從テ若シ是等海底電線ヲ國際管理ノ下ニ置クノ方法アラハ最モ望マシキモノト思考ス故ニ先ツ是等電線ヲ一括シテ受託者トシテ聯合國全體ニ歸屬セシメタル上國際條約ヲ以テ之レカ運用ヲ規定セムコトヲ希望スル次第ナリト述ヘタリ

ハ、之ニ對シ佛國委員「ドボン」提督ハ講和條約ノ目的ハ電線ノ歸屬ヲ決定スルニアリ其ノ後ノ一般通信管理ノ問題ハ別個ノ關係ナリト述ヘ

ニ、「ロイド、ジョージ」モ海底電線カ捕獲ノ目的タリ得ルハ船舶ト同様ナリ海底電信ノ國際的管理ノ問題ハ戰後ニ於ケル討議ノ問題トスルヲ適當トスヘク又「ハリファックス」線ヲ拋棄スルコトハ加奈太政府ノ熱心ナル希望モアリ全然反對セサルヲ得スト云ヒ

ホ、牧野委員ノ「バルフォア」說贊成

牧野全權ハ三月二十四日(?)「バルフォア」氏ノ提議ノ趣旨ニ贊成スル旨ヲ告ケ更ニ曰ク抑々今回平和會議ニテ獨逸ニ對シテ採リタル政策ハ必スシモ從來認メラレタル慣習ニ拘束セラレス獨逸私有財產ヲ聯合國ノ手ニ收メ又財政ニ關スル條項第十三條ノ如キ獨逸公有ノ目的ヲ有スル各種ノ設備ヲモ取上クルコトナリ居リ今回聯合國ノ獨逸財產ニ關スル處分ハ前例ヲ見サル程ノ嚴格ノモノナリ海底電線ニ付テモ同一ノ趣旨ニ出ツルコトヲ得ヘク況ヤ日本カ其ノ手ニ收メタル電線ヲ所有スル獨逸會社ハ千百萬「マルク」ノ資本ヲ有シ而モ年々獨逸政府ヨリ百五十萬「マルク」ノ補助金ヲ受ケ居リ此等ノ事實ハ明カニ右企業カ政治的ノ意味ヲ有スルヲ證ス此理由ヨリ見ルモ又平和條件ニ關スル聯合國ノ一般政策上ヨリ見ルモ右電線ヲ日本カ取得スルハ素ヨリ正當ノコトニ屬スト信シ從テ「バルフォア」氏ノ提議ニ贊成ス將又將來ノ運用方法ニ關シ別ニ取極メヲ結フコトハ自分一個ノ意見トシテハ素ヨリ望マシキコトニシテ此ノ取極メハ萬國郵便條約ト同一ノ精神ニ基キ國際條約ヲ以テ定ムルヲ得ヘシ目下當面ノ問題トシテハ余ハ單ニ前述ノ「バルフォア」氏ノ提議ニ贊成スルノ外ナシ

ヘ、結局

(871)

「ウヰルソン」ハ電線ヲ一括シテ聯合國ノ手ニ收メタル上將來ニ於ケル之カ運用ノ問題ヲ考究スルノ趣旨ヲ以テ一案ヲ作製シ次回ノ會議ニ提出スヘキヲ約束シ日、英、佛ハ其ノ案ヲ考查スル迄全然其ノ意見ヲ留保スル旨ヲ明カニシ散會シタリ

備考

要スルニ之迄米國側ノ主張ハ海底電線ノ一部ヲ獨逸ニ還附ス可シト言フニ在リシカ當日一變シテ聯合國全體ノ手ニ收

メ一般利益ノ爲メ適當ノ運用方法ヲ設ク可シトノ案ニ變シタリ

B 首相會議

甲、講和ニ對スル獨逸側ノ意嚮ニ付米國諜報省ノ電報披露

右ノ會議ヲ終リタル後直ニ首相會議ヲ開キタルカ「ウヰルソン」及「ロイド、ジョージ」ハ特ニ我委員ヲ引留メ列席セシ

メ先ツ獨逸ニ在ル米國謀報省ヨリノ電報ノ内容ナリトテ該謀報者カ「エベルト」「シャイデマン」「ペルンストルフ」「ブロッケドルフ、ランツアウ」等獨逸政府筋ノ主ナル人々ノ講和會議ニ對スル意向ヲ探リタル處ニ依レハ何レモ講和會議ニ於テ聯合國カ提出ス可キ條約案ニ調印スルノ外無カル可シ只將來獨逸ノ恢復ヲ計ル爲メニハ米國ヨリ原料ノ供給ヲ受クルコト絶対ニ必要ニテ此ノ點ニ就テハ十分ノ便宜ヲ得ナル可ラサルモ其ノ他ノ條件ハ難キヲ忍ンテ調印受諾スルノ外無カラムトノコトニテ尙「ブロッケドルフ、ランツアウ」ハ米國大統領ニ單獨會見ヲ遂クルコトヲ得ハ各種問題ノ解決ヲ容易ニシトノ聲明ヲ表明シタル趣ナルコトヲモ披露セラル

### 乙、對獨講和條件提示ニ付伊國大使ヘ通知ノ件

獨逸委員ニ聯合國ノ講和條件ヲ提示スル日取りハ五月六日ニ延期サレタル處此ノ際伊太利ヲシテ此ノ事實ヲ知ラシムルコト有要ト認ムルト同時ニ三國側ヨリ伊太利ノ參加ヲ誘引セル如キ誤解ヲ避クルコト最肝要ナリトノ見地ヨリ通知方法ニ付意見ヲ交換シタル上裏ニ伊國委員退去後講和會議トノ聯絡ヲ保ツ爲メ在英伊國大使「アンベリアリ」公爵ヲ當地ニ留メアルニ拘ラス特ニ「ビション」ヨリ外務大臣トシテ當地伊國大使ニ通知事項「マター、オブ、インフオーメーション」トシテ通知スルコトトセリ

### 丙、塊匈國側委員招致ノ件

次テ塊匈國ニ對シ講和委員派遣ノ召狀ヲ發スルコトニ付協議シタルカ兩國委員ハ五月十五日「サン、ジエルマン」ニ着シ塊國ト洪牙利國トハ旅館ヲ別ニス可キコトトナレリ

備考 首相會議ニ日本委員ヲ引留メタルハ日本側ヲ五國間内密ノ相談ヨリ除外スル意ナキコトヲ示ス趣旨ヲ含メルモノト見受ケラレタリ

## ○五月二一日首相及外相會議

一、日 時 五月二日午後五時

一、內 容 海底電線問題

イ、「ウヰルソン」提案

「ウヰルソン」ハ前日首相及外相會議ノ約束ニ基キ大要左ノ趣旨ノ提案ヲ爲セリ

一、獨逸ヲシテ聯合國全體ノ爲メ(in favour of Allied and Associated Powers jointly) 同國及同國人ノ有スル海底電線

ニ關スル權利ヲ放棄セシムルコト

二、聯合五國ハ右等電線ノ經營監督ニ就キ最善ノ方法ヲ協定スル爲メ共同ニ之ヲ占有スルコト

三、聯合國ハ成可ク速力ニ萬國會議ヲ召集シ陸上海底及無線電信ノ通信ニ關シ全世界ノ爲公平ナル基礎ニ於テ適當ナル通信ノ方法ヲ講究スルコト

ロ、「ロイド、ジョージ」ハ海底電線ハ船舶ト同様正當ナル捕獲ノ目的シリ得ルモノトシ加奈太政府ノ占領セル「エムデン」

「ハリファックス」ノ電線ヲ取上クルコトニ反対ス

ハ、「ウヰルソン」ハ右電線ハ聯合國共同ノ力ニ依リテ占領シ得タルモノナレハ假令條約ニ依リ加奈太ニ歸屬スル場合ニモ之カ將來ノ運用ヲ聯合國一同ニテ定ムルハ至當ゾコトナリト述フ

ニ、「ロイド、ジョージ」ハ戰時中聯合國カ切斷シ使用シタル海底電線ハ聯合國ノ所有ニ歸セシメ同時ニ海底電線ニ關スル一般問題ヲ(以下脱)

## ○五月三日五大臣會議

一、日 時 五月三日午後四時

一、出席者 牧野珍田兩全權、「ビション」、「ランシング」「ハーディング」卿、伊國側出席セス  
一、議長 「ビション」

### 一、内 容

#### 甲、獨逸殖民地委任統治ト白耳義

獨逸殖民地ニ關シ同國ハ之ヲ聯合五國ノ爲ニ拠棄ストノ條約案ニ對シ白耳義政府ヨリ申出ノ次第アリタルニ依リ右ニ就キ今後是等領土ノ委任統治國ヲ定ムルニ付何等白耳義ニ不利益ナル決定ニ基キタルモノ非サル旨ヲ「クレマンソウ」ヨリ同國政府ニ公文ヲ以テ通告スルコトトシス

#### 乙、芬蘭獨立承認問題

##### (一) 論 議

イ 芬蘭獨立承認問題ニ關シ米國側ハ「フーヴィー」Hoover ヨリ「ウヰルソン」ニ宛テタル可成速ニ芬蘭ノ獨立ヲ承認スヘキ旨ノ意見書ヲ回覧ニ附シ

ロ 佛國委員ハ佛國ハ曩ニ芬蘭ノ獨立ヲ承認セリ其ノ後同國ハ聯合國ニ敵對ノ態度ヲ取リタルモ最近「マンネルハイム」將軍ノ政府トナリテヨリ再ヒ友好關係ヲ開始シ芬蘭ハ目下佛國及英國ニ代理公使ヲ派遣シ居リ佛國ハ既ニ屢聯合諸國カ芬蘭ノ獨立ヲ承認セムコトノ希望ヲ表明セリト述ヘ

ハ 「ランシング」ハ米國ハ獨立ヲ承認スヘキモ聯合國協同承認ノ形式ヲ採ルコトハ避ケ度ト注意ス  
ニ 英「ハーディング」卿ハ英國政府ハ芬蘭ノ獨立ヲ承認スルニ異議ナク「マンネルハイム」將軍ヲ支持スルコトハ「ボリシエビズム」ノ跳梁ヲ防クニ效果アルヘク又芬蘭ハ近頃獨逸ノ代表者ヲ退去セシメ聯合國ト友好關係ヲ維持セムト努メ居レリ然レ共右獨立承認ノ條件トシテ

##### (一) 芬蘭ハ同國領土問題即「ペチャヤンガ」Petchanga 東部「コラ」Eastern Kola「ヲラハニ」Oland 等ニ關シ將來平和

#### 會議ノ決定スヘキ國境ヲ承認スルヲ約スルコト並

(二) 在「ヘルシングフォルス」聯合國代表者ヲシテ聯合國ノ味方ヲナシタル芬蘭赤軍ニ對シ特赦ヲ行フ様芬蘭政府ニ申入レシムルコト

#### ト致シ度シト述ヘ

ホ 牧野全權ハ芬蘭獨立ニ關シテハ訓令ヲ有セサルニ依リ直ニ公然之ニ參加スルヲ得サルモ自分ハ右ハ極メテ望マシキコトト思考スルニ依リ可成速ニ(脫)樣盡力スヘシ同國ノ國境ニ關スル「ハーディング」卿ノ意見ニハ全然贊成ナリ之ト同時ニ在芬蘭露國「ユデニツチ」將軍ハ「ゴルチヤツク」統裁官及其他ノ露國「ボリシエビキ」反對側ト和解シ芬蘭ヨリ「ベトロドグラード」ニ進軍セムト計畫セル由ニ付芬蘭ヲシテ同將軍ニ便宜ヲ與フル様取計ハレテハ如何ト述ヘ  
ヘ 「ハーディング」ハ「フィンランド」ヲシテ「ユデニツチ」將軍ヲ援助セシムルハ同國ニ危険ヲ及ホス惧アリ又「ベテログラード」ニ對スル行動ハ聯合國一般政策ト背馳セサルモノタルヲ要スト述フト  
ト 「ピシヨン」ハ佛國ハ既ニ「フィンランド」ノ獨立ヲ承認シタレハ今更其ノ條件ヲ提出シ難ク佛國ハ未タ非公式代表者ヲ派遣シ居ルカ他ノ聯合國ト同時ニ「フィンランド」ニ公式代表者ヲ派遣スルニ至ラハ「ハーディング」卿及牧野男ノ云ハレタル意味ニテ訓令ヲ發スヘシト述ヘ

チ 「ランシング」ハ獨立ノ承認ニ條件ヲ付スルハ正當ニアラサルヘシ米國ハ單ニ「フィンランド」ノ獨立及事實上ノ政府ヲ認ムルコトトスヘシ承認後同國ヲシテ「ハーディング」卿ノ條件ニ同意セシムル爲他ノ大國ト同一ノ態度ヲ採ルヘント述ヘ

#### (二) 決定、結局

(一) 英米兩國政府ハ直ニ且各別ニ「フィンランド」ノ獨立及事實上ノ政府(de facto government)ヲ承認スルコト  
(二) 「フィンランド」ノ獨立ヲ承認シ且正式ノ外交代表者ヲ任命シタル後英佛米三國政府ハ「フィンランド」政府ニ同國

ノ國境ニ關スル平和會議ノ決定ニ同意スル様勸告スヘキ訓令ヲ發スルコト尙「フインランド」政府ニ聯合國ト共同シテ戰ヒタル「フインランド」赤軍ニ對シ赦免(「アムネスチー」)ヲ行フヘキコトヲ勸告スルコト

(三) 日本政府モ同様ノ措置ヲ採ラルル爲日本委員ハ直ニ右ノ決定ヲ本國政府ニ通知スルコト  
ノ三項ヲ決議セリ

備考 本問題ニ關シ巴里全權委員ヨリ右決議ノ趣旨ニ基キ芬蘭獨立並事實上ノ政府承認方至急説議アル様致シタキ旨

政府へ來電アリタリ

丙、「チエツク、スローヴァツク」國境問題

本問題ニ關シ「ブラング」ニ於テ「チエツク」大統領「マサリツク」ト會見シタル「スマツツ」將軍ヨリ「チエツク、スローヴァツク」ハ休戰條約ニ依リ「ブレスブルグ」Presburg「コマロン」Komarou間ノ「ダニユーブ」兩岸ヲ自國領トスル港ヲ作リタキニ依リ「バルドルフ」Paradolf方面ニ向ヒ領土ヲ得タシトノ意向ナルカ右ハ適當ノコトト認メラル旨ノ意見書ヲ英國側ヨリ提出シタルカラニ就テハ「スマツツ」將軍ニ誤解アルヤトノ悶アリト佛國側ヨリ注意シ結局「チエツク、スローヴァツク」問題委員會ノ調查ニ付スルコトトナリタリ

## ○五月六日聯合與國第六回總會議

一、日 時 五月六日自午後三時至同五時半

一、出席者 伊國ヨリ補給大臣「クレスピー」

一、内 容

獨逸ニ對スル講和條件ヲ聯合國一般代表者ニ通知スル爲祕密總會議ヲ開ク

### (一) 戰爭責任問題

前回ノ總會議ノ日程ニ在リシモ決議ニ至ラサリシ戰爭責任ニ關スル條項ヲ議題トシテ是ヲ可決シ

### (二) 次ニ佛國委員「タルヂュウ」氏講和條件ノ概要(?)ヲ報告シ

### (三) 英米ノ對佛援兵保障

終リニ講和條約ニ規定セル保障ノ外尚米國大統領ハ元老院ニ對シ又英國首相ハ議會ニ對シ國際聯盟ノ協賛ヲ條件トシテ若佛國カ挑發スルコトナクシテ獨逸ノ攻擊ヲ受ケタル場合ニハ直ニ同國ヲ援助スヘシトノ約束ヲ結フコトヲ提議ス(以下脱)變更ヲ加ヘラレタル部分ニ對シ留保スル旨ヲ述ヘ「フォツシユ」將軍ハ保障(ガランテイ)ノ不十分ナルコトヲ詳説シ更ニ軍事當局ニ調査ヲ命セシムルコトヲ要求セリ

備考 佛國ノ安寧ヲ保障スル爲講和條約ノ條項以外尚ホ米國大統領ハ同國上院ニ英國首相ハ同國議會ニ對シ夫レ々々左ノ提案ヲ爲スヘキ旨ヲ約セル趣六日公表アリ即チ若シ佛國カ挑發セサルニ獨國ヨリ攻撃セラルトキハ直ニ英米各國ハ援助スヘシ但シ本協約ハ國際聯盟ノ承認ヲ經ルヲ要ス

## ○五月八日五大臣會議

一、日 時 五月八日午後四時

一、出席者 牧野全權「ビション」「バルフォア」「ランシング」「ソンニノ」

一、議長 「ビショーン」

一、内 容 洪牙利ノ國境問題討議  
(一) 境界

右境界ハ兩國ノ協定ニ一任シ若シ兩國ノ協定調ハナルトキハ聯合國ニ於テ決定ヲ與フルコトトシ

## (二) 洪牙利ト「ルーマニア」トノ國境

右境界ハ「トランシルバニア」全部及「ルーマニア」人ノ多數住居スル隣接地方ヲ「ルーマニア」領トスル「ルーマニア」問題委員會ノ決定シタル Katiu 「ダニウブ」間ノ國境線ヲ採用シ

## (三) 洪牙利ト「ユウゴウスラブ」トノ國境

右境界ハ「ユウゴウスラブ」問題委員會ノ決定報告シタル線即チ右兩國ト「ルーマニア」三國國境ノ交叉點ナル Mako 市ノ西南九「キロ」ノ點ヨリ Tisza 河及 Körös 河ニ沿ウテ「ダニウブ」河ニ達シ同河ヲ下リテ「ドラヴァ」河ノ會流點ニ至リ「ドラヴァ」河ヲ渡リテ Mur トノ會流點ニ至リ Mur 河ヲ溯リテ 塊洪兩國ノ境界ニ至ル線ヲ採用シ

## (四) 洪牙利ト「チエツク、スローヴァツク」トノ國境

右國境ハ同問題委員會ノ決定報告セル線即チ塤洪兩國ノ境界ト「ダニウブ」河ノ交叉スル點ヨリ同河ニ沿ウテ Eipel ト會流スル點ニ至リ Eipel ニ沿フテ Lajosd ト西南十「キロ」ノ點ニ至リ Baranya 及 Nadasd ラ經テ Csap ニ至ル線及「ルーマニア」人ノ住居スル地方ニ於テ Csap ヨリ Nagy-Sziget (右兩國及「ルーマニア」國境交叉點)ニ至ル線ヲ採用セリ

尙五月五日五大臣會議ノ決定(註曰該會議ノ報告來電ナシ)ニ依リ委員ニ再調査ヲ命セラレタル問題ニ關シテハ同委員會ハ原案ヲ維持シ「ダニウブ」河 Grande, Schnett 島ハ洪牙利人多數住居スルモ經濟關係ハ寧ロ「チエツク、スローヴァツク」ト密接ナルヲ以テ之ヲ「チエツク、スローヴァツク」ノ有トシ又同國ヲシテ「ダニウブ」右岸ノ地ヲ有セシムルハ洪牙利トノ政治關係ニ國難ヲ醸ス恐アルヲ以テ之ヲ與ヘナルコトニ決定シタル旨ヲ報告シタリ

會議ハ「チエツクスローヴァツク」國ノ東ニ於テ約四十萬人ノ「ルーチン」人 (Ruthenians) ノ住居スル地方ハ自治國トシテ「チエツク、スローヴァツク」國ノ一部トスベキ「チエツク、スローヴァツク」問題委員會ノ決議ヲ採用シ同地方ニ關スル自治制度組織ノ規定ヲ設クルコトヲ同委員會ニ命シタリ

## ○五月九日五大臣會議

一、日 時 五月九日午後三時

一、出席者 牧野全權「ピション」「バルフォア」「ランシング」「ソンニノ」

一、議長 「ピション」

一、内 容

甲、塊國ト「チエツク」並「ユウゴウスラブ」トノ境界問題  
イ、塊國ト「チエツク、スローヴァツク」トノ國境

大體舊塊國ニ於ケル「ボヘミヤ」「モラビヤ」ノ行政區劃ニ依ルヘキ委員會ノ決定報告ヲ採用ス

ロ、塊國ト「ユウゴウスラブ」トノ國境問題

○本問題ニ關シ同問題委員會ハ英米佛委員ハ「マルブ」人ノ多數ナルヲ以テ之ヲ「ユウゴウスラブ」ニ屬セシメムトシ伊國委員ハ此ノ地方ハ經濟上塊國ト一帶ヲナスモノト主張シ又「クラーゲンフルト」地方ニ關シテハ英米佛委員ハ同地方ハ「カラヴァンカイ」連山ヲ境トシテ塊國ニ屬スヘキモノト認メタルモ其ノ民族中ニハ「スローベン」人多數ヲ占ムルヲ以テ此ノ地方民ヲシテ塊國ヲ離レテ「ユウゴウスラブ」ニ屬スヘキヤ否ヤノ意思ヲ表明セシムル機會ヲ與ヘムトシ伊國委員ハ此ノ地方ヲ以テ全然塊國ニ屬セシムヘキモノトシ委員會ニ於テ意見ノ一致ヲ見サリシ旨並「クラーゲンフルト」以西ノ國境トハ直接伊國ノ利害關係問題ナリト思考シ五國會議ノ決定ヲ待ツコトセル旨報告シ

○「ソンニノ」ハ「トリエスト」「アスリンゲン」「クラーゲンフルト」雜納間ノ鐵道ノ一部カ「ユウゴウスラブ」ノ領内ニ入ラサルトヲ提議シ

○「ソンニノ」ハ「トリエスト」「アスリンゲン」「クラーゲンフルト」雜納間ノ鐵道ノ一部カ「ユウゴウスラブ」ノ領内ニ入ラサル

コト即チ奥地ト「トリエスト」間ノ交通ヲ「ユウガスラブ」カ遮断セサルヘキ諒解ノ下ニ右委員附託ニ賛成スヘシト述ヘ  
○「ランシング」「バルフォア」ハ伊奥地西國間ノ鐵道交通問題ノミナラス人種及經濟問題上ヨリ研究スヘシト主張シ此ノ趣旨  
ニ依リ委員會ヲシテ調査報告セシムルコトナレリ

乙、白耳義中立ニ關スル條約改訂會議ノ件  
右條約改訂ニ關スル聯合五國外務大臣及白耳義和蘭代表者ノ會議ハ來ル五月十九日トシ此ノ趣ヲ「ビション」ヨリ兩國政府  
ニ通知スルコトトス

#### 丙、獨逸新國旗制定ニ關スル白耳義抗議ノ件

獨逸政府カ白耳義國旗ト同色ノ國旗ヲ制定セムトスルニ對スル白耳義ノ抗議ニ就キ「バルフォア」ハ英國政府ハ既ニ白耳義  
政府ノ申出ニ依リ獨逸カ若白耳義國旗ト同色ヲ採用スルトキハ白耳義國旗ト紛ラハシカラサル様ニ爲スヘキコトヲ獨逸政  
府ニ申入ルヘキ旨回答シタルヲ述ヘ「ビション」モ佛國政府モ同様ノ回答ヲナセル趣ヲ述ヘタリ

#### 丁、波羅的諸州救援問題

イ、「エストニヤ」

##### 「バルフォア」ノ提議

「バルフォア」ハ「エストニヤ」人ハ過去四ヶ月間「ボリシエビキ」軍ト對抗シ居タル處今ヤ糧食軍需品缺乏シ士氣沮喪セム  
トセルヲ以テ彼等ヲ獎勵スル意味ヲ以テ其ノ獨立ヲ承認シ糧食軍需品並財政上ノ援助ヲ與ヘムコトヲ提議シタルカ

「ランシング」カ波蘭芬蘭ノ如キ特別ノ事情アルモノノ外露國ヲ分割スルニ反對シタル爲

「バルフォア」ハ「エストニヤ」獨立承認ノ提議ヲ撤回シ食料供給及二十萬磅ノ資金ヲ給與スルコトヲ提議シ

「ランシング」ハ米國ハ既ニ「エストニヤ」食料供給ノ爲ニ毎月四十萬磅ヲ支出シ居ルヲ指摘シ

「ビション」ハ資金供給ニ關シテハ大藏大臣ト相談スヘシト述ヘタリ

#### ロ、「リチュニア」「ラダブリヤ」

次ニ「フーバー」ハ「リチュニア」「ラダブリヤ」(「レツト人」)ノ食料缺乏ノ慘狀ヲ説キ「ボリシエビキ」軍スラ食料缺乏ノ  
爲撤退スルニ至リタルヲ(脱)食料供給ト同時ニ秩序ヲ回復スルノ必要ヲ述ヘ一同之ヲ諒トシタルモ

「リガ」地方ニハ尙獨逸軍アルヲ以テ是等地方ノ秩序回復食料供給ニ關シテハ陸海軍人ヲ含ム聯合國委員會ヲシテ其ノ實  
行方法ヲ調査セシムルコトトナレリ

#### 戊、匈牙利封鎖撤去

匈牙利封鎖撤去ニ關シ最高經濟會議ハ同國過激派政府ノ失脚ト共ニ同國ニ通商ノ自由ヲ與ヘムコトヲ決議シタルカ  
洪牙利ノ秩序回復セハ聯合國ハ之ニ通商ノ自由ヲ與フヘキコトトシ其ノ認定ハ最高經濟會議ニ一任スルコトシタリ

### ○五月十日五大臣會議

一、日 時 五月十日午後四時

一、出席者 牧野全權「ビション」「バルフォア」「ランシング」「ソンニノ」  
一、議長 「ビション」

一、内容 墓國ト「ユウガスラブ」國境問題(承前)

イ、墳國ト「ユウガスラブ」國境ニ關シ前日ノ五大臣會議ノ決定ニ基キタル委員會ヨリ英、米、佛委員ハ「カラワーンケン」  
連山ニ沿ウテ西(?)ニ走リ「ダルヴィイス」 Tarvis ノ西北ニ至ル線ヲ以テ墳國ノ國境トシ「ダルヴィイス」 Tarvis 南方ノ  
地帶ハ墳國ヲシテ聯合國ノ爲ニ拋棄セシムルノ案ヲ提出シ伊國委員ハ「アスリン」 Assling 地方及「タルヴィイス」

Tarvis 南方地帶ヲ墳領トスルヲ主張シタル旨ノ報告アリ  
ロ、「ソンニノ」ハ「トリエスト」「ガルグ、アソリムツグ」 Gorg Assoliniug 間鐵道ノ一部カ「ユーポースラブ」ニ屬スル

時ハ「トリエスト」ハ經濟上大打撃ヲ蒙ムルヘシト云ヒ

ハ、「ランシング」「バルノオア」ハ人種地理問題上伊國ノ主張ニ反對シタルカ  
ニ、「ソンニノ」ハ然ラハ「トリエスト」「ミヂネ、タルヴィス」Midine Tarvis 「ヴィルバツク」Villbach 間ノ鐵道ノ所屬ヲ決

定スル場合ニハ伊國ノ利害ヲ考慮ニ置クヘシトノ諒解ノ下ニ委員會ノ案ニ賛成スヘシト云ヒ

ホ、「ランシング」ハ委員會ノ報告セル塊國々境ハ「ダルヴィス」Tarvis ノ東迄ノ部分ヲ採用スヘシト提議シ  
ヘ、「ソンニノ」ハ之ヲ承認シ

ト、右ノ趣旨ニ依リ首相會議ノ採決ヲ求ムルコト、ナレリ

## ○五月十二日五國首相及外相會議

一、日 時 五月十二日午後四時

一、出席者 牧野珍田兩全權「クレマンソウ」「ビション」「ロイド、ジョージ」「バルフォア」「ウイルソン」「ホワイト」  
「オルランド」「ソンニノ」

一、議長 「クレマンソウ」

一、内 容 塊國々境問題

本日ノ會議ハ塊國々境ニ關スル五國首相會議ノ議定セルトコロヲ審議シ

甲、塊國ト「ユーポー、スラブ」トノ國境

(イ) 「カラバンケン」連山以北ノ「クラシゲンフルト」地方ハ塊國領トシ後日同地方住民ヲシテ「ユーポー、スラブ」ニ附屬  
スルコトヲ希望スルヤ否ヤノ意見ヲ表明セシムヘキ決定ヲ採用シ

(ロ) 「タルヴィス」東南地方ニ關シテハ五月十日五國外相會議(第四五頁參照)ノ決定シタル線ヲ以テ假ニ塊國々境ト定メ右

地方ノ所屬ニ關スル最後ノ決定ハ「ユーポー、スラブ」問題決定ノ後ニ讓ルヘキコト、ナシ

## 乙、塊匈兩國間國境

本問題ニ就キ「ウヰルソン」ハ塊國ハ國境改正ヲ申出ツル意嚮チル趣ニ付今ヨリ之カ研究ヲナス爲委員會ヲ編成スヘキ豫定  
ヲ以テセルモ結局原則トシテ千八百六十六年ノ兩國境界ニ依リ雙方ヨリ何等申出アル時ハ五大國ニ於テ裁決ヲ與フヘキコ  
トニ決定セリ

丙、「チエツク、スローヴァツク」ト塊國トノ國境及洪牙利ト羅馬尼「ユーポー、スラブ」「チエツク、スローヴァツク」トノ國境  
右ニ關シテハ五月八日及九日五國外相會議ノ決定ヲ採用セリ

## ○五月十四日五大臣會議

一、日 時 五月十四日午後四時

一、出席者 牧野全權「ビション」「バルフォア」「ソンニノ」「ホワイト」

一、議長 「ビション」

一、内 容

甲、白耳義ニ關スル千八百三十九年條約改正ノ手續

本件ニ關シ「ビション」ハ白耳義外務大臣「イーマンス」Hymans 氏ノ質問ニ對シ

(二) 白耳義全權委員トシテハ同氏一人ニテ足ルコト

(二) 白耳義ハ請求者ナレハ最初ニ其ノ主張ヲ聞キ(脱)蘭國側ノ意嚮ヲ聽取スルコト  
ニ回答シタルコトヲ報告シ一同之ヲ諒承セリ

乙、在獨露國人俘虜送還ノ件

本件ニ關シ「フォツシユ」元帥ノ提議ニ基キ先ツ非過激派ノモノヲ非過激派地方ニ送還スヘク之等ハ鐵道ニ依リ波蘭「チエツク、スロヴァキア」「ガリシャ」ヲ經テ輸送スルモノト海路「バルチツク」港ヲ經ルモノト海路「アルハングル」白海(?)西比利亞ヲ經テ送還スルモノトニ區別シ之カ爲「エストニア」「ラトヴィヤ」波蘭政府ニ露國俘虜通過許可方ヲ交渉スルコト並聯合國管理(「コントロール」)ノ下ニアル船舶ノ一部ヲ使用スルニ決セリ

丙、(脱)

丁、「シユレスウヰツヒ」地方人民投票ノ爲各國派兵ノ件

「レスウヰツヒ」地方人民投票(「ブレビシット」)施行ニ際シ或ハ騒擾アラムカトノ懸念ヨリ其ノ際同地方ニ英國艦隊司令官指揮ノ下ニ英米佛伊各國ヨリ艦隊及約一大隊ノ陸兵ヲ派遣スルニ決ス

戊、「ガリシャ」及「テツシンエン」問題

「ガリシャ」問題ノ調査ヲ委託サレタル波蘭問題委員會ハ他地方ノ處分ニ關シテハ未タ確定的成案ヲ見ルニ至ラナルモ差當リ塊國トノ講和條約ニ際シテハ何レノ途「ガリシャ」地方ハ塊國ト境ヲ接セサルヘク又「テツシンエン」問題ニ關シテハ未タ波蘭「チエツク、スローヴァツク」兩國政府間ニ協定成立セサルヲ以テ塊國トノ條約ニ於テ單ニ塊國ハ右等地方ヲ聯合國ノ爲ニ拠棄セシムル條項ヲ挿入セムコトヲ申出タルカ「バルフオア」ヨリ修正補充案ヲ提出シ左ノ條約案ヲ議決セリ

Austria renounces in favour of the Principal Allied and Associated Powers all her rights and titles to those of the territories situated beyond the frontiers of Austria as defined in Article.....which previously formed Austrian provinces of Galicia and Silesia as well as to the part of Bulgaria which has not been ceded to Rumania.

### (附 1)

## ○五月十日波蘭委員會

二、日 時 五月十日

一、内 容

「リチュアニア」代表者ノ意見聽取

### (イ) 趣旨

波蘭委員會ハ同國ノ東方國境査定ノ件ニ就キ一應既報ノ如ク決議シタル處(講和調書其六第二五頁參照)尙同方面及「ガリシャ」ニ關シ利害關係ヲ有スル筋ノ意嚮ヲ聽クコトニ決シ五月十日「リチュアニア」ノ代表者ヲ招キタルナリ

### (ロ) 陳述要旨

該代表者「ゾオダマール」ノ陳述要領左ノ通り

「リチュアニア」ハ「ヴラクトドル」及「スワリキ」(?)諸縣「タールランド」州及東普魯西中「リチュアニア」人ノ部分ヲ含メル完全ノ獨立國トナラムコトヲ欲シ露國又ハ波蘭ト聯邦ノ關係トナルヲ欲セス國際聯盟ニ入り其ノ保障ニ依ラムト欲ス波蘭又ハ露國ト同盟シ得ルヤ否ヤハ事態未タ確定セサル今日何トモ述へ難シ波蘭ニ對シ反感アルハ波蘭ノ政策カ數世紀ニ亘リ「リチュアニア」人ニ對シ非友誼的ナルニ因ル「リチュアニア」將來ノ經濟ハ歐洲ノ經濟狀態力戰爭ニ依リ一變シタル今日尙見込著ケ難キモ「リチュアニア」ハ波蘭又ハ露國ニ對スルヨリモ他ノ外國ニ對シ貿易ヲ行フコトナルヘシ波蘭ハ工業國ニシテ戰爭ノ打擊ヲ受クル大ナリシニ付復舊困難ナルヘキモ「リチュアニア」ハ農業國ニシテ速ニ富饒トナルヘシ云々

## ○五月十四日波蘭委員會

一、日 時 五月十四日

## 一、内 容

## 甲、在巴里露國政治會議代表者ノ意見聽取

五月十日ノ委員會ニ於ケルト同一ノ趣旨ニ基キ在巴里露國政治會議ト稱スルモノノ代表者前外相「サゾノフ」前大使「マク ラコーフ」「ジエンケウイツチ」將軍「マンデルスタム」其ノ他ヲ招キ其ノ意嚮ヲ聽キタルカ要旨次ノ通

波蘭ノ獨立闘争シテハ開戦當時「ニコライ」前皇帝ニ於テモ自治ヲ許スコトノ約束アリ又「ケレンスキー」政府ノ時人種ヲ標準トシ住民ノ多數波蘭人タル地方ハ波蘭トシテ獨立セシムルコト及露國ト軍事同盟ヲナスコトヲ決シタルナリ露國ノ各部分ニ民族獨立ヲ唱フル氣運アルモ同時ニ又之ニ反シ露國ト一體トナラムコトヲ欲スル氣運アルニ付宣ク民心ヲ考ヘラン必シモ一ノ標準ノミニ依リ無理ニ强行スルカ如キコトナキヲ希望ス

尙波蘭獨立トナルニ付露國ト財政經濟ノ關係ニ付措置スヘキコトアリ即露國債務ノ分擔國有鐵道國有財產ノ仕末ヲ就ケアルヘカラス且波蘭領内ニ居ル露國人民取扱ニ付テモ考慮スルヲ要ス云云

## 乙、獨逸ト露國過激派トノ聯絡

尙今日ノ會議ニ於テ議長「カンボン」ハ祕密ノ情報ナリトテ曰ク普魯西陸軍省ヨリ四月二十一日附ニテ東普魯西ニ於ケル軍憲ニ宛タル機密通信ニ依レハ今回ノ講和條件ハ獨逸トシヲ到底承諾シ難キモノアルヘシト想像セラルニ付東西兩方面ニ互リ萬一二處スル準備ナカルヘカラス東方面ニ於テハ一旦和議破裂スルトキハ波蘭ノ侵入ヲ考慮セラル、(?)ニ付テハ斯ノ如キ事情ニ鑑ミ露國ト軍事上相應シ得ル方法ヲ講シ置クコト必要ナリトノ趣旨ナリ即獨逸ト露國ノ過激派政府トノ消息相通スルモノアルコトハ之ニ據リ益確カメラレタリ

## (附 二)

## ○波羅の委員會第一次會合

(註) 過般五大臣會議ニテ「バルチック」諸邦ニ關スル問題ハ之ヲ特別委員會ヲシテ研究セシムルコトトシタル處右決定ニ基キ

日本、落合

英國在瑞典公使「ハワード」

佛國外務省政務通商歐洲部長「カムレル」

米國「ドクトル、モリソン」

伊國全權公使「デラ、トレッタノ」

委員ニ任命セラル

一、日 時 五月十五日

一、議 長 英國委員

一、内 容

## 甲、本委員會ノ審議事項決定

本委員會ハ「エストニア」「ラトヴィヤ」「リチュニア」「フィンランド」「アランド」島問題ヲモ含ム等「バルチック」諸邦ニ關シテ聯合國ノ執ルヘキ態度及右諸邦及露國間ノ關係等ノ政事及其ノ他ノ問題ヲ審議スルコトニ決ス佛國委員ノ提議ニ基キ本委員會ハ「バルチック」諸邦ノ獨立問題等聯合國政府ノ之ニ對スル根本政策ニ關スルコトモ決議スルコトシ次回五月二十二日ノ議事日程トシテ先ツ「エストニア」及「ラトヴィヤ」問題ヲ研究スルコトトス乙、「リガ」及「バルチック」諸邦救援問題

イ、「エストニヤ」「ラトヴィア」ノ現状

議長ハ「バルチック」諸邦ノ現状ヲ述ヘ「エストニヤ」ニハ四萬ノ既成軍隊ト二萬ノ編成中ノモノトアリ「ボルセビキ」ニ對シ「ナルバア」及「フスコウ」附近迄進ミタルカ最近「ナルバア」ヲ失ヒタリ形勢困難ニシテ「ボルセビキ」ト休戦トナシタキ意嚮アルハ殘念ナリ「エストニヤ」ト「ラトヴィア」トハ「ボルセビキ」ニ中斷セラレ居レリ「ラトヴィア」軍ハ一時ハ「ヴィンダウ」ヲ失ヒタルモ現時之ヲ取返シ「ミトウ」ノ線迄進ミ居レリ「ソバウ」ニハ過般政變アリ同地方獨軍指揮官「フォン、デル、ゴルツ」ノ之ニ關係アルヤノ疑アリ

#### ロ、リガ方面

議長ハ又「バルチック」諸邦ノ食糧問題ヲ研究スル委員會（之ハ本委員會トハ別トシテ帝國側ヨリハ委員ヲ出シ居ラス）カ五月十四日ノ會議ニ於テ「リガ」方面ニ於ケル食糧不足ノ爲人民力死セムトスル爲之カ救濟ノ必要アルコト之カ爲ニハ同地方ノ秩序回復ヲ必要トスル處目下同地方ニ在ル獨逸兵ヲ撤退セシメ之ト同時ニ「ボルセビキ」ニ對抗スル爲同地方民ハ勿論芬蘭人等ヲモ加ヘタル志願兵ヲ募集スヘク右軍隊編成ノ爲不取敢英國將校ヲ首班トセル英、佛、米聯合國軍人ノ「ミツシヨン」ヲ該「リガ」方面ニ送ルコト及聯合國ハ「バルチック」諸邦ヲシテ食糧補給軍隊編成等ノ費用ニ宛テシメムカ爲右諸邦ニ千萬磅ヲ貸付タルコトヲ五大臣會議ニ提議スルニ決シタル次第ヲ述ヘタルカ

#### ハ、決 定

本委員會ニ於テモ聯合國政府カ速ニ右軍事委員ヲ「リガ」ニ送リ他方「バルチック」諸邦ニ於ケル各政黨ノ聯立内閣ノ成立ヲ援助セムコトヲ五大臣會議ニ提出スルコトス

#### 備 考 「バルチック」方面ヘノ各國派遣員

會議中帝國委員ノ間ニ對シ英國政府ハ「リバウ」及「レベエル」ニ代表者ヲ派遣シ居リ米國政府ハ情報ヲ得ル爲一名ノ士官ヲ該方面ニ派遣シ居レリ又佛國政府モ一名ノ代表者ヲ「リバウ」ニ派遣シ居ル旨英、米、佛委員ヨリ答ヘタリ尙該地方ヘノ

旅行ハ「ストツクホルム」ヲ通リテ赴ク由ナリ

#### （附 二）

### ○「ベルン」社會黨會議實行委員ノ講和條件ニ關スル宣言 （五月十五日發電ニ依ル）

本年二月瑞西「ベルン」ニ開カレタル國際社會主義者ノ會議ニ於テ巴里講和會議ノ事業ヲ監視スル爲「ルノーデル」（Renault）「ラングエール」（Langueret）（佛）「マクドナルド」（Macdonald）「ビュンニング」（Buning）（英）ノ數名ヨリ成ル實行委員（Commission d'action）ナルモノヲ組織シタルカ右委員會ハ本月十二日巴里ニ會合シ今次ノ講和條件ニ關スル「インターナショナル」ノ宣言書ナルモノヲ發表シタリ。

右宣言書中講和會議カ行ヘル重大ナル過失ナリトシテ

- (一) 國際聯盟ノ不完全
- (二) 獨逸ニ對シテ今(?)軍備ヲ制限スルノ不條理
- (三) 波蘭國境ニ關シ獨逸ヲ二分スルノ危險
- (四) 「ザール」炭鑛地方ノ併合的處分
- (五) 獨逸殖民地ノ受任國（「マンダトリーア」）中ニ獨逸ヲ加ヘサルノ非理ヲ指摘シタル後
- (六) 講和會議カ山東問題及其ノ利權並三千萬乃至四千萬ノ支那人ヲ日本ノ支配ノ下ニ置クコトセル殘忍ナル處分ノ方法ハ征服ノ權利ヲ認ムモノニシテ默過スヘカラスト論述シ居レリ

(附四)

山東問題及一般支那關係事項

目 次

A、山東問題	五五
甲、山東ニ關スル講和條約確定案文	五六
乙、山東問題ノ圓滿解決ヲ誘致シタル一般情勢	五六
丙、山東問題ニ關スル日本ノ態度公表	五七
丁、山東問題ニ關スル支那側「ステートメント」	五八
戊、山東問題ニ對スル米國議會ノ態度ニ關シ在巴里帝國委員ヨリノ來電	六三
己、山東問題ノ成行ニ關スル巴里新聞紙ノ論調	六三
庚、山東問題ノ成行ニ關スル巴里新聞紙ノ論調	六五
辛、支那側ノ山東關係條文調印ニ關スル新聞所報	六六
B、一般支那關係事項	六六
甲、支那關係講和條約確定案(山東以外ノ分)	六七
乙、支那關係講和條約案(山東以外ノ分)ニ對スル五月十五日支那側ノ抗議	六九
丙、支那涉外諸問題ニ關スル支那側ノ意見書提出	七〇

A、山東問題

内 容

## 甲、山東ニ關スル講和條約確定案文

### 第八款 山 東

#### 第一百五十六條

獨逸國ハ山東省ニ關シ千八百九十八年三月六日支那國ト締結シタル條約並其ノ他一切ノ協定ニ因リ同國ノ取得シタル一切ノ權利權原若ハ特權特ニ膠州灣地域、鐵道、礮山及海底電線ニ關スルモノヲ日本國ノ爲ニ拋棄ス。

膠濟鐵道及其ノ支線ニ關シ獨逸國ノ有スル一切ノ權利並各種ノ附屬財產、停車場、工場、固定資料並車輛、礮山、諸設備及礮山採掘用機材ハ之ニ附帶スル一切ノ權利及特權ト共ニ日本國ニ依リ取得保持セラルヘキモノトス。

青島上海間及青島芝罘間ノ獨逸國有海底電線モ亦之ニ附帶スル一切ノ權利、特權及財產ト共ニ無償且無條件ヲ以テ日本國ニ依リ取得セラルヘキモノトス。

#### 第一百五十七條

膠州灣地域内ニ於ケル獨逸國有ノ動產及不動產並該地域ニ關シ同國ノ爲シタル施設若ハ改良又ハ其ノ直接若ハ間接ニ負擔シタル費用ニ基キ獨逸國ノ要求シ得ヘキ一切ノ權利ハ無償且無條件ヲ以テ日本國ニ依リ取得保持セラルヘキモノトス。

#### 第一百五十八條

獨逸國ハ現條約ノ效力發生ノ時ヨリ三月以内ニ膠州灣地域ノ民政、軍事、財政、司法、其ノ他ノ行政ニ關スル各種ノ記錄、帳簿、設計書、地券其他一切ノ文書ヲ其ノ所在ノ如何ニ拘ラス日本國ニ引渡スヘシ。

前記期間内ニ於テ獨逸國ハ前二條ニ記述シタル權利、權原又ハ特權ニ關スル一切ノ條約、協定又ハ取極ノ細目ヲ日本國ニ提供スヘシ。

#### 乙、山東問題ノ圓滿解決ヲ誘致シタル一般情勢

四月二十日伊國首相巴里引揚以來「フューメ」問題ノ中心ハ羅馬ニ移リ巴里ニ於テハ膠州灣國際聯盟白耳義補償海底電線處分問題及獨逸講和全權委員來着ノ件等世論ニ上レル處膠州ニ關スル我主張ニ對シ異議ノ專ラ米國側ヨリ出テ且英佛カ祕密條約ニ於テ既ニ我ニ同意ヲ表セル關係上外形頗ル「フューメ」問題ニ類似セルヲ以テ伊國問題ニ依リ喚起セルノ注意ハ一轉シテ膠州灣問題ニ集中シ又四月二十八日國際聯盟討議ノ會議（調書其七第八九頁以下）ニハ世間ハ人種問題ノ重ネテ日本ヨリ提議セラルヘキヲ豫見セシヲ以テ旁々我全權委員ノ態度ハ頗ル注意セラレシモノ、如シ爲メニ膠州灣問題ニ關シテハ支那側カ外國新聞記者ヲ勸説シ又ハ關係外國人ヲ奔走セシムル等極力「プロバガンダ」ニ努メタルヨリ英佛大小ノ新聞紙連日多少ノ記事ヲ掲載セサルナク遂ニハ伊國ノ例ヲ追ヒ我全權委員モ亦巴里ニ引揚ヘシト迄風説セラレタリ斯ク形勢ハ一時切迫ノ感ヲ呈シタルモ之ニ對スル我主張ノ明白ニシテ態度ノ斷然タルモノアリタル一面我支那政策ニ對スル米國側ノ疑惑ノ念甚タ深ク支那保全ノ爲メニハ動モスレハ從來ノ行懸條約等ヲ顧ミサラムトスル「ウイルソン」氏ノ理想ヨリ成レル態度頗ル固キモノアリシハ勿論人種問題ニ於テモ日本ノ間越ニ難キ溝渠ノ存スルノ内情窺知セラレタリ既ニシテ人種問題ニ對スル我態度ハ一面ニ於テ膠州灣ニ關スル我主張ノ強硬ヲ示スモノトナレルト共ニ我對支政策ニ對スル米國側ノ疑心モ當方ノ説明ニ依リ漸次緩和シ來リタル結果膠州灣問題ノ協議事ナキヲ得ルニ至レリ

#### 丙、山東問題ニ關スル日本ノ態度公表

四月三十日ノ首相會議ニ於テ日本委員ノ約シタル日支條約及取極ノ解釋ニ付「ステートメント」公表ノ件（調書其七第七三頁以下）首相會議ニ於テハ可成速カニトノ希望モアリ時機ヲ待チ居リシカ五月四日支那全權ノ「ステートメント」新聞ニ發表セラレタルヲ以テ（後掲丁、山東問題ニ關スル支那側「ステートメント」其一參照）此際日本ノ地位ヲ一般ニ説明シ置クト最自然ノ徑路ナルヲ以テ之ヲ機トシテ左ノ通主要ナル新聞通信社ヲ通シテ會見談ノ形式ニテ發表シ首相會議ノ約束ヲ覆行セリ

In an interview with representatives of Reuter (Associated Press or Havas), Baron Makino wished to make clear by way of explanation of Japan's position in reference to Shantung question, that the policy of Japan is to hand back Shantung Peninsula in full sovereignty to China, retaining only economic privileges granted to Germany and right to establish a settlement under usual condition at Tsingtao. Regarding the railway which is to become Chino-Japanese joint undertaking, Baron further stated that owners of the railway will use special police only to insure security for traffic, that they will be used for no other purpose, and that police force will be composed of Chinese and such Japanese instructors, as directors of the railway may select, will be appointed by Chinese Government.

## (譯文)

牧野男ハ山東問題リ關ベル日本ノ立場ヲ闡明セムカ爲路透(聯合通信又ハ「ハバベ」通信)社員トノ會談ニ於テ左ノ説明ヲ與エラシタク

日本ノ政策ハ山東半島ヲ支那ノ完全ナル主權ノ下ニ還附シ獨逸ニ許與セラシ居タル經濟上ノ特權並ニ一般行ハシ居ル條件ノ下ニ居留地ヲ設定スル權利ノミヲ保有スルニ在リ

同男ハ又追テ日支合辦事業トナルヘキ鐵道ニ關シ左ノ通り言明セラレタリ  
鐵道所有者ハ運輸ノ安全ヲ保障スル爲メニノミ特別警察官ヲ使用シ此等警察官ハ此ノ以外ノ目的ノ爲メ使用セラルルトナク又該警察隊ハ支那人ト及鐵道會社ノ取締役カ選擇シ支那政府ニ於テ任命ベキ日本人教習トヨリ成ルベシ

## 丁、山東問題ニ關スル支那側「バチーナー」

## ◎其一

五月四日山東問題ニ關シ支那全權ノ「バチーナー」[巴里]新聞ニ發表セラル左ノ通 (五月六日在米石井大領來電ニ依ル)

The Chinese delegation has been informed orally on behalf of the Council of Three of the outline of the settlement proposed regarding the Shantung question. Under this settlement, all rights to Kiaochau formerly belonging to Germany are transferred to Japan. While Japan voluntarily engaged to hand back Shantung Peninsula in full sovereignty to China, she is allowed to retain economic privileges (既得権) formerly by Germany.

These privileges, the delegation is informed, refer to Tsingtao-Tsinan railway, 180 miles long, mines connected with it and two railways to be built connecting Shantung with two trunk lines from Peking to Yantze valley. In addition, she obtains right to establish settlement at Tsingtao and although Japanese military forces, it is understood, will be withdrawn from Shantung at earliest possible moment, employment of special railway police is permitted.

Such being the outline of the proposed settlement, Chinese delegation cannot but view it with disappointment and dissatisfaction.

These German rights in Shantung originated in an act of Wanton aggression in 1897, characteristic of Prussian militarism. To transfer these rights to Japan, as the Council of Three proposes to do, is therefore to confirm an act of aggression which has been resented by Chinese people ever since its perpetration.

Such virtual substitution of Japan for Germany in Shantung is serious enough in itself, but it becomes grave when the position of Japan in Southern Manchuria and Eastern Mongolia is read in connection with it. Firmly intrenched on both sides of Gulf of Pechile water outlet of Peking with hold on three trunk lines from Peking and connecting it with rest of China, the capital becomes but enclave in midst of Japanese influence.

Moreover owing to China's declaration of war against Central Powers on August 14, 1917 and abrogation of all treaties and agreements between China and these Powers, German rights automatically reverted to China. This declara-

tion was officially notified to and taken cognizance of by the Allied and Associated Governments. It is, therefore, significant that the Council, in announcing settlement of Kiauchau-Shantung question, referred to rights to be transferred to Japan as rights formerly belonging to Germany.

It appears clear then that the Council has been bestowing on Japan rights not of Germany but of China, not of enemy but of ally. More powerful ally has reaped benefit at the expense, not of common enemy, but of weaker ally.

Besides Shantung is China's holy land packed with memories of Confucius and Mencius and hallowed as cradle of her civilization.

If it is intention of the Council to restore it to China, it is difficult to see on what consideration of principle or of expediency could be justified the transfer in first instance to Allied Power which then voluntarily engages to hand it back to rightful owner.

Japan based its claim for German rights in Shantung also on treaty and notes of 1915 and notes of 1918 with China. It is to be noted however that documents of 1915 were agreed to by China under coercion of militarism threatening war in case of noncompliance with twenty one demands.

Notes of 1918 were made by China as price for Japan's promise to withdraw her troops whose presence in the interior of Shantung as well as establishment of Japanese Civil Administration Bureau in the district had aroused such popular opposition that Chinese Government felt constrained to make arrangement.

Chinese delegation understands that the Council was prompted by the fact that Great Britain and France had undertaken in February and March 1917 to support at peace conference transferring to Japan of German rights in Shantung. To none of these secret agreements was China a party nor was she informed of their contents when invited to join war

against Central Empire. Fortunes of China appear thus to have been made objects of negotiation and compensation after she had already definitely allied herself with Allied Powers.

Apart from this, it is at least open to question how far these agreements will be applicable inasmuch as China has since become belligerent. Claims of Japan referred to in this agreement appear moreover to be scarcely compatible with fourteen points adopted by Powers associated against Germany. If the Council has granted claims of Japan in full for the purpose of saving the League of Nations as it is intimated to be the case, China has less to complain of believing as she does that it is duty to make sacrifices for such noble cause as the League of Nations. She cannot however refrain from wishing that the Council has seen fit, as would be far more consonant with the spirit of the League, now on the eve of formation, to call upon strong Japan to forgo her claims animated by desire for aggrandizement instead of upon weak China to surrender what is hers by right.

China came to conference with strong faith in lofty principles adopted by the Allied and Associated Powers as basis of just and permanent world peace. Great therefore will be the disappointment and disillusion of the Chinese people over the proposed settlement.

If there is reason for the Council to stand firm on the question of Fiume, there would seem to be all the more reason to uphold the claim of China relating to Shantung which includes future welfare of 36,000,000 souls and highest interest of peace in the Far East.

"The Chinese delegation has issued another statement pointing out that although three days have elapsed since an announcement was made of the settlement of the case by the Council of Three no official written communication of details of the settlement has yet reached the delegation. This has made the Chinese delegation indignant, says the statement, and it will be difficult to explain to the Chinese people what the peace conference really means by justice."

The following are passages from the new statement: "It is clear that the Council makes China lose both ways. It has given Japan not only more than Germany had in Shantung but also more than Japan claims from China in the treaty of 1915 and the note of 1918. The Council proposed the settlement which seems to sanction, for example, the policing of Shantung railway, privilege which Germany did not exercise or claim and it is apprehended that substitutes a permanent Japanese settlement under Japanese control and administration for the German leasehold which limited to the fixed period of years. The more the Chinese delegation studies the proposed settlement the less it understands its meaning and purpose, and the more it feels aggrieved."

## 右譯文

支那委員ハ更ニ一公表書ヲ公表シテ曰クニ頭會議ニ依リテ該問題(山東問題)ノ解決ニ關スル聲明ノ發表セラレテヨリ既ニ三ヶ口ヲ經過セント雖モ該解決ニ關スル詳細ナル公式ノ通告文書ハ未タ支那委員ノ入手セサル所ナリ此事タル支那委員ヲシテ憤慨セシムル所以ニシテ又支那人民ニ對シ平和會議ニ於テ「正義」トハ眞ニ如何ナル意味ヲ有スルヤヲ説明スルニ若マシムル所ナルヘン

以下新公表書ノ章句ヲ摘出センニ曰クニ頭會議ハ支那ヲシテニ重ニ損失ヲ蒙ラシメシコト明カナリ即チ該會議ハ日本ニ對シ山東ニ於テ獨逸カ有セシヨリ以上ノモノヲ與ヘタルノミナラス更ニ又日本カ一九一五年ノ條約及一九一八年ノ公文

ニ於テ要求セルヨリ以上ノモノヲ與ヘタリ例之該會議ハ山東鐵道ニ對スル警察權即チ獨逸カ未タ實行モ要求モ爲サナリシカ如キ特權ヲ認許セントスルノ解決案ヲ提議セシカ如シ之レ一定年限ヲ有セシ獨逸ノ租借權ニ代フルニ日本ノ管理及行政ノ下ニ永久的日本居留地ヲ以テセントスルモノニアラスヤト危マル  
依之支那委員カ右解決案ナルモノヲ研究スルニ從ヒ益々該案ノ意義ト目的トヲ了解スルニ苦シムト共ニ又益々之ニ對シ苦惱ヲ感セサルヲ得サルナリ

## 戊、山東問題ニ關スル支那ノ抗議

(五月六日巴里發電ニ依ル)

註、此抗議カ如何ナル機會ニ提出セラレタルヤ明白ナラサルモ後述五月十五日ノ抗議文(Bノ乙參照)及小幡駐支公使來電譲第八八二號ニヨリ察スレハ五月六日聯合國總會議ノ際講和會議書記局ニ提出セラレタルモノナルヘシ膠州灣及山東問題ニ關シ首相會議ノ與ヘムトスル解決タルヤ對獨逸人ノ權利ノ處分ニ關スル條項ハニ右ノ解決ニ基クモノノ如クナルカ今ヤ右解決ニ付支那全權委員ハ深ク失望ノ意ヲ表セサルヲ得ス此失望ノ念ハ支那國民全體ニ於テモ同様深ク懷抱スル處ナルヘキヲ確信ス而シテ右ノ解決タルヤ支那全權カ義ニ首相外相會議及首相會議ニ招カレタル機會ニ於テ常ニ主張シ來リタル支那ノ權利正義及國家ノ安全ニ付十分考量スル處ナク採用セラレタルモノ如シ右解決ニ對シ其修正ヲ得ムトノ希望ヲ以テ正式ニ抗議シ置キタルカ若シ該修正行ハレ能ハストセバ前記ノ條項ニ關シ茲ニ留保ヲ爲ササルヲ得スト認ム尙ホ本宣言ハ之ヲ議事錄ニ留メラレムコトヲ請フ

## 己、山東問題ニ對スル米國議會ノ態度ニ關シ在巴里帝國委員ヨリノ來電

(イ) 五月五日巴里發電

米國上院カ國際條約ノ批准ニ際シ宣言若ハ決議ヲ附帶セシムルノ後從來稀ナラサル處現下米國政界ノ趨勢ニ顧ミ今回

講和條約ニ付又此種ノ措置ニ出テサルヲ保シ難ク現ニ當方ニ傳ハレル新聞紙等ニ依レハ六月初旬ニ開會セラルル模様ナ  
ル米國議會ニ多數黨タルヘキ共和黨領袖上院議員「ロッヂ」氏 (Senator Lodge) ノ如キ米國上院ハ講和條約中ニ山東省ニ  
關スル日本ノ要求ヲ載スルコトヲ承認セサルヘシト公言シ「ヘラルド」「タイムス」等ノ新聞紙モ強硬ニ日本反對ノ態度ヲ  
取リ居ル趣ナルノミナラス米國ニ於ル支那側「プロバガンダ」ノ益々強烈トナルヘキノ一事ニ想到セハ何等カノ形ニ於テ  
米國上院カ講和條約ニ載セタル我要求ニ對シ不同意ノ旨ヲ主持スルコトトナルヘキヲ豫想スル方安全ナルヘクスル事態  
ハ獨リ目今ノ講和條約問題ニ累及スルノミナラス永ク日米關係ノ大局ニ深甚ナル惡影響ヲ及ホスニ至ルヘキヲ以テ今ヨ  
リ豫防手段ヲ講スルコト必要ナリト思惟セラル

故ヲ以テ一面主トシテ上院議員次ニ下院議員ノ間ニモ相當手配ヲ爲シ他面我カ「ブレス、キャンベーン」(新聞操縱)ノ機  
關ヲ整備シ極力支那側ノ「プロバガンダ」ニ拮抗スルノ必要アルヘシ尙本件ニ就テハ山東問題ニ關スル四月二十九日ノ首  
相會議ニ於テ大正四年五月日支條約等ニ對スル米國ノ態度ヲ示セル大統領ノ言說ヲモ合セ玩味スル價值アリ(講和調書  
其七第六四頁參照)右ニ就テハ當方面ノ觀測ニ依レハ米國刻下ノ情勢ハ決シテ樂觀シ得ヘキ場合ニアラスト考ヘラル  
折柄駐米石井大使離任ノ報ニ接シ益々憂慮ニ堪ヘサル次第ナリ若シ石井大使未タ歸朝ノ途ニ就カサルニ於テハ尠クトモ  
米國議會閉會免同大使ノ離任ヲ見合ハサシムルコト現今ノ狀勢ニ應スル爲緊要ナリト認メラルニ付此段併セテ申述  
ス

(ロ) 在佛全權委員發駐米石井大使宛電報

(五月十六日巴里ヨリ轉電)

山東問題ニ關スル講和會議ノ決定ニ關聯シ米國議會ノ講和條約ニ對スル態度ニ付之ヲ當地ヨリ觀察シ憂慮ヲ抱キタル  
而開下御出發ノ有無明ラカナラナリシヲ以テ不取敢外務大臣ニ別電(前掲(イ)ニ當ル)ノ通电見申述シ又河上清ヲシテ米  
國ニ於ル「ブレス、キャンベーン」ノ爲其渡歐ヲモ差止ムル方可然旨上申シタル次第ナルカ本件ニ關スル閣下ノ御見込及御  
意見承知致シタシ尙當方ノ機密費融通ノ餘地アルニ付若シ必要ト認メラルニ於チハ所要額御申越アタシ

## 庚、山東問題ノ解決ニ關スル巴里新聞紙ノ論調

(五月五日巴里發電ニ依ル)

### 一、問題解決前

山東問題ハ伊太利ノ退却我人種平等問題ニ續キテ新聞界ノ注意ヲ集メ當地種々ノ新聞紙悉ク我態度ノ強硬ナルヲ傳ヘ若  
シ日本ノ主張ニシテ貫徹ヲ見サルニ於テハ日本ハ伊太利ノ後ヲ逐ウテ巴里ヲ退却スヘシト記載スルモノ多ク而モ「アド  
リアチック」ノ問題ニ於テ「ウヰルソン」ノ執リタル態度ニ鑑ミ或ハ日本ハ互讓ノ結果此際特ニ約束ヲ結ヒ又ハ遺附ノ時  
期ニ付聲明ヲナス等ノ條件ノ下ニ其要求通り決定ヲ見ルニ至ルヘキ等(「エコード、パリー」 Echo de Paris 紐育「ヘラ  
ルド」 New York Herald) 取沙汰セラレタリ

### 二、問題解決後

四月三十日本件解決ノ報傳ヘラル、ヤ新聞記者間ニハ尙一般ニ日本ハ何等カ特約ヲ取付ケラレタリトノ感想頻ニ行ハレ  
タリシカ五月二日(五月一日ハ巴里新聞紙全部休刊)ノ諸新聞紙ハ舉ツテ本件ハ日本ノ全勝乃至大満足ニ解決セラレタリ  
ト報シ紐育「ヘラルド」 New York Herald ハ附言シテ日本側カ尙本件ニ關シ言說ヲ避ケタシト云ヘルモ支那側ニテハ意  
外千萬ナリ支那ヲ誘ヒテ參戰セシメタル米國及(脱)ヲ歓迎シタル聯合諸國カ今ニ及シテ支那ヲ見棄ツヘシトハ信セラレ  
ス云々ト語レリト記シ尙本件ハ「アドリアチック」問題ニ對スル「ウヰルソン」ノ態度ニ鑑ミ驚愕ナリト稱シ巴里「ミヂ」  
ハ外交官ナル署名ノ下ニ三首相會議ノ山東ニ關スル決定ハ正シキ方向ヲ採レモノト云フヘシ日本ノ外交ハ實際的ニ  
シテ實明ナリ而シテ今回解決ノ一效果ハ稍モスレハ北支ニ於テ利害衝突ノ惧アル日米ノ親近ヲ致シタルコト之ナリト論  
シタル長文ノ記事ヲ掲ケ山東問題ニ關スル事實ヲ羅列シテ日本ハ既定ノ條約合意以上ニ何物ヲモ要求シタルコトナシ今  
回ノ決定ハ全ク右條約合意ヲ確認スルモノニシテ日本ノ全然満足スル所ト述ヘ五月三日「オム、リーブル」ハ山東問題

ハ好都合ニ解決セラレ各方面ノ満足スル所ナリ日本カ過去ノ約定ニ依リタルハ誠ニ賢明ノコトト云フヘシ之レ一大教訓ニシテ徒ラニ喧噪ヲ事トセス過去ノ實情ヲ遵奉セハ解決容易ナル問題渺カラスト論シ「ニユーヨーク、ヘラルド」ハ山東問題解決ハ「フューメ」問題ニ關シ伊國ニ有利ノ影響ヲ與フルモノナリト語シ「アクション、フランセーズ」ハ「ロッヂ」米國上院議員ノ言動ニ顧ルモ大統領ハ本件ニ關シ必ス米國ノ反抗ヲ受クヘシト云ヘリ英國「マンチエスター、ガーディアン」(五月一日)ハ日本カ形式上ノ勝利ヲ得タルハ別段ニ差支ナシ只日本カ實質上山東及蒙古ニ於テ其滿洲ニ於テ有スルカ如キ地歩ヲ固ムルニ至ラハ支那全國及聯合國商業ニ採リ由々敷重大事ナリト論シ「ロンドン、タイムス」(五月三日)ハ簡單ニ日本外交ノ一大勝利ナリト記セリ

### 辛、支那側ノ山東關係條文調印ニ關スル新聞所報

一、巴里新聞所報ニ依レハ九日在巴里支那人ノ催シニ係ル一會合ニ於テ在佛支那公使竝ニ塊國講和全權委員等會同ノ上山東問題ノ處分ニ關スル限り講和條約ノ批准ヲ拒ミ歐米各上院ニ訴フル旨決議ヲ爲セリト云フ

二、十一日巴里新聞報左ノ通リ

セリ

三、十四日巴里新聞所報左ノ通

顧維鈞ハ支那全權カ膠州灣ニ關スル首相會議ノ決定ニ反對セザルヘキ旨「ウヰルソン」ニ約セリトノ報道ヲ事實無根ナリト否定シ居レリ尙ホ當地支那全權幹部ハ世界各地ヨリ續々右首相會議決定反對及條約不調印ヲ勸懲スル電報ニ接シ居レ

リ

### B、一般支那關係事項

#### 甲、支那關係講和條約確定案(山東以外ノ分)

(五月十一日及十五日着電ニ依ル)

(一) 案文出來ノ次第

支那ニ關スル講和條約文ニシテ三首相會議ニテ決定シ起草委員會ニ回送シ我方ノ意見ヲモ參酌修正ノ上確定セルモノ左記ノ通(三参照)該確定案出來以前ニ本件ニ關スル英國案ナルモノアリシ由ナルモ之ヲ報告シタル講第八五四號ハ未着ニ付之ヲ略ス

(二) 領事裁判權撤廢ト條約案

尙左記條約案ヲ起草委員會ニ於テ審議ノ際米國委員ハ領事裁判權撤廢ヲ獨逸ニ約セシムルノ案ヲ提出セシカ英佛兩委員ハ之カ爲メ自己ノ裁判權撤廢ノ俑ヲ作ルモノト思惟セシニヤ之ニ反對シタルヲ以テ成立ニ至ラサリシ次第ナリ

(三) 案文

支那

第一二八條 獨逸國ハ支那國ノ爲メ一九〇一年九月七日北京ニ於テ調印セラレタル最終議定書ノ規定並ニ其ノ補足公文及文書ヨリ生スル一切ノ利益及特權ヲ拠棄シ且ツ支那國ノ爲メ一九一七年三月十四日以後ニ於ケル右議定書ニ基ク賠償ノ要求權ヲ拠棄ス

第一二九條 締約國ハ本條約實施後直チニ各自國ノ關スル限り左ノ取極ヲ適用スヘシ

一、支那新關稅率ニ關スル一九〇二年八月二十九日ノ取極

二、黃浦江ニ關スル一九〇五年九月二十七日ノ取極及一九一二年四月四日ノ補足假取極

但、支那國ハ獨逸國ニ對シ前記取極ニ依リ與ヘタル利益並ニ特權ヲ今後獨逸國ニ附與スルノ義務ナキモノトス  
第一三〇條 獨逸國ハ天津及漢口並ニ支那國ノ其他ノ地方ニ於ケル獨逸專管居留地ニ存在シ並ニ存在スルコトアルヘキ管  
逸國政府ノ建物波止場船橋兵營要塞兵器及軍需品各種船舶無線電信裝置其他官公有財產ヲ本編第八款ノ規定ニ從ヒ支那  
國ニ讓渡ス

但シ外交官並ニ領事官ノ住宅又ハ事務所用建物ハ前記讓渡中ニ包含セサルモノトス又支那政府ハ本條約實施ノ際尙ホ一  
九〇一年九月七日ノ最終議定書當事團タル列國外交代表者ノ同意無クシテハ北京公使館區域内ニ在ル獨逸公私有財產ヲ  
處分スル爲メ何等ノ措置ヲ執ルコナカルヘシ

第一三一條 獨逸國ハ獨逸軍カ一九〇〇年ヨリ一九〇一年ニ至ル間ニ支那國ヨリ奪取シタル一切ノ天文機械ヲ本條約實施  
ノ日ヨリ十二箇月以内ニ支那國ニ返還シ且右復舊實行ノ爲メニ生ス可キ費用即チ右機械ノ取外シ、荷造リ、運搬、北京  
ニ於ケル据付ケ並其保險費ヲ含ム一切ノ費用ヲ支辨スルコトヲ約定ス

第一三二條 獨逸國ハ漢口及天津ニ於ケル獨逸專管居留地保持ノ基礎タル支那國政府トノ租借約定ノ廢止ヲ承認ス支那國  
ハ前記地域ニ對スル其主權ノ完全ナル行使ヲ回復シタル上ハ萬國居留地並通商ノ爲之ヲ開放スヘキ意思ナルコトヲ宣明  
ス又支那國ハ前記專管居留地保持ノ基礎タル租借約定廢止ノ結果其地域内ノ地區借地人タル同盟國及聯合國臣民ノ財產  
權ヲ變更スルコト無カル可キヲ宣明ス

第一三三條 獨逸國ハ支那國政府又ハ同盟國及聯合國政府ニ對シ支那國ニ在ル獨逸人ノ抑留若ハ本國送還ニ付何等ノ要求  
ヲモ爲ササルコトヲ約定ス又獨逸國ハ支那國ニ於ケル獨逸船舶ノ差押又ハ一九一七年八月十四日以後同國ニ於ケル獨逸  
財產、權利、利益ニ對スル清算、差押若ハ管理ノ故ヲ以テ何等ノ要求ヲモ爲ササル可キコトヲ約定ス

但シ右規定ハ右條約第一〇編(經濟條項)ニ規定セラレタル右清算ノ結果ニ對スル利害關係者ノ權利ヲ變更スルコトナシ  
第一三四條 獨逸國ハ英國政府ノ爲廣東沙面英國專管居留地内ニ在ル獨逸國有財產ヲ拋棄シ且佛國支那國政府共同利益ノ

## 爲上海佛國專管居留地内ニ在ル獨逸學校ノ財產ヲ拋棄ス

### 乙、支那關係講和條約案(山東以外ノ分)ニ對スル五月十五日支那側ノ抗議

支那全權ハ五月十五日附ヲ以テ講和會議々長宛左記趣旨ノ抗議ヲ提出シタリ

五十六日ノ總會議ニ於テ支那委員ハ對獨講和條約案文山東省ニ於ル獨逸ノ利權並膠州灣ニ關スル規定ニ付不取敢留保ヲ爲  
スノ要アルヲ認メタル處其ノ後條約成案查閱ノ結果支那ニ關スル他ノ特別條項ニシテ支那委員ノ嘗テ其ノ議ニ與カラサリ  
シモノアルヲ發見シタルニ付左ノ通意見開陳ス就テハ是等條項ノ再審議ニ關シ支那全權ノ參與ヲ許ナレムコトヲ希望ス

(一) 第二百六十條中支那カ敵國及崩壞セル露西亞ト班ヲ同シテ列舉セラレタルハ支那委員ノ意外トスル所ニシテ支那ニ  
於ケル獨逸人ノ權利及利益カ對獨戰爭ノ爲聯合シタル他列國領土内ニ於ケル獨逸人ノ權利ト其ノ處分ヲ異ニセラルヘキ  
理由ハ支那委員ノ了解スル能ハサル所ナリ支那ニ於ケル獨逸人ノ權利利益ノ處分ニ就テハ第二百九十七條(B)項既ニ之ヲ  
規定セル以上第二百六十條中支那ヲ列舉スルノ必要ナキノミナラス其ノ規定ノ性質甚タ不當ノモノアリ支那全權ハ右列  
舉ハ全然不注意ニ基クモノナルコトヲ確信シ以テ右條文ヨリ支那ナル文字ノ削除セラレムコトヲ希望ス  
(二) 第百三十二條(?)ノ規定又支那全權ノ意外トスル所ニシテ支那全權ハ同規定ニ關シ未タ嘗テ何等ノ意見ヲ微セラレ  
タルコト又之ニ關シ何等ノ通告ニ接シタルコトアルヲ記憶セス依テ支那全權ハ支那カ領土權者トシテ當該外國租界ニ對  
シテ有スル權利ハ本條規定ノ處分ニヨリ何等ノ侵害ヲ受ケサルノ保障ヲ要求セサルヲ得ス

(三) 支那全權ハ又支那ニ關スル其他二三條項ニ付意見ヲ提出セムト欲ス

第四編(獨逸國以外ニ於ケル獨逸ノ權利利益)ノ第二款及第三款ノ規定ハ其目的トスル處支那及暹羅ニ於ケル獨逸ノ利  
益處分ニアリ而シテ兩者ノ地位ハ法律上同等ニシテ解決方法モ亦共通スルモノアルニ不拘其案文ニ至リテハ差異甚シク  
次ノ諸點特ニ注意ヲ要ス

(A) 邊境獨逸間ニ締結セラレタル條約協約等ノ無效ニ付テハ第一二五條ヲ以テ特定列舉セラル支那ニ關シテハ獨支條約ノ無效ニ付テハ第一一八條及第二一八九條ノ一般規定ヨリ推論スルノ外ナキ處右ハ支那全權カ其講和條件ニ關シ去ルニ月中覺書ヲ以テ要求シタルカ如ク規定セラレタランニハ右ノ如キ缺陷ヲ防キ得テ殊更ニ明瞭トナルヘカリシモノナリ

(B) 邊羅ニ對シテハ領事裁判權ノ放棄ハ第一二五條ヲ以テ明記セラレ居ルニ反シ支那ニ關スル規定中ニハ之カ明文ナシ但シ該權利ノ廢棄ニハ一九一七年八月支那政府ノ對獨宜戰ヲ以テ公布セラレタル處ニ係ソ敢テ一點ノ疑ラ止メス一片條文ノ明記タニアラハ多數條文相互間ノ疑義ニ對シ獨逸ノ提出スベキ論難ハ事前ニ之ヲ排除シ得ヘカリシナリ

#### 内、支那涉外諸問題ニ關スル支那側ノ憲見書提出

(五月十五日本省着電)

支那全權ハ最近講和會議ノ考量ニ附バニ目的ヲ尋ケ “Questions for Readjustment” ヌ題バニ印刷物（英佛兩文アフ）ヲ提出シ三十頁ニ亘リ説明ヲ加ヘタル後左記甲號ノ結論ヲ記載セリ尙該印刷物中「外國軍隊及警察」ノ項ニハ注意ヲ要スル點ヲ和タルニ付其要領ヲ左記乙號ニ摘記ス

#### (甲 號)

- With reference to spheres of influence or interests that various interested Powers will each for itself make declaration that they do not have or claim any sphere of influence or interests in China and that they are prepared to undertake revision of such treaties, agreements, notes or contracts previously concluded with her as conferred or may be construed to have conferred on them respectively reserved territorial advantages or preferential rights or privileges to create spheres of influence or interests which impair sovereign rights of China.
- With reference to foreign troops and police agencies now present on Chinese territory without legal justification

- With reference to spheres of influence or interests that various interested Powers will each for itself make declaration that they do not have or claim any sphere of influence or interests in China and that they are prepared to undertake revision of such treaties, agreements, notes or contracts previously concluded with her as conferred or may be construed to have conferred on them respectively reserved territorial advantages or preferential rights or privileges to create spheres of influence or interests which impair sovereign rights of China.
- With reference to foreign post offices and agencies for wireless and telegraphic communications that all foreign post offices be withdrawn from China on or before January 1, 1921, that no foreign wireless or telegraphic installations be set up on (脫) without the express permission of the Chinese Government and that all such installations as may have already been set up on Chinese territory shall be handed over forthwith to the Chinese Government upon due compensation being given.
- With reference to consular jurisdiction, that upon China's fulfilment of her undertaking by end of 1924 firstly to promulgate five codes, and secondly to establish new courts in all districts which once formed chief districts of prefectural divisions, all treaty powers promise to relinquish their consular jurisdiction and jurisdiction of their special courts if any in China, and that before actual abolition of consular jurisdiction, the powers agree that every mixed case, civil or criminal, where defendant or accused is Chinese citizen, be tried and adjudicated by Chinese courts without presence or interference of any consular officer or representative in procedure or judgment; that warrants issued or judgments delivered by Chinese courts may be executed within concessions or within precincts of any building belonging to foreigner without preliminary (脱) of foreign judicial officer.
- With reference to leased territories that they be restored to China upon her undertaking such obligations as relinquishment of control may equitably entail on her as regard protection of rights of property owners therein and administration of territories thus restored.

6. With reference to foreign concessions and settlements, that Powers concerned consent to have concessions or settlements held by them be restored to China by end of 1924. China also undertakes obligations to safeguard rights of property owner therein. Pending final restoration certain modifications in the existing regulations of the foreign concessions are desired.

7. With reference to tariff autonomy that it be declared that at end of definite period to be fixed China is free to regulate of her own accord her custom tariff and that during said period, China is free to negotiate with various Powers tariff conventions which shall be reciprocal in treatment, shall differentiate luxuries from necessities, and shall have as basis of new conventional rate for necessities not less than 12.5%. Pending the conclusion of such conventions, the present tariff shall be superseded by end of 1921 by general tariff which is applied to trade of non-treaty Powers. China on her part promises to abolish likin as soon as new conventions are concluded.

## (N) 號)

### 第一外國軍隊

- (1) 條約ノ根據アリテ駐屯スルモノ即チ公使館守備隊
- (11) 條約ノ根據ナキモ、  
 (a) 満洲ニアル我鐵道守備隊ハ支那兵カ露國兵ニ代リテ東支鐵道守備「當ル」至リタル後モ尙千九百五年十一月一日日支協約第十二條ノ規定ニ反シテ日本兵ヲ依然駐屯セシム  
 (b) 千九百九年以來日本ハ奉天省六道溝、延吉等ノ領事館ニ又千九百十一年以來露國ハ吉林延吉等ノ領事館ニ守備隊ヲ置ケリ  
 (c) 支那革命ノ際日本ハ漢口ニ派兵シ現ニ機關砲隊營舍、無線電信局ヲ有ス

### 右撤退ヲ必要トスル理由

- (1) 公使館守備隊ニ付テハ
  - (a) 最早事態變遷シテ駐屯ノ理由ナキニ至レルコト
  - (b) 支那主權ヲ侵害スルモノナルコト
  - (c) 守備隊相互ノ衝突等アリテ治安ヲ紊スコト
- (11) 其他ノ駐屯軍ニ付テハ以上ノ理由ニ加ヘテ
  - (a) 駐屯軍ヲ有スル外國相互ノ國交ヲ危殆ナラシムルコト(例ハ日露戰爭)  
 (b) 當該國ト支那トノ友好關係ヲ害スルコト(日支間ニ其事例多シ例ハ(イ)千九百十三年漢口ニ於ケル西郡大佐ノ支那歩哨傷害事件(ロ)千九百十三年九月直隸省昌黎ニ於テ支那警官カ日本兵ノ支那行商人ヨリ梨ヲ盜マントセルヲ妨ケタル廉ヲ以テ日本兵四十名同地警察署ヲ襲撃シタル事件(ハ)同年同月長春ニテ一日本人カ一支那行商人ヲ襲撃セントンタルコト原因ヲナン日本兵百名支那警察署ニ襲來シタル事件(一)鄭家屯事件(ホ)山東省日本軍駐屯モ屢々紛擾ノ原因トナリ延イテ二十一箇條要求ノ因ヲナシ日支ノ國交ヲ害セワ)
  - (c) ノ二理由アリ

警察ニ付テハ日本政府ハ千九百五年以來滿洲ニ警察事務官ヲ置キ支那官憲ノ抗議ニ不拘漸次其數ヲ増シヲ千九百十七年ニハ奉天吉林兩省内ニ於ケル其數二十七ニ及ヘリ日本政府ハ屢々滿蒙ニ日本警察官派駐ノ特權ヲ支那政府ニ要請シタルカ南滿ニ於ケル警察官駐在ニ付テハ日本ハ其治外法權中ニ當然包含セラルゝモノナルコトヲ主張シ居ルモ不當ナリ撤退ヲ要ス云々

## (附五)

## ○朝鮮人獨立陳情

朝鮮對講和會議代表者ト稱スル金某 John Kim Shic, So Ho Kimu ナル者五月十日講和會議書記局ニ對シ朝鮮ノ歴史ヲ略述シ本件及日本ノ朝鮮統治ヲ惡罵シタル覺書ヲ提出シ講和會議ニ是非共朝鮮獨立回復ノ決定ヲ見ル様盡力アリタキ旨申出テタリ書記局(?)ニ於テハ右ニ付措置ヲ取ル以前先づ日本全權側ノ意嚮ヲ知リ度キ旨問合セ來リタルニ付我方ヨリ朝鮮ノ件ハ純然タル内政問題ニ屬シ講和會議ニ於テ本件ヲ取上グ可キ性質ノモノニ非ス從テ右朝鮮人ノ書面ニハ回答ノ要ナカル可キ旨ヲ返答シタリ

書記局ニ於テモ本件ニ關シ何等處置ヲ執ラサルニ決セル趣ナリ

右朝鮮人提出覺書ハ後送ス

## (附六)

## ○總會議及各種委員會ニ於ケル採決方法等

國際聯盟委員會ノ採決方法等ニ付テハ本調書國際聯盟委員會ノ部(第七九頁)參照又總會議ニ付テハ調書其六第一〇八頁附註ニ於テ一應報告ノ通リナル處其他委員會ノ場合ニ於テモ同様採決方法ニ付特ニ規定ノ設ケラレタルモノナキモ多クノ場

合ニ於テハ普通全會一致ノ決議ヲ得シコトヲ求メ若シ全會一致ニ達セザル場合ニハ報告ニ反對意見ヲモ併記シ又ハ留保ノ旨ヲ記スヲ例トス、尤モ出席委員ノ特別ノ同意アル場合ニハ或ハ多數決又ハ三分ノ二ノ賛成ニ依ルコトアリタリ例之國際勞働原則十九條ニ關シ豫メ出席委員三分ノ二ノ多數ヲ得タルモノニ限リ之ヲ採用スル旨豫メ各委員間ニ協定シ九ヶ條丈ケ右ノ三分ノ二ノ賛成ヲ得タルカ如シ(調書其第五第一三八頁參照)尙ホ又各委員會ニ於テハ(總會モ同様)凡テ議事錄ヲ調製保存スルコトトナリ居レリ

## 國際聯盟委員會

### 目 次

一、 國際聯盟準備委員會.....	七七
二、 國際聯盟委任統治國ノ決定.....	七八
三、 國際聯盟第一回會議ノ件.....	七九
四、 國際聯盟委員會ノ性質並議決方法.....	七九

### 内 容

#### ○五月五日國際聯盟準備委員會

(註) 四月廿八日聯合與國第五回總會議(調書其七第八九頁參照)ニ於テ「ウヰルソン」大統領提出動議(二)ニ基キ國際聯盟準備委員會成レリ

一、 日 時 五月五日午後四時

一、 場 所 「ホテル、クリヨン」

一、 内 容 國際聯盟ノ實行問題ニ關スル左記ノ事項ヲ協議決セリ

1、 Acting Secretary General ラシテ聯盟ノ組織ニ關スル案ヲ立テ之レヲ準備委員會ニ報告セシムルコト

2、 準備委員會ニ代表者ヲ出シ居ル各國ノ連帶保證ニテ即時十萬磅ノ「クレディット」ヲ開クコト但シ憲法上必要ノ承諾ヲ

III. Acting Secretary General ハ假事務員ヲ備入レ假事務所ヲ借入レ其他準備委員會ノ命令ヲ施行スルニ必要ト認ムル費用ヲ支辨スルコトヲ得ルトス

四. Acting Secretary General ニ對シテハ年俸四千磅ノ外年額六千磅ノ滯在費ヲ支給シ聯盟本部所在地ニ於テハ住宅ヲ給ス

## ○國際聯盟委任統治國ノ決定

### 甲、委任統治國決定

五月七日英米佛三國首相會議ニ於テ獨領殖民地ニ關シ左ノ通決定シ且其ノ旨公表セラレタリ

一、「トレーラー」及「カマルン」ノ將來ニ關シテハ英佛兩國ニ於テ國際聯盟ニ對シ共同建議ヲ爲スコト

### 二、委任統治國左ノ通

(イ) 獨領東亞弗利加……英國

(ロ) 獨領西南亞弗利加……南阿聯邦

(ハ) 「サモア」諸島……「ニュージーランド」

(ニ) 「ナウラ」島……英國

(ホ) 「サモア」諸島及「ナウラ」島ヲ除ク赤道以南ノ獨領太平洋諸島……「オースト烈ーリア」

(ヘ) 赤道以北ノ獨領諸島……日本

### 乙、委任統治國決定ノ次第(附「ヤツブ」島問題)

右公表ノ件ニ付佐分利書記官ヲシテ首相會議書記官「ハンケイ」ニ其ノ成行ヲ糺サシメタルニ同人ハ本件ニ付日本全權ニ協

議セサリシハ手落ナルカ實ハ七日ノ「ベルサイユ」會議後米大統領、英佛首相會議中「ロイド、ジョージ」ヨリ突然各獨領殖民地ノ委任統治國決定方ヲ迫リ咄嗟ノ間ニ決定シ英國內政關係上公表ヲ急キタル次第ナリト語リシヲ以テ佐分利書記官ハ其ノ節「ヤツブ」問題ニ付大統領ヨリ何等カ話出アリシカ本件ハ日本ニ重大ナル關係アル問題ナリト再問セシニ同會議ニテハ何等問題起テス從テ右決定ニ依レハ日本ノ委任統治内ニ「ヤツブ」島含マールハ勿論ナリト思考スト答ヘ尙此ノ際「ヤツブ」島問題ヲ提起スルハ却テ折角ノ決定ニ紛糾ヲ來タシ日本ノ爲ニ不利ナルニ付成ルヘク本問題ニ觸レサル方然ルヘクト注意シタリトノコトナリ本件ニ付テハ四月三十日ノ五大臣會議五月一日首相及外相會議ニ於ケル海底電線問題トノ關係アルニ付尙成行ヲ注意シ必要ト認メタル場合ニハ帝國委員ニ於テ相當ノ手段ヲ執ル積リナリ

## ○國際聯盟第一回會議ノ件

(五月十七日巴里發電ニ依ル)

### 一、會期、場所、準備會、代表者

五月十五日珍田委員カ「ハウス」大佐ニ面語ノ際同大佐ハ國際聯盟第一回會議カ本年十月一日ヲトンシ華盛頓(脱)ト相成ルヘキニ付各般ノ準備ヲ協議スル爲七月早々倫敦ニ於テ商議會ヲ開ク手筈ナル旨ヲ語リタル處大統領カ該會議ヲ召集スヘキ規定ニ鑑ミ右期日ハ實際上確定ト見テ差支ナカルヘシ、從テ該會議ニ出席スヘキ帝國代表者ノ選擇其他必要ノ準備ニ着手スルコト緊要ナリト思考ス

## ○國際聯盟委員會ノ性質並議決方法

(五月十九日巴里發電ニ依ル)

### 一、「クリヨン」會議ノ性質

國際聯盟ニ關スル「ホテル、クリヨン」ノ會合ノ性質ニ付テハ最初ハ多少問題トナリタルモ何時トハ無シニ正式ノ委員會ト認メラル、ニ至リタリ

## 二、議決方法

議事ノ方法等ニ付テハ別ニ規則ヲ強制スル等ノコト無カリシモ二月十三日第一聯盟規約案（二月十四日總會議ニ報告セラレタルモノ）ヲ議了スル迄ハ實際上多數決ニ依リテ議事ヲ進行シタルコトアリ然ルニ三月「ヴィルソン」大統領歸來シ同月二十二日以降再ヒ規約案ヲ審議スルノ委員會ヲ開キタル際ニハ萬事ヲ懸談的ニ議了スルト同時ニ多數決ニ依ラサルノ趣旨ニラ討議ヲ進行シタル之ニ對スル唯一ノ例外ハ聯盟本部所在地ノ問題ナルカ本件ニ付テハ「プラツセル」及「ゼネバ」兩說ニ分レタル爲何レカニ決定スルノ必要アリ結局採決ニ依リ其ノ多數ノ方ニ決シタル次第ナリ將又我方ニ依リテ議事ヲ提起シタル人種條項（「レーティアル、クローネズ」）ノ問題ニ付投票ヲ求メタルハ單ニ本件ニ對スル會議ノ大勢ヲ明カニセムトノ目的ニ出テタルモノニシテ我委員ヨリ右ノ趣旨ニ依リ投票ヲ求ムル旨ヲ述ヘ大統領モ其ノ希望ヲ容レ贊否ヲ問フコト、ナリタル次第ナルカ其ノ結果ハ十七中十一ノ多數ヲ得タルヲ以テ「ゼネバ」問題ノ際ニ於ケル多數決ノ先例ヲ採用シテ一應ノ抗議ヲ試ミ大統領ノ注意ヲ喚起シタル次第ナリ然ルニ大統領ハ當初ノ了解ヲ楯ニ反對者アル以上ハ我提案ヲ採用シ得ナル旨ヲ述ヘタリ我ニ於テモ已ニ英米兩國ニ於テ反對スル以上ハ抗議ヲ固持スルモ無益ト信シタルノミナラス元來當方ノ趣旨前述ノ通リナルヲ以テ其ノ儘トナシ置キタル次第ナリ

「クリヨン」ニ於ケル委員會ノ會議錄ハ目下佛國側ニ於テ作製中ナリ

## 損害補償委員會

### 目 次

一、賠償ニ關スル五月三日相談會	八一
二、第二分科會關係事項	八四
三、第三分科會第四次會議	八五

### 内 容

#### ○賠償ニ關スル五月三日ノ相談會

一、日 時 五月三日

一、出席者 英米佛日（森）委員、白國外相「イーマンス」外三名

一、内 容

甲、白耳義ノ優先賠償權及戰時公債辨償權等

イ 協議ノ目的

五月三日賠償委員會米國委員ヨリ賠償ニ關スル相談會ニ森委員ノ出席ヲ求メタリ出席者ハ前記ノ如シ協議ノ目的ハ白國ハ三總理會議ニ於テ最近ニ決定セル賠償案（調書其七第二〇三頁甲参照）ニ満足セス三總理會議ニ訴ヘタル結果白耳義ノ賠償優先權及戰爭公債ノ辨償權等ハ承認セラレ三大國起草委員右會ハ右承認事項ヲ立案シ白耳義ノ代表者ト協議スルコ

## ロ 優先權ノ目的物ニ關スル論議

○三國委員ノ起草シテ白耳義委員ニ示シタル原案第一條中二十五億法ノ先取權ニ關シ獨逸カ聯合諸國ニ讓渡スル各種債權

財產權及原料ヲ除キ現金ノミノ内ヘ二十五億法ヲ白耳義ニ先取セシムル趣旨ナリシ處白國外相ハ斯クテハ事實上ニ於テハ此ノ優先權ハ幾何ノ效果ヲモ齎ラス能ハサルヘシ蓋シ獨逸ヨリ受取ルヘキ現金支拂ノ額ハ多額ナルヲ豫期スヘカラサ

ルヲ以テナリト論シ獨逸ヨリ受領スヘキ一切ノ物資賣却代金ヲモ優先權ノ目的トナスヘシトノ修正案ヲ提出シタルニ

○英國委員ハ之ニ反對シ物資ノ内ヨリ船舶ヲ除カムト主張シタルヲ以テ

○白國外相ハ嚴然トシテ曰ク白耳義ニ先取權ヲ與フルノ主義ハ既ニ首相會議ニ於テ決定シタル所ナリ白耳義ハ恩惠ヲ請ハムカ爲ニ此處ニ來レルニアラス只正義ヲ求ムルノミ白耳義ニ欲スル所ハ有效ナル先取權ナリ其ノ文句ノ如キハ聯合國ヲ信シテ之ニ一任スト述ヘ屬員一同ヲ率テ退去セリ仍テ殘レル英佛米日ノ委員ハ種々協議ノ未遂ニ原案第一條ヲ左記ノ如ク修正シタリ

## ハ 決定條項

修正シタル第一條及可決シタル其ノ他ノ條項ヲ左ニ列舉ス

## 第一條（二十五億法ノ先取特權）

白耳義ハ獨逸ヨリ賠償ノ關係ニ於テ受取ル最初現金ノ内二十五億法金貨ヲ其ノ賠償請求權ニ應スル爲前金トシテ受領スヘシ

右ノ目的ノ爲ニハ賠償委員會ノ受領スル通貨獨逸ヨリ受領スル資產ヲ賠償委員會カ賣却シタル代金及賠償條項第七條第二項ニ依リ賠償委員會ノ手中ニ存スル聯合諸國ヨリ債務ハ之ヲ現金ト看做スヘシ但シ其ノ債務ハ千九百二十一年一月一日現在ノ勘定ニ依ル白耳義ニ對スル前述金額ノ支拂ヲ速ナラシムル爲最善ノ努力ヲナサムコトヲ賠償委員會ニ訓令スヘシ

## 第二條（白耳義公債ノ辨償ヲ講和條約ニ插入スヘシ）

白耳義ノ完全ナル復舊ニ關シ既ニナシタル獨逸ノ誓言ニ從ヒ獨逸ハ（？）千八百三十九年ノ條約ニ違反シタル結果トシテ千九百十八年十一月ニ至ル迄白耳義カ聯合諸國ヨリ借入レタル一切ノ金額ノ辨償ヲナスコトヲ約ス獨逸ハ右債務ノ證據トシテ前述辨償金額ニ相當スル馬克金貨……公債ヲ交付スヘシ

備考 右公債ハ特別發行トシ之ニ關スル規定ヲ賠償條項中ニ設クヘシ各國首相ハ各其ノ議會ニ對シ本條約ノ規定以外左ノ如キ提議ヲナスコトヲ約ス

是等ノ公債ハ聯合諸國ノ利益カ白耳義ニ對シテナシタル貸付金ニ就キテ存スル限度ニ於テ聯合諸國ニ分配スヘシ而シテ右分配アリタルトキハ白耳義ノ債務ハ之ニ依リテ消滅スヘシ

## 第三條（馬克貨幣處分）

白耳義ハ其ノ現在所持スル馬克貨幣ヲ任意ニ處分スルノ完完ナル自由ヲ有スヘシ

## 第四條（特別回復）

白耳義ハ其ノ受ケタル分配額及美術上ノ損害ニ對スル公平ナル賠償權ヲ有ス此ノ目的ノ爲獨逸ヲシテ該（？）器物印刷物incunabula等ヲTovain大學ニ交付セシムル條項ヲ賠償ノ章中ニ設クヘシ尙Van Eyck-Triptych及Bouts-Alter-Piecesノ返還ニ就キ公平ナル處分ヲ獨逸ニ對シテ課スヘシ

## 第五條（本文書等ノ返還）

獨逸ハ一箇年以内ニ白耳義ノ各省殊ニ外務省並各公署ヨリ奪取シタル公文書地圖及證書ヲ白耳義ニ返還スヘシ

## ニ 第一條ヲ對獨講和條約ニ插入スヘキヤノ問題

右第一條ヲ獨逸トノ豫備條約中ニ插入スヘキヤ否ヤニ關シテハ議論アリ右ハ獨逸ト直接關係ナク聯合國間ノ問題ナルヲ以テ插入セサルヲ切ヘストノ說ト之ヲ插入セサルトキハ祕密條約トナルヲ以テ不可ナリトノ說トアリ終ニ首相會議ノ決

## 乙、聯合國間ニ於ケル賠償金額ノ分配問題

曩ニ三總理會議ニ於テ最終賠償條項ヲ決定シタル外其ノ條約調印前ニ於テ豫メ聯合諸國間ニ於ケル賠償金額ノ割當ヲ一定スヘキコトヲモ決定セリトノコト四月二十四日米國委員ヨリ巽委員ニ告ケタル所ナルカ（調書其七第一〇三頁甲、（六）參照）此ノ日米國委員カ森委員ノ質問ニ對シ答フル所ニ據レハ其ノ後三總理會議ハ更ニ此ノ方針ヲ變更シ聯合國間ノ分配ハ全然賠償委員會ノ協議ニ讓ルコトニ決定シタリトノコトナリ

### ○損害補償委員會第二分科會關係事項

（五月十四日發電）

- 一、内 容 賠償ノ一部トシテ取得スヘキ船舶ノ件ニ關シ賠償委員會第二分科會第二十七回第二十八回ニ於テ捕獲及抑留船舶ヲ各個イ 首相會議ニ於テ米國說修正承認

賠償ノ一部トシテ取得スヘキ船舶ノ件ニ關シ賠償委員會第二分科會第二十七回第二十八回ニ於テ捕獲及抑留船舶ヲ各個別的ニ其ノ國ノ所有トナスヘシトノ米國說（調書其ノ六第四九、五〇頁參照）ハ其ノ後正當割當額ニ超過スル額數ニ對シテハ適當ナル代金ヲ支拂ハシムルコトニ修正ノ上首相會議ニ於テ承認セラレタリ

- ロ 英國委員ノ約定書草案提出

依テ賠償委員會第二分科會第二十六回決議タル敵國ヲシテ聯合與國ニ引渡サシムヘキ船舶ノ分配問題（調書其ノ五第五九頁參照）ニ關シ新ニ英國委員ヨリ概略左ノ如キ約定書草案提出セラレ米國之ニ同意シ佛國伊國ハ考慮中ナリ本邦ハ主義ニ於テ同案ニ賛成シタリ但シ下記第三條中ノ分配ハ殘高ニ比例シテナスノ件ニ付テハ目下英國委員ト交渉中ナリ

- 一、賠償委員會ハ成ルヘク速ニ拿捕獲及抑留敵船並敵國ヨリ引渡シヲ受クヘキ他ノ船舶ノ明細表ヲ作成スルコト

二、聯合國カ戰時中拿捕獲若ハ抑留シタル敵國船舶ヲ各其ノ國ノ所有ニ歸セシメ且之ヲ保持スルコト

三、各國ニテ保持スヘキ前記船舶カ其ノ國ノ被害船舶ニ對シ不足ナル場合ニハ講和條約ニ讓渡ヲ受クヘキ敵國船舶ヲ  
Liners 其ノ他ノ商船及漁船ノ三種ニ類別シ頓數及（不明）ノ原則ニ依リ其ノ不足分ニ對シ之ヲ分配ス而シテ其ノ分配ハ  
被害船舶ニ對スル各國正當割當額ヨリ其ノ國ニテ保持スヘキ船舶ヲ差引キタル殖高ニ比例シテ之ヲナスコト

四、「ブラジル」、「支那」、「キューバ」、暹羅、米國ノ如ク拿捕獲及抑留船舶カ其ノ正當割當額ニ超過シタル場合ニハ其ノ超過ニ對シテハ適當ナル代金ヲ賠償委員會ニ支拂ハシメ之ヲ被害船舶ニ對スル賠償シテ獨國ヨリ受クヘキ額ニ充當スルコト

五、賠償委員會ハ適當ナル時機ニ於テ二箇月ノ猶豫期間ノ後敵船舶ノ分配手續ヲナス旨ノ廣告ヲナス右分配船舶ニ對シ請求權ヲ有シ且該請求權ニシテ敵國政府ニ依リ決済セラレサル場合ニハ前記廣告後一箇月以内ニ其ノ旨ヲ委員會ニ通告シ委員會ハ之ニ對シ適當ナル手段ヲ採リ且決定ヲ與フルコト

### ○損害補償委員會第二分科會第四次會合

（註） 賠償委員會第三分科會ハ三月十三日迄ニ三回會議ヲ開キタルノミナリ

- 一、日 時 五月二日
- 二、内 容 本分科會ノ意見決定方ニ關スル件

議長「ヒュース」氏ノ提議ニ依リ決議セル要領左ノ通り

當分科會ノ審議事項タル賠償支拂ノ監督並ニ補償ニ付テハ先ツ賠償要求額、支拂能力、支拂ノ方法時期等ヲ知リタル上ニアラサレハ意見ヲ確定スル能ハサルヲ以テ第一及第二分科會ノ報告提出アル迄會議ヲ中止シ居リシカ其ノ後兩分科會ヨリ報告ノ提出アリタレトモ前記事項ニ關シテハ明確ノ意見ヲ開示シ居ラス之ニ付テハ上級機關ニ於テ賠償問題ニ關シ

既ニ決定スル處アリト諒解セラル。モ當分科會ハ其ノ通知ヲ受ケ居ラサルニ付議長ハ四月十日平和會議書記局ニ宛テ四頭會議ニ於テ當分科會ノ意見報告ヲ必要トスルヤア質問シタレトモ未タ回答ニ接セサル次第ナリ從テ當分科會ハ頗ル困難ノ地位ニアリ強テ意見ヲ立テントスルモ只假定的概括的ノ提案ヲナシ得ルノミ故ニ若シ上級機關ニ於テ特ニ希望セラル、ニアラサレハ當分科會ニ於テ意見ヲ提出スルハ無用ナリト認ム

尤モ議長ヨリ今一應上級機關へ照會スヘク其ノ回答ノ次第ニ依リテハ更メテ會議ヲ催ス筈ナリ

## 責任委員會

### 甲、前獨帝ヲ審問スヘキ特別裁判所ニ關スル件

(五月六日及七日巴里發電)

#### イ、各國ノ職員

戰爭責任ニ關スル條約案第二條(調書其七第一〇七頁參照)ノ規定ニ依レハ五大國ノ選任シタル裁判官五名ヲ以テ特別裁判所ヲ構成スヘキ筈ノ處英、米、佛、伊共四レモ最高ノ自國裁判官ヲ以テ之ニ充ツル内意ナルモノ、如ク右ノ外五大國ヨリ一名ノ檢事ヲ右裁判所ニ派遣スルコト、ナルヘキカ之ハ概ね外交官又ハ政治家中ヨリ選任スヘキ模様ナリ。

右特別裁判所ニ我國ヨリ出席セシムヘキ裁判官ハ至急相當ノ人ヲ選任シ時期ヲ逸セナル様歐洲へ出張セシメラル、様致シ度

#### ロ、原告、裁判所々在地、裁判開始期

右裁判所ニ關シ自耳義政府ヲ原告タラシムルノ說アリタレ共同政府ノ同意ヲ得ス且該裁判所ヲ「ブラッセル」ニ設クルコトモ亦其ノ承諾ヲ得難キ模様ナルカ右裁判ハ多分來ル七月上旬頃開始セラルヘキ趣ナリ

## 乙、軍事裁判所ノ件

前掲條約案第一條以下ニ規定セル軍事裁判所ニ關シテモ各國共相當ノ人選ヲ爲ス筈ナレハ帝國政府ニ於テモ豫メ本件ヲ考慮セラル、コト可然ト存セラル

## 交 通 委 員 會

### 甲、自由通過問題殊ニ本邦人ノ米國通過問題

(五月一日巴里發電ニ依ル)

自由通過協約案ノ適用區域ハ舊敵國中立國並聯合諸國ノ全體ニ涉リ自ラ極東ニモ及フコトトナルヘキ模様ナルニ付其ノ含ミヲ以テ右協約案御審査ノ上至急御回訓相成度尙交通委員會ハ伊國委員ニ於テ「フィウメ」問題ノ爲本月二十三日以來議事ニ參加セサルヲ以テ當分休會ト決シ從テ前記協約案審議ノ日取未定ナルカ本邦人ノ米國通過問題ニ關シ不取敢左記ノ通り在米大使ニ取調方ヲ依頼シ置ケリ尙本件ニシテハ英佛其ノ他ノ委員等ト内交渉ヲ試ミ我目的ノ達成ヲ期スル積リナリ

在巴里帝國委員發在米石井大使宛電報

講和會議ノ一議題トナリ居ル國內自由通過萬國協約案ニ依レハ入國ヲ禁セラル外國旅客ニ對シテハ自由通過ヲ許スノ義務ナキコトナリ居リ從テ例之米國ニ於テ本邦移民等モ自由通過ニ關シ制限ヲ受クルノ結果トナルヤモ計リ難キ處アル處右規定ハ米國委員ノ要求ニ基キタル由ニテ本邦移民等ニシテ米國經由他國へ赴ク旨ヲ交渉シ何等(脱?)其ノ儘米國内ニ逃走スルモノニ對スル取締ノ必要ヲ其ノ理由ノ一トスルモノナルヤニ推測セラルルニ付本件ニ關シ至急左記事項御查報ヲ相煩シ度必要アラハ關係領事ニ右調查方御訓令ノ上直接當方ニ報告セシメラル様御取計相成度

(一) 米國旅行券ヲ有セサル本邦人ニシテ米國ヲ通過スルモノアラハ最近五年間ニ於ケル毎年ノ數及其ノ實際ノ取扱方

(二) 前項ノモノニシテ米國通過中逃亡セル實例アラハ同期間ニ於ケル其ノ數及其ノ情況

(三) 其ノ他本件ニ關シ参考トナルヘキ事項尙本件ニ關スル移民法條項及取扱規則等關係法規電報アリタシ

## 乙、國際鐵道關係參考事項

(一) 國際鐵道協約案ニ關スル佛國専門委員ノ意見(五月二日發電ニ依ル)

九〇

國際鐵道協約案ノ起草者タル佛國専門委員ノ意見摘要(講和調書其ノ第五第七二頁以下ノ條文参照)

一 第三條第一項ノ execute works トハ原則トシテ線路建造物ノ補充改良ヲ指スモノナルモ場合ニ依リテハ極メテ短距離ナル新線路ノ敷設ヲモ含ム由ナリ例ヘハ一都市内ニ在ル甲乙兩會社ノ終端停車場カ甚シキ迂廻線ニ依リテノミ接續セラル場合ニハ比較的短距離ナル新線ヲ敷設シテ之ヲ連絡セシメ列車ノ直通運轉ニ便ナラシムルカ如キ其ノ一例ナリ

二 同條第二項ハ他ノ關係國カ費用ノ全部ヲ負擔シテ必要ナル「ウワーラクス」ヲ爲シタル場合ト雖其ノ結果生シタルモノヲ當該關係國ノ所有使用スル處アルニ付右ノ所有權ハ線路所有者ニ歸屬スルモノトシ若前記類似ノ新線敷設ノ場合ニハ甲乙兩會社ノ共有トスル趣旨ナリ

三 第二款第一章ノ right of circulation ナムモノハ右權利者タル甲國ノ列車カ右權利ノ適用ヲ受クル乙國へ赴キ更ニ往路ト同一線路若ハ之下併行セル如キ線路ニ依リテ引還ス場合ハ之ヲ包含セサルモノ甲ノ列車カ乙國ノ(脫)ヲ經テ乙國內ノ某所ニ赴キ更ニ全然異ナル他ノ方向即チ乙國ノ西境若ハ南境等ヲ經テ甲國內ニ引還スカ如キ場合ハ之ヲ含ムモノニシテ必スシモ第三國タル兩國ニ赴クヲ要スルモノニアラス

四、列車ノ直通運轉權ヲ有スル甲國ヨリ右權利ノ適用ヲ受クル乙國ニ赴ク貨物又ハ旅客ヲ右列車ニ依リ輸轉スルハ特約アル場合ニ限ラルヲ以テ右ハ第六條第二項ヲ適用スヘキモノナリ

尙第六條佛文左ノ通

L'article 6. Les trains d'un Etat circulant sur la territoire d'un autre Etat en vertu du droit de circulation ne pourront transporter que des marchandises et des voyageurs en ou à destination de l'extérieur. Ils ne peuvent desservir le trafic local c'est-à-dire le trafic à la fois en ou à destination du territoire emprunté qu'en vertu d'accords spéciaux intervenus entre des deux Etats.

五 第十五條ニ規定セラル Service du Correspondence トハ連絡ノ意味ニシテ具體的ニ言ヘハ京城ヲ發シテ東京ニ赴クニ當リ鐵道ニテ釜山ニ到リ更ニ同所ヨリ關釜連絡船ニ搭乗シ下ノ關ニテ該汽船ヨリ鐵道ニ依ル如キ水陸連絡設備ヲ指スモノナリ

上記ノ解釋ハ前記ノ通單ニ起草者タル佛國専門委員ノ意見ニ過サルヲ以テ左様御含ミヲ請フ

尙交通委員會ハ五月二日ヨリ引續キ開會スルコトトナリタルニ付國際鐵道協約案其ノ他ノ問題ニ關シ大至急御訓令ヲ請フ

(11) 「アビリヤチツク」沿岸港ヨリ舊埃及領土内ニ至ル鐵道ノ件(五月九日發電)  
右鐵道ニ關シテハ之カ關係國タル伊太利塞爾比羅馬尼三國ニ於テ戰前ノ交通組織ヲ維持スルコトトナシ尙一方敵國ニシテ關係國タル埃及國ニ對シテモ港水路及鐵道ニ關スル約款ノ一條項ニ依リ戰前ノ交通組織ヲ維持スヘキヲ規定セルヲ以テ國際鐵道協約ハ右鐵道ニ適用セサルコトトナル筈ナリ

(11) 「バグダソド」鐵道問題(五月九日發電)

「バグダソド」鐵道ニ關シテハ英國側ノ意嚮ハ之ヲ國際鐵道トナサス關係國ノミニテ處理セムトスルニ在ルヤニ推セラル(脫)交通委員會ニ於ケル主ナル委員ノ豫測ニ依レハ土耳其トノ講和條約案審議ニ際シ右鐵道ニ就キ或ハ最高會議ヨリ交通委員會ニ諮詢アルヤモ計リ難ク而シテ委員中ニハ之ヲ國際鐵道トナスヘシトノ私見ヲ有スルモノ尠カラサル模様ナリ

丙、自由通過、國際河川、國際鐵道及國際港ニ關スル協約案議事進行方ニ付

米國委員ノ態度並帝國委員ノ意見

(五月十一日巴里發電ニ依ル)

五月九日交通委員會總會ニ於テ米國委員ヨリ同國専門委員手不足ニシテ自由通過、國際河川、國際鐵道及國際港ニ關スル條約案ノ調査ヲ完成シ難キ(不明)大統領昨今多忙ノ爲右ニ關スル根本方針ヲ確定スルコト能ハサルニ付暫ク延期アリタキ旨ヲ提議シ英國委員ノ反對アリタレトモ結局差當リ休會シ該四條約締結ノ根本方針ニ關シ各本國政府ノ訓令ヲ受クルコトヲ決議セリ

## 一 右延期ニ關スル米國側ノ眞意

英國委員ノ内話ニ依レハ米國ノ眞意ハ同國傳來ノ「モジロー」主義ヲ侵蝕スルコトヲ免レサル該四條約ヲ此ノ際締結スルコトハ講和條約及國際聯盟條約ノ同國議院ニ於ケル運命ヲ危クスルヲ以テ其ノ甚好マサル處ナルモ聯盟條約第二十三條(F)ノ趣旨ニ基キ作製セラレタル該條約案ノ審議ヲ正面ヨリ拒ムコト能ハサルニ依リ成ルヘク其ノ審議ヲ延期シテ形勢ノ推移ヲ觀察セムトスルニ在ル由ニテ多分事實ナラムト察セラル

## (三) 帝國委員ノ意見

本邦側ヨリ之ヲ考フルモ該四條約審議ノ準備ヲ完成スルカ爲ニモ右審議ヲ講和會議ヨリ引離シ後廻シトナス方寧ロ得策ニ之有ルヘク且自由通過條約案第七條中米國委員ノ要求ニ基キ挿入シタル入國禁止ノ外國人ニハ通過ヲ許ス義務無キ旨ノ規定ヲ削除セシムルコト並東亞方面ノ河川、鐵道及港ヲ一齊ニ該條約ノ適用以外ニ置カシムルコトモ殆ド見込無キ次第ナルニ付テハ本邦委員ハ此ノ際米國委員ト行動ヲ共ニシ該四條約案ノ審議ヲ後日ニ延スコト最モ然ルヘシト思考セラル尙米國委員ノ意見行ハレスシラ他ノ主ナル諸國委員審議ヲ繼續スルカ如キ場合ニ當リ英國ニ於テ本國並各殖民地ニ右四條約ヲ適用スルニ於テハ本邦委員モ引續キ其ノ審議ニ參加スルコト然ルヘシト認メラル

## 航空委員會

### ○國際航空條約案其ノ後ノ修正

(五月十二日巴里發電ニ依ル)

國際航空條約案(調書其七第一二二頁參照)其ノ後修正ノ分左ノ通り

#### 第二條第一項左ノ通り改ム

各締約國ハ本條約ニ於テ定メタル條件ヲ遵守スル限り平時ニ自國領土(殖民地ヲ含ム)及領水ノ上空ニ於ケル無害飛行ノ自由ヲ他ノ締約國航空機ニ許スヘキコトヲ約ス

#### 第十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

#### 新第十八條

航空機カ着陸ノ有無ニ拘ラス他ノ締約國ヲ通過スルコト及通過ニ必要ナル相當期間滯在スルコトハ該航空機ノ構造及機械カ降下國ニ於テ許サレ又ハ登録セラレタル發明権意匠権等ノ遮害ナリトノ理由ヲ以テ降下國又ハ其ノ臣民ヨリ訴訟ヲ起シ又ハ差押ヲナスノ権利ヲ與フルモノニ非ス此等ノ権利侵害問題ハ該航空機ノ本國ニ於テ訴追セラルヘシ

(註) 上記航空(脫)權發明権等ノ侵害問題ニ就キ豫テ英國委員ヨリ法制分科委員會ニ提案スルトコロアリ多數ノ賛成ヲ得タルモ佛伊之ニ反對シタル爲更ニ研究ヲ重ヌルコトトナリシカ本委員會ニ於テ英國更ニ之ヲ提案シ多少ノ修正ヲ經テ各國ノ贊同ヲ得結局前記ノ追加ヲナスニ至レリ

第三十四條中「屬領」ヲ「英國屬領及印度」ト改ム

同條中條約附錄規定ヲ變更スル場合ノ投票數三分ノ二ヲ四分ノ三ニ改ム

## 新第三十六條

各締約國ハ左ニ掲タル國際事項實施ノ爲ナシ得ル限り協力スルコトヲ約ス  
イ、統計報告ノ蒐集及分配並氣象ニ關スル情報及特報

ロ、航空地圖ノ出版及一般航空用地標組織ノ創設(脱)用ナル無線電信所設置及國際無線電信規則ノ適用  
第三十五條(新第三十七條)

國際航空關稅ニ關スル一般規定ハ本條約附錄(h)(註曰、附錄ハ未タ來電ナシ)ノ如ク別協定ニ依ル  
本條約ノ規定ハ締約國カ本條約ノ原則ニ基キ航空ニ關スル關稅警察郵便其ノ他一般ノ關係事務ニ就キ各國間ニ特別ノ協定  
ヲナスヲ妨ケス

第三十八條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加フ

## (新第四十一條)

英國諸屬領及印度ハ本條約ニ於テハ各之ヲ一國ト認ム保護國又ハ委任統治ノ下ニアル地方ハ本條約ニ於テハ其ノ領土及國民ニ關スル限り保護又ハ委任統治ヲ行フ國ノ一部ト認ム

## 第四十條(新第四十三條)

現戰爭ニ參加セナリシ諸國ハ單ニ宣言書ヲ發シテ本條約ニ加盟スルヲ得

本條約ニ記名セザリシ國ニシテ現戰爭ニ參加シタルモノハ國際聯盟ノ一員トナリタル時又ハ千九百二十三年一月一日以前ニ於テハ記名國及加盟國ノ一部(?)ノ投票ニ依リ又ハ千九百二十三年一月一日以後ニ於テハ記名國及加盟國ノ全投票數ノ四分ノ三以上ノ賛成ニ依リ本條約ニ加盟スルコトヲ許サルヘシ

佛國外務省ハ前記ノ宣言若ハ投票ヲ受ケ且其ノ結果ヲ各締約國ニ通告ス

## 備考

第三十五條(新第三十七條)中ノ航空衛生及郵使ニ關シテ伊太利ハ細密ナル原案ヲ提出シタルモ此等ノ問題ヲ附錄トシテ規定スルノ必要ナシトテ否決セリ

關稅及技術附錄ニ關シテハ字句ノ修正アリタル外原則上ノ變化ナシ

## 經濟委員會

### ○經濟委員會作製諸條約案ノ變更修正

(五月三日巴里發電ニ依ル)

四月十九日經濟委員會ニテ決定シタル諸條約案ハ其ノ後總理大臣會議ニ於テ變更セラレ該變更ノ大要ニ付テハ入電アリタルモ條約案原文ヲ前調書ニ掲ケサリシ關係上茲ニハ之ヲ記載セナルニ付松井大使來電講第八三八號ニ付テ之ヲ見ルヘシ又起草委員會ニ於テハ經濟委員會ノ成案全部ニ瓦リ辭句ヲ變更シタル箇所頗ル多シ

## 國際労働法委員會

### 目 次

- 一、國際労働法委員會成案ト確定條約案トノ主要差點 ..... 九九
- 〔一〕華盛頓國際労働會議ノ第一回準備委員會 ..... 101
- 〔二〕獨逸ノ労働同盟加入問題ニ關スル労働委員會ノ意見(五國會議へノ回答) ..... 107

### 内 容

#### ○ 國際労働法委員會成案ト確定條約案トノ主要差點

(五月十三日巴里發電ニ依ル)

前調書マテニ報告シタル國際労働法成案(常設國際労働局設置ニ關スル英國案及労働具體條件ヲ含ム)ト同確定條約案トノ相違ノ主ナル點左ノ通

(一) 英國案(調書其三[第百三]十一頁第百七十七頁調書其五第百三十九頁及調書其六第百六頁參照)第一條乃至第四十一條ヲ  
改ヘテ(第二十六條削除)第三百八十七條乃至條四百一十六條ュシ第一條ノ文句ヲ左ノ通改ム

A permanent organization is hereby established for the promotion of the objects set forth in the preamble.

Original members of the League of Nations shall be original members of this organization and hereafter membership of the League of Nations shall carry with it membership of the said organization.

(11) 條文 Schedule トニ現ハルニ the High Contracting Parties ナ改ヘテ Members ナ (ハノアンブル及労働原則ノ規

定<sup>リ</sup>於<sup>ハ</sup>「元<sup>ノ</sup>通」 this convention <sup>ハ</sup>改<sup>メ</sup> this part of the present treaty <sup>ハ</sup>案文第二讀會<sup>ハ</sup>委員會<sup>ハ</sup>於<sup>テ</sup>採用<sup>セ</sup>

ラ<sup>ス</sup>タ<sup>ス</sup>「決議案(註參照)」<sup>ハ</sup>全部削除<sup>ベ</sup>

(註) 「決議案<sup>ト</sup>ハ次<sup>ノ</sup>如シ

一、海上労働者<sup>ハ</sup>關<sup>スル</sup>決議案(調書其<sup>ハ</sup>五第百二十九回(11)參照)

二、[即<sup>ハ</sup>]十八回<sup>ハ</sup>總額金<sup>リ</sup>於<sup>テ</sup>採用<sup>セ</sup>ハ<sup>ス</sup>大體<sup>ハ</sup>「決議案」

### 1. Resolution proposed by Belgian, French and Italian delegations:—

The Commission expresses the hope that as soon as it may be possible (朕<sup>ハ</sup>) will be arrived at between the High Contracting Parties, with a view to endowing International Labour Conference, under the auspices of the League of Nations, with power to take under conditions to be determined, resolution of possessing force of International Law.

### 2. Resolution proposed by Belgian and French delegations:—

The Commission, having regard to the fact that the whole labour of the world is expecting concrete results from their work of the Peace Conference, and to the fact that international labour legislation of a really effective character cannot be established without the cooperation at any rate of the neutral countries, expresses the hope that, without awaiting final signature of the peace treaty, The Peace Conference will consult neutral powers in regard to the present draft convention; before finally adopting it.

(11) 第11條前段(調書其<sup>ハ</sup>第百七十七回<sup>リ</sup>第一項<sup>ハ</sup>改<sup>メ</sup>) agenda<sup>s</sup> of the meetings, <sup>ハ</sup>次<sup>ニ</sup> when questions<sup>s</sup> specially affecting women are to be considered by the conference, one at least of the advisers should be a woman <sup>ハ</sup>1女1男<sup>ハ</sup>本條末尾<sup>ハ</sup>同文<sup>ヲ</sup>削除<sup>ス</sup>(調書其<sup>ハ</sup>五第百二十九回參照)又同條中段 Each of the delegates may be accompanied at each meeting of the conference by more than two advisers <sup>ハ</sup>1文<sup>ヲ</sup>添<sup>フ</sup> for whose appointment provision is made in

Article 17 <sup>ハ</sup>且<sup>ハ</sup>並<sup>ハ</sup>和<sup>ハ</sup> may vote <sup>ハ</sup>且<sup>ハ</sup>

(四) 第七條前段 Consisting of 24 persons appointed in accordance with the following provisions <sup>ハ</sup>24人<sup>ハ</sup>governing body <sup>ハ</sup>24人<sup>ハ</sup>間<sup>ハ</sup>同條註<sup>ハ</sup>schedule <sup>ハ</sup>文句(調書其<sup>ハ</sup>第百二十九回<sup>リ</sup>(但<sup>シ</sup>記頭<sup>ハ</sup> Schedule to Chapter I Article VII 及<sup>ハ</sup> no High Contracting Parties together with its dominions and colonies whether self-governing or not shall be entitled to nominate more than one member <sup>ハ</sup>領<sup>ハ</sup>) <sup>ハ</sup>插入<sup>シ</sup>且<sup>ハ</sup>第八條末段 pending the first appointment <sup>ハ</sup>且<sup>ハ</sup>並<sup>ハ</sup>和<sup>ハ</sup>

(五) 第十<sup>リ</sup>條前段 and their advisers <sup>ハ</sup>次<sup>ニ</sup> and of its representatives <sup>ハ</sup>插入<sup>シ</sup>第十五條末尾<sup>ハ</sup> four months before the meeting of the conference (調書其<sup>ハ</sup>第三百二十九回<sup>リ</sup>同條<sup>ハ</sup>括弧内<sup>ハ</sup>插入<sup>シ</sup>且<sup>ハ</sup>並<sup>ハ</sup>和<sup>ハ</sup>)

同文句<sup>ハ</sup> the High Contracting Parties <sup>ハ</sup>and through them <sup>ハ</sup>間<sup>ハ</sup>插入<sup>シ</sup>

(六) 第十六條末段 conference decides <sup>ハ</sup>by two-thirds of <sup>ハ</sup>間<sup>ハ</sup>括弧内<sup>ハ</sup> (otherwise than under the preceding paragraphs) <sup>ハ</sup>插入<sup>シ</sup>

(七) 調書其<sup>ハ</sup>第六百〇六頁所報第十九條<sup>ハ</sup>關<sup>スル</sup>修正案中同條「ハロ<sup>ハ</sup>ヒーネ」<sup>ハ</sup>シテ追加セラヌタル<sup>ハ</sup>其<sup>ノ</sup>中<sup>ハ</sup>「特種<sup>ハ</sup>事情考量<sup>ハ</sup>關<sup>スル</sup>規定」(註 In framing (省々<sup>ハ</sup>項) <sup>ハ</sup>同條(調書其<sup>ハ</sup>五第百二十八頁參照)前段 by the conference <sup>ハ</sup>以<sup>ハ</sup>終<sup>ニ</sup>一項<sup>ハ</sup> A copy <sup>ハ</sup>シテ以<sup>ハ</sup>始<sup>ム</sup>他<sup>ノ</sup>項<sup>ハ</sup>別<sup>ハ</sup>一項<sup>ト</sup>シテ插入セラヌ同條末尾<sup>ハ</sup> The above clause shall be interpreted in accordance with the following principle. <sup>ハ</sup>文句<sup>ヲ</sup>加<sup>ク</sup>タル<sup>ハ</sup>上調書其<sup>ハ</sup>五第百二十九回<sup>リ</sup>第十五條<sup>ハ</sup>所報「ハロ<sup>ハ</sup>ヒーネ」<sup>ハ</sup>多少文句<sup>ハ</sup>修正<sup>ハ</sup>加<sup>ク</sup>タル<sup>ハ</sup>上調書其<sup>ハ</sup>五第百二十九回<sup>リ</sup>第十一條末尾<sup>ハ</sup>subject to <sup>ハ</sup>削除<sup>ス</sup>第十一條 to the director <sup>ハ</sup>且<sup>ハ</sup> to the secretary-general of the League of Nations who shall register it <sup>ハ</sup>改<sup>ム</sup>

(九) 第11十條 by Article 19 <sup>ハ</sup>any other <sup>ハ</sup>文句<sup>ハ</sup>與<sup>ハ</sup> with regard to a recommendation or draft convention <sup>ハ</sup>文句

(十) 第二十一條 to which 之對ノ in regard to a complaint or matter which has referred to it is pursuance of Art. 415 (Art. 29) or Art. 416 (Art. 30), shall be final & 改メ第二十一條 against へ次ノ commerce of 削除ス

(十一) 第二十一條 recommendation of the Commission of Inquiry or へ次ノ with those 加く chancellor & Secretary General & 改メ同條末尾 that they have taken 之對ノ of economic character that they have taken against the defaulting Government 改バ

(十二) 第二十一條冒頭以下 League of Nation 迄々削リ

第二十七條末尾 whose representatives 以下削リ

第四十條末尾 of nations when appointed & 削除ス

## ○華盛頓國際労働會議ノ第一回準備委員會

一、日 時 五月六日及七日

一、場 所 優敷労働省内ニ設ケタル準備委員會事務所

(53 Parliament Street, London S. W.)

一、出席委員(前調書第一回二頁各國委員氏名参照)

米、「ハローハッサー、グッドウッド」

英、「マクマーテンヴィル」 Malcolm Delevigne

佛、「アルナル・フォンタン」 Arthur Fontain

日、「岡委員、吉坂、卿

伊、委員出席セス

白耳義、「マハイム」 Mahaim

瑞西、「パローハラソン、ラッバニア」 Prof. Raipard (ハローハラソン、ローラリベルグル)代リテ

一、議 長 「フォンテーヌ」

一、内 容 左記五項ヲ議決ス

甲、準備委員會ヨリ各國政府宛ニ發送スヘキ書狀案

右書狀中ニハ

(イ) 巴里講和會議總會カ國際労働法制定委員會ノ議決シタル労働協約案ヲ可決採用シタルコト、國際聯盟ノ體圖ハ此協約ニモ參加シ聯盟機關ノ一トシテ國際労働局ヲ組織シ且國際労働會議ヲ開クモノナルコトヲ述く

(ロ) 尚右講和會議總會ハ協約第三十九條及其ノ議定書ニ規定シタル第一ノ通國際労働總會ノ準備委員ヲ任命シテニ事務ノ進捗ニ着手セシムヘキヲ議決シタル旨ヲ記載シ華盛頓大會ノ議案タル五箇ノ題目ニ關スル質問書 (questionnaire) 其他ニ付注意スヘキ事柄ヲ附記シタリ左ノ通

(ア) 質問書

(イ) 趣旨

右質問書ハ今回議案トナリタル事項(巴里講和會議調書其四第一〇六頁(三)第一回労働大會ノ件參照)ニ關スル各國ノ立法及慣習並之ニ對スル各國ノ意欲等ニ關スル報告ヲ徵スルモノニシテ準備委員會ハ右質問書ニ對スル回答ヲ參照按排シ表ヲ作製シ又之ヲ資料トシテ總會ニ於ル討議ノ基礎タルヘキ參考案ヲ起草シ之ヲ各國政府ヲ通シテ委員ニ配布セムトスルモノナリ

(ロ) 回答期

右回答ハ六月三十日迄ニ倫敦ニ到着スル様發送スルコト、回答ハ英文又ハ佛文ニテ記載スルカ然ナレハ出來得ル限リ英文又ハ佛文ノ翻譯ヲ添附スルコト、直接前記準備委員會事務所宛發送スルコト等ヲ記載シアリ

追テ書狀及質問書ハ準備委員會ヨリ日本外務省宛通知セラルル筈

(b) 委員及顧問ノ任命

右ニ付テハ協約第三條ニ準據シ四名ノ委員及其ノ顧問ノ氏名ヲ準備委員會事務所ニ通知セラレ度ク今回ハ女子ニ關スル議案アルヲ以テ顧問ノ内一名ハ必ス女子タルコトヲ要ス  
尙ホ顧問ノ數ニ付テハ各委員ハ議案ノ各項目毎ニ一人宛ノ顧問ヲ帶同シ得ル次第ナルモ議事ノ進行上並設輔ノ都合上準備委員會ハ顧問ノ數ヲ制限スルコトヲ希望シ可成一人ニテ二項目以上ヲ取扱ヒ得ル人ヲ任命セラレンコトヲ希望シ居レリ

各委員及顧問ハ信任狀ヲ携帶スルヲ要シ非政府委員及其顧問ニ付テハ同意ヲ得タル團體ノ名稱ヲ記載スルコトヲ要ス、此等ノ信任狀ニ付テハ總テ外務大臣ニ於テ發信シ地位又ハ資格ノ外單ニ勞働協約第三條ニ依リ任命セラレタルモノナルコトヲ記載スルヲ以テ足ルコト打合セ濟ナリ

(c) 費用

費用ニ付テハ協約第十三條ノ規定ヲ參照スルコト

乙、總會ノ議事規則

右ハ委員長「ファンテーン」ニ起草方ヲ附託シ第二回準備委員會ニ於テ審議スルコトトナリタリ

○用語

總會ニ於ル用語ハ英語又ハ佛語ト定マリタルモ本國語ニテ論議シ通辯セシムルモ差支ナシ各委員ハ各國ノ費用ニテ翻譯者及書記ヲ帶同スルヲ得ヘシ

○書記局

尙總會ニ關スル事務ヲ處理スル爲米國側及各國側ヨリ各々適當ナル人選ヲ爲シテ書記局ヲ組織スルコトトナリタルカ其組織ヲ次回ノ準備委員會ニ於テ最後ノ決定ヲ見ル筈ナリ

丙、當然支配部ノ部員タルヘキ主要工業國八箇國ヲ決定スル標準

右ハ當該國ニ於ル動力數ノ大小、職工數、運輸ノ狀況、其他(千九百十三年現在)ニ依ルコトトナリ準備委員會事務局ニ於テ調査ノ上國際聯盟ニ提出スルコトトナリタリ

丁、國際勞働局設置準備

國際聯盟ノ本據地タル瑞西ノ委員ニ於テ際聯盟國書記長「サー、ドラモンド」ト交渉ノ上進捗ヲ計ルコトトナリタリ戊、次回ノ準備委員會

七月十五日第二回準備委員會ヲ倫敦ニ於テ開催スルコトトナリ九月三日準備委員會ヲ華盛頓ニ移スコトトナリタリ

◎備考 勞働總會ノ討議事項等ニ關スル岡、吉坂兩氏ノ意見

總會ノ議題トナリタル項目中最モ考慮スヘキ諸點及其他ノ事項ニ付岡、吉坂兩氏ノ意見大要左ノ通

一、八時間勞働問題

日本ニ適用スヘキ相當時間トシテハ現在ノ工業狀態ニ鑑ミ原則トシテ二時間ヲ短縮スルニ止メ(正味九時間制)尙凡三年間又ハ五年間ハ工業ノ現狀ニ激動ヲ及ホスコトヲ避クル爲現在ヨリ一時間ヲ短縮(正味十時間制)スルニ止ムルコト

二、失業豫防及救濟

失業ノ豫防及救濟ニ關スル國際的施設ニ付キ何等カノ提議ヲ爲スモノトセハ輸入禁止制度ノ制限及國際勞働紹介部設置並移民自由ニ就キ考慮スルコト

三、婦人及幼年者ノ勞働、白煙使用禁止、有害品取扱制限、ベルン條約

婦人產前使用禁止主義採用並婦人及幼少年ノ夜業禁止猶豫期間ノ短縮ハ實際問題トシテ大ナル困難アルヘシト難モ夜業ノ害ハ最大ナルヲ以テ此點ニ於テハ或程度ニ於テ短縮ヲ行フコト必要ナルヘシ例ヘハ五時間又ハ七時間制ニ短縮スルカ  
加シ

最低年齢十四歳制及白煙使用禁止ノ制ハ二年又ハ三年ノ猶豫ヲ以テ實行ノコト

有害品取扱ニ關スル制限ハ各國並ニ擴張スルノ主義ヲ採ルコト

「ベルン」條約ニハ實行猶豫ニ關スル條件ヲ附シテ何レモ加入スルコト

四、總會ニ於ル政府委員ノ地位

總會ニ政府ヲ代表スヘキ委員ノ地位ニ關シ岡委員ヨリ英國側ノ内意ヲ探リタルニ未タ何等具體的ノ決定ヲ見サルモ多分「バーンズ」出席ヲ餘儀ナクスルニ至ルヤモ知レス然レトモ日下トシテハ「マルコルム」カ政府代表者タルヘシト想像セラル其他ノ政府代表者ハ局長級又ハ勅任級ノ人ナルヘシトノコトナリ惟フニ他ノ各國ニ於テモ概オ之ニ準シタル人選ヲ見ルナルヘシ

五、顧問

各國ニ於テ選出スヘキ顧問ハ専門家カ多數ヲ占ムヘキハ(脫)事情ノ許ス限リ多數ノ顧問ヲ選出シテ此際各國ノ情勢ニ就キテ調査又ハ研究ヲ爲サシメ又ハ意見ヲ交換セシムルヲ利益トス

而シテ政府委員ノ顧問ニ付テハ少クトモ(一)衛生(二)化學(三)慈善救濟(脱)女流慈善家宗教家又ハ教育家中ノ適任者等ヲ包含スルコトハ疑ナキトコロナリ

六、總會ノ會期

總會ノ會期ニ關シテハ何等ノ決定ヲ見サルモ委員間ノ見込トシテハ多分二週間又ハ三週間位ハ繼續スルナルヘク此間各

國ノ資本家、勞働者、社會黨又ハ勞働黨其他專門技術家間ニ於テ頻繁ナル公私ノ會合ヲ見ルヘク想像セラル

七、勞働問題ニ對スル日本ノ急務

目下歐米各國ノ資本家ハ固ヨリ有識階級及勞働者間ニ於テ日本勞働者ノ賃金低ク勞働時間ノ長キコト及工場法其他勞働者ニ對スル公私ノ保護ノ文明國トシテ甚ダ劣等ナル狀態ニ在ルコトヲ指摘シ商工業上我國力恰モ彼等ニ對シテ不正競争ヲ試ミツゝアルカノ如ク論述スルモノアリ而シテ此情勢ハ日々追ヅテ益々甚シカラムトスル今日日本トシテハ此大勢ニ鑑ミ此機會ニ於テ斷然タル改正ヲ工場法ニ加フルハ勿論勞働保護其他ノ保護施設ハ速カニ之カ實行ニ着手スルノ決心ヲ以テ其意図ヲ表明スル必要アルヘク若シ然ラザレハ七月ニ於ル準備委員會及十月ニ於ル總會ニ於ル本邦ノ立場ハ意外ニ困難ナルモノアルヘク又其結果ハ本邦商工業ノ將來ノ發展上却テ不利益ナル影響ヲ來タスヘシト豫期セラル云々

○獨逸ノ勞働同盟加入問題ニ關スル勞働委員會ノ意見(五國會議ヘノ回答)

(五月十七日巴里發電ニ依ル)

獨逸ヲ近々勞働同盟ニ加入セシムヘキヤ否ヤニ付五國會議ヨリ質問アリタルニ對シ勞働委員會ノ名ヲ以テ十五日附要領左ノ通回答文ヲ發セリ

勞働委員會ノ中二三委員ニシテ勞働問題ニ關シ獨逸モ亦他ノ工業的先進國ト同様ノ義務ニ服スル様成ルヘク速ニ勞働同盟ニ加入セシムルヲ可トスヘシトノ意見ヲ渡ラス者アリ委員會トシテモ之ト同感ナリシモ唯勞働聯盟計畫カ國際聯盟ノ一部ヲ成セルニ顧ミ差控ヘタリシカ若獨逸ニシテ相當長期間國際聯盟以外ニ立タシメラルトセハ委員會ハ速ニ獨逸ヲ勞働聯盟ニ加入セシメサルヘカラスト思考ス但シ華盛頓會議以前之ヲ加入セシムルヲ適當トセス蓋シ

(一) 獨逸人目下ノ心理狀態ニテハ此ノ機ヲ利用シ其ノ敵タリシ諸國工業社會各階級ノ間ニ輒轢ヲ惹起セムトスルノ虞ア

(二) 加之獨逸ノ加入ハ他ノ敵國ノ加入ノ問題ヲ惹起スヘク

(三) 且同會議準備委員會ハ聯合國及中立國ノミ會合ノ手筈ニテ此等諸國ヨリ材料ヲ蒐集シツツアルニ當リ今更獨逸ヲ加入セシムルハ徒ニ紛糾ノ因ヲ導クモノナレハナリ

然レトモ華盛頓會議ニハ直ニ獨逸ヲ加入セシムルヲ可トスヘク問題ハ加入條件如何ニ在リ別ニ異リタル規定ナキ限り獨逸ヲ八大工業國ノ一トシテ支配部ニ其ノ地位ヲ與ヘサルヘカラナルヘシ

尙最高會議ニ於テ右ノ如キ加入ニ異議ナカラソカ華盛頓會議ノ採用スヘキ建議案及協約案ハ獨逸政府ニ送附スヘキモノナルヘシ

正八年七月五日調

## 千九百十九年巴里講和會議ノ經過ニ關スル調書（其九）

（自五月十六日至同月三十一日）